

国立国語研究所学術情報リポジトリ

Field research project to analyze the formation process of Japanese dialects : E-mail-based survey of dialect distributions

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2020-03-18 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: メールアドレス: 所属:
URL	https://doi.org/10.15084/00002625

方言の形成過程解明のための全国方言調査 方言メール調査報告書

大西拓一郎・鏝水兼貴
三井はるみ・吉田雅子

2011年3月



大学共同利用機関法人 人間文化研究機構

国立国語研究所

National Institute for Japanese Language and Linguistics

まえがき

本書は、国立国語研究所が独立行政法人時代に行った「方言メール調査」の報告書である。現行のプロジェクトとの関係は、後述する。

「方言メール調査」は、事務的・行政的には独立行政法人としての研究所第2期中期計画の研究テーマ「国民の言語行動・言語意識・言語能力に関する調査研究」の中の「全国規模の「ことば」情報の収集・分析」に位置付けられるもので、この課題に対して「「ことば」情報全国ネットワークとして、各地の中核的研究者から構成される「全国方言調査委員会」を組織し、(…中略…)全国方言調査委員の協力のもと、メール調査を試験的に実施する(…後略)」のように記録されているものに該当する(平成19年度外部評価報告書)。

大西の研究者としての立場から記すと、この調査を通して行いたかったことはふたつあった。ひとつは、研究者を核に据えながらネットワークを介したデータを共有化することの実現に向けた試行である。これについては、かつて大西(2002)「全国型資料と調査の課題—Jdnet 構想—」『方言地理学の課題』(明治書院)として論文化したことがあった。もうひとつは、新たな方言分布データの獲得方法の開発である。方言の分布データを新たに得るのは非常に時間・手間・予算がかかる。もし、メール調査という手法でこれを得られるなら効率的かも知れない。しかし、当然のことながら、そのデータの質は問われる。

「方言メール調査」は、おもに上記研究テーマのもとで組織した「全国方言調査委員会」の各委員に協力してもらい、大学等での授業時に調査を説明した用紙を受講している学生に配布し、配布された学生には電子メール(携帯メールを含む)で回答してもらうことで実施した。この「全国方言調査委員会」は、ほぼすべてのメンバーが、現在の共同研究プロジェクト「方言の形成過程解明のための全国方言調査」の共同研究者である。なお、この調査では、一度協力した際に事後の調査への協力に承諾した協力者には、継続的に協力依頼のメールを送信することにしている。

調査の実行にあたっては、事前に次のような活動も行った。

- ・国立国語研究所公開研究発表会での用紙の配布(2006年12月、この発表会の全体テーマは「方言文法の全国分布と全国方言調査の将来像」で、その年の3月に全巻完成をみた『方言文法全国地図』の刊行を記念するものであった。)
- ・大修館書店メールマガジン「メルマガげんごろう」での依頼事項の記載と発信(2006年11月、この時期にたまたま大修館書店のメールマガジンへの執筆依頼を受けたことから、その活用を試行してみたものである。)
- ・富山大学人文学部中井精一先生の協力による試験的調査の実施(2007年5月)
- ・中央大学文学部(当時、大西が非常勤講師を勤めていた)での試験的調査の実施(2007年5月)

調査結果を自動的に受信してデータベース化するシステムを鎌水兼貴が組み上げるなどして、2007年12月に本格的な研究体制が整った。調査は2007年冬、2008年夏、2008年冬の合計3回、50項目実施した。のべ協力者数は1000人近くにのぼる。なお、2008年度からは、鎌水がこの調査を主体的にリードしており、本報告書も分担執筆するとともに、鎌水が中心になって、編集を推進した。

調査結果は、大西拓一郎・三井はるみ・鎌水兼貴・吉田雅子が分担して整理し、簡単な

解説を執筆の上、分布図とともに web 上でこれらを公表してきた。本報告書は、それをベースとするものである。

ところで、本研究においては、肝心のデータの質の検証まではなかなか手が回らなかった。調査の性格上、アンケート形式を採らざるをえないため、どうしても面接とは異なり、十分には言語データが引き出せなかったことは事実である。これは事前に予測されたことではあったが、実行してみると身にしみて感じるところであった。

また、調査実施・データ収集・分析・公表という流れが、なかなかスムーズに進まなかった点も問題点として指摘されるであろう。ある程度の自動化を組み込んでも、結局、最後は人間の仕事であることを、これまた実感することになった。大西のリーダーシップが問われるところである。

現在進行中のプロジェクト「方言の形成過程解明のための全国方言調査」は、冒頭に記した独立行政法人時代の課題を引き継ぐものではあるが、現行のプロジェクトの中で、この「方言メール調査」を再開することはないはずだ。大きな予算を要しないという最大のメリットをいくら主張したところで、学術的価値を正面から問われるなら、どうしても疑問が残ってしまうからである。独法時代の最後にわずかにかいまみせた国語研の方言研究としては珍しい動きとして記録されるかもしれない。

2011年3月
大西拓一郎

目次

まえがき

解説

1. メール調査システム 1

2. 調査概要 2

地図一覧 6

語形の統合 60

付録（説明用紙） 71

1. メール調査システム

本研究では、調査回答を電子メール（以下、メール）を通して自動的に収集した。そのために、データ収集を自動的に行うためのシステムを開発した。システムは、Linux サーバー上で動作するもので、スクリプト言語 Perl によって作成されている。メールサーバーは、国立国語研究所のサーバーを用いた。

以下に、メール調査の全体の流れを、メール調査システムの動作を中心に時系列順に示す。

- ① 【調査準備（人による作業）】メール調査に必要な情報（メールサーバーの情報や、アンケート項目と各項目の属性、自動返信用の文面など）を登録する。また、各大学等において調査用紙を配布する。
- ② 【メール取り込み】プログラムは、一定時間おきに（任意指定。初期状態は 10 分間隔）にメールをチェックし、新規メールがある場合には、指定したフォルダに取り込む。
- ③ 【メール解析】取り込んだメールを解析する。指定した件名（「方言メール 2007 冬」など）と一致した場合、本文データをアンケートフォームと判断して自動解析の対象とする。ヘッダ部分から送信アドレスを判断し、御礼メールを自動返送する。
- ④ 【フォーム解析】メール本文であるアンケートフォームの解析を行い、項目ごとに切り分けた形のデータとして蓄積する。
- ⑤ 【住所→経緯度変換】住所情報とされた質問については、東京大学のサイト「シンプルジオコーディング実験¹」を利用して、住所を緯度経度情報に変換し、元データに付加する。③での解析失敗や、住所の誤入力・余分な情報の付加などにより、正しい住所が得られなかった場合には、同サイトの「CSV アドレスマッチングサービス²」を用いて手動変換をする。
- ⑥ 【調査終了】指定した期日を越えた場合に、メール調査を終了する。
- ⑦ 【修正・分析（人による作業）】データ修正と、見出し語の決定、GIS ソフト(SIS)を用いた言語地図の作成、解説の作成。地図と解説を WEB サイトにアップロード。
- ⑧ 【結果公開】メールによる情報提供者（以下、情報提供者）に WEB サイトを告知し調査結果を公開するとともに、継続調査の希望について問い合わせる。
- ⑨ 【継続希望者登録】継続希望者を登録する。情報提供者が指定した件名（ここでは「登録希望」）のメールを送ってきた場合、送信者のアドレスが自動登録され、次の調査案内メールが届くようになる。
- ⑩ 上記以外の件名のメールが来た場合には、エラーメールとして管理者に通知が届く。

①と⑦以外の処理は Perl プログラムによって自動的に行われる。また、このシステムは調査回答の収集が主であるため、質問の手段は特に定まっていない。紙による質問用紙の配布、メールによる送信、WEB 上での入力と、さまざまな方法が取られた。

¹ <http://newspat.csis.u-tokyo.ac.jp/geocode/modules/simple-geocode1/> (2011/2/10 現在)

² <http://newspat.csis.u-tokyo.ac.jp/geocode/modules/csv-admatch0/> (2011/2/10 現在)

2. 調査概要

(1) 日程

3回のメール調査の実施日程を以下に示す。3回とも大学の休暇前となり、データ収集が難しい時期の調査になってしまった。

第1・2回調査は、開始から終了まで約40日間であるのに対して、第3回調査がその倍以上時間がかかっているように見えるが、後述するWEB版の回答用サイト開設が遅れたためである。説明用紙版（後述する調査用紙の配布に基づくデータ収集）は40日程度で収集が終了している。

第1回調査

2007年11月21日 サーバー 運用試験開始
2007年12月10日 第1回調査 調査開始（説明用紙版：調査用紙の配布に基づくデータ収集）
2007年12月14日 サーバー 本格運用開始（完全自動化）
2008年01月18日 第1回調査 調査締切（40日間）

第2回調査

2008年07月08日 第2回調査 調査開始（説明用紙版）
2008年07月09日 第2回調査 調査開始（PDF版：PDFファイルの提示に基づくデータ収集）
2008年07月11日 第2回調査 調査開始（電子メール版：メールの配信に基づくデータ収集）
2008年08月15日 第2回調査 調査締切（39日間）

第3回調査

2008年12月22日 第3回調査 調査開始（PDF版）
2009年01月05日 第3回調査 調査開始（説明用紙版）
2009年02月20日 第3回調査 調査開始（WEB版）
2009年03月17日 第3回調査 調査締切（86日間）

(2) 説明用紙

調査は、基本的には印刷した「説明用紙」を大学等で調査協力者に配布し、回答を所定のフォームのメールで送信してもらった。

説明用紙は、調査説明と調査項目からなる。調査説明は、依頼文や、調査の趣旨、回答フォーム等について書かれている。説明用紙については、付録の「説明用紙」を参照のこと。

調査項目は、第1回調査が10項目、第2・3回調査が20項目である。このほか情報提供者の属性項目として、生年、性別、言語形成期における生活地、転居回数、現住地の5項目を尋ねた。

第1回調査は、説明用紙の配布だけであったが、第2回以降は他の方法が必要となったため、以下の3つの方法をもちいた。

- ① 印刷した説明用紙を配布（第1～3回）：説明用紙版
 - ・ 国語研究所から説明用紙発送
 - ・ 全国方言調査委員会の委員（以下、委員）が各自PDFファイルを印刷して配布
- ② テキストをメールで送付（継続希望者・第2回）：電子メール版・PDF版
 - ・ 画像は添付ファイル

- PDFファイルもダウンロードできるように国語研究所のWEBサーバー上にPDFファイルをアップロードし、アドレスをメールで指定（第3回も）
- 携帯宛の場合は3通に分割

③ WEBの入力フォームにより回答（継続希望者・第3回）：WEB版

- ②と同様の方法で、PDFファイルをダウンロードすることもできる。
- IDとパスワードによりアクセス管理
- 回答はメールを介さず直接サーバー内に蓄積

第2回調査は、第1回終了後に登録した継続希望者も対象としたが、メールアドレスしかわからないため、印刷した説明用紙を配布できず、メールによって質問文を送信した。PDF版の説明用紙の添付はファイルサイズの都合で行わずに、かわりにテキスト版の説明用紙を新たに作成した。テキストファイルは、書式の自由度が低いため、見やすく作り変えた。相手が携帯メールの場合には、画面の大きさから、長文で読みづらくなならないよう、本文を三分割して送信した。

しかし、三分割でも依然として長文であり、携帯電話利用者に負担を強いることとなたため、第3回調査での継続協力者は、WEBのフォームによる調査を行った。調査ページは継続利用者のみがアクセス可能とし（IDとパスワードによって制限）、調査結果もメールするのではなく、直接サーバー内に蓄積した。

(3) 回答者数

説明用紙は多くが各委員によって、大学等の授業時に配布され、電子メール（携帯メールを含む）で回答してもらった。

表は、説明用紙の配布数と回答者数を示したものである。第1回と第2回は、調査時期の関係で回答者数が第3回目より少なかった。

第3回調査では、説明用紙のPDFファイルを各委員が印刷して配布することも可能にしたため、配布枚数の総数は把握しなかった。各委員の裁量で調査ができたこともあり、回収数は第1回・第2回の調査と比較して3～4倍と、大幅に増加した。

継続希望者の登録数は、第2回・第3回とも変わらなかったが、登録者の回答率はどちらも5～6割と高かった。

		第1回	第2回	第3回
説明用紙配布数	各委員あて	1335枚	約1600枚	約800枚
	その他	追加印刷分の配布が若干あり	委員によるPDF印刷が若干ある	委員によるPDF印刷が多い
総回答者数		179	131	664
登録者数			42	42
登録者回答数			21	25

表1・第1～3回調査 回答者数

第1～3回の回答メールの日ごとの推移のグラフを以下に示す。第3回についてはWEB版の回答の推移も示す。第1回・第2回と比べて第3回は少ない日数で集まっている。第3回調査は調査時期が授業期間と重なり、大教室の授業で調査ができたためと思われる。

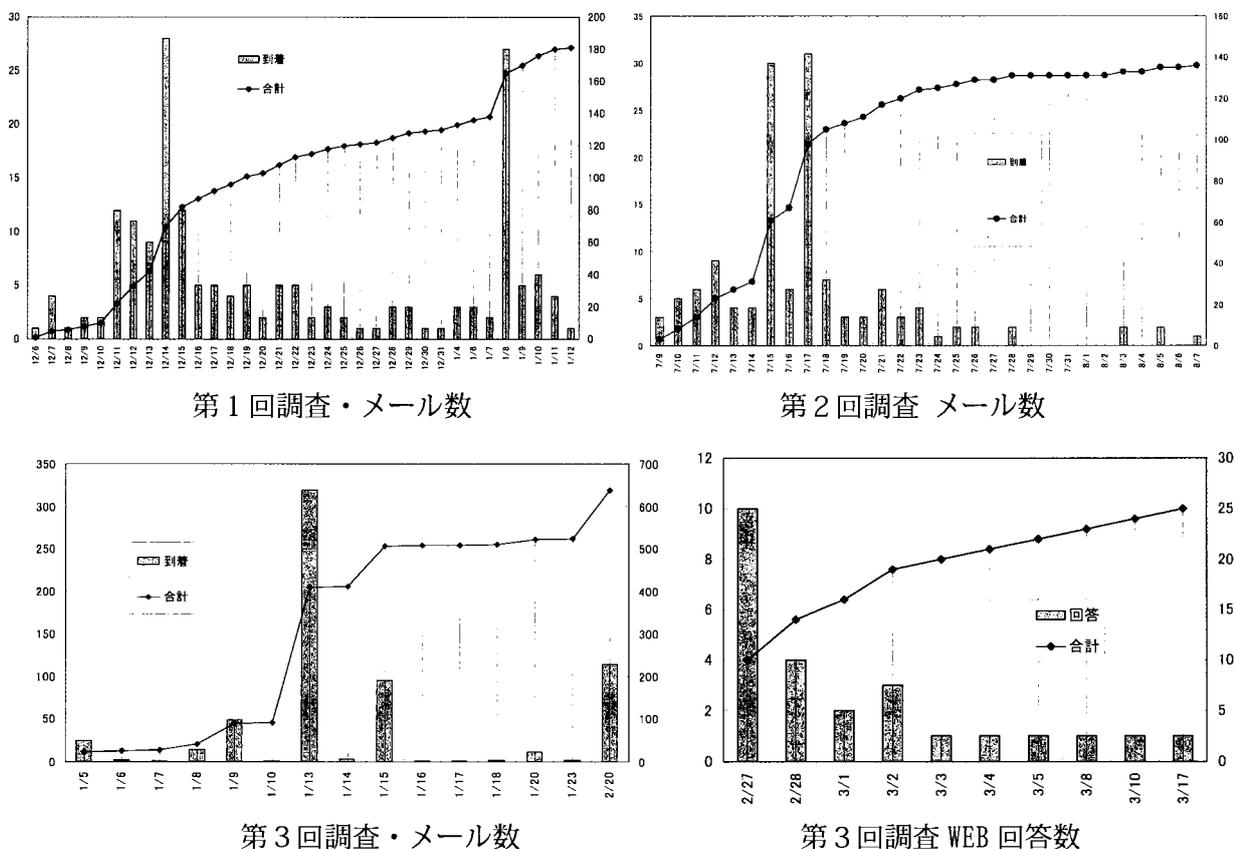


図1・回答メール数・WEB 回答数の推移

(4) 情報提供者属性

情報提供者の属性について、第1～3回調査の生年、性別、転居回数の集計表と、生年構成のグラフを示す。調査協力者は主に学生であるが、中には中高年層も一定数含まれている。本報告書では全員のデータをそのまま地図化しているため、結果の中に年齢差が含まれている可能性もある。この点は注意が必要である。第3回は学生の人数が大幅に増加したことで調査者の平均年齢は大きく下がったが、大学生中心の年齢構成はどの回も大差ない。

性別は、第1回・第2回は女性の比率が著しく高かった。第3回調査では、性別の偏りも改善され、むしろ男性の方が多くなった。

また、転居回数については第1～3回ともに生え抜きが多数を占めていた。

(5) 調査結果の公開と通知

調査の結果は、地図に解説を付してWEBに上げ、情報提供者に通知し、閲覧に供した。以下の地図一覧ならびに語形の統合は、それに基づくものである。

生年	第1回	第2回	第3回
平均	1985.3	1984.9	1988.1
最年長	1936	1942	1959
最年少	1990	1989	1990
中央値	1988	1987	1989

転居回数	第1回	第2回	第3回
平均	0.36	0.32	0.39
5回	0	1	1
4回	2	1	7
3回	1	3	18
2回	7	5	35
1回	23	29	96

性別	第1回	第2回	第3回
男	29 21.3%	53 29.6%	371 56.6%
女	106 77.9%	125 69.8%	284 43.4%

表2・第1～3回調査 調査協力者属性

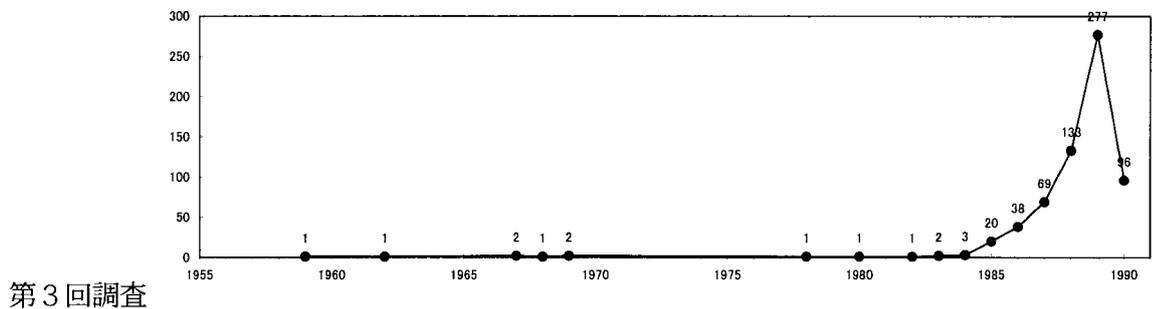
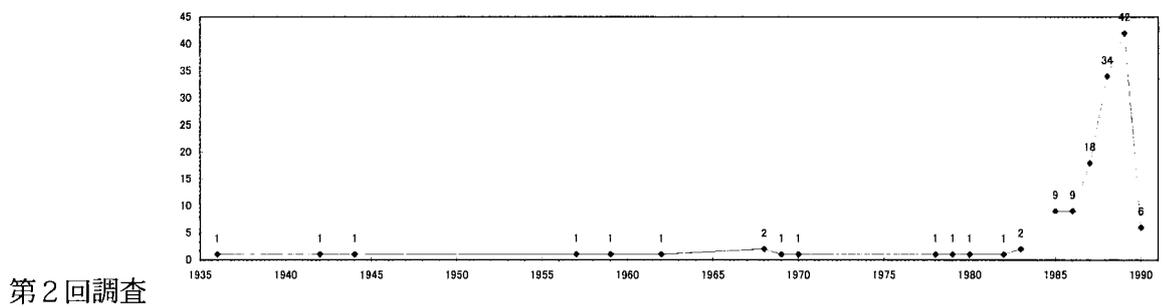
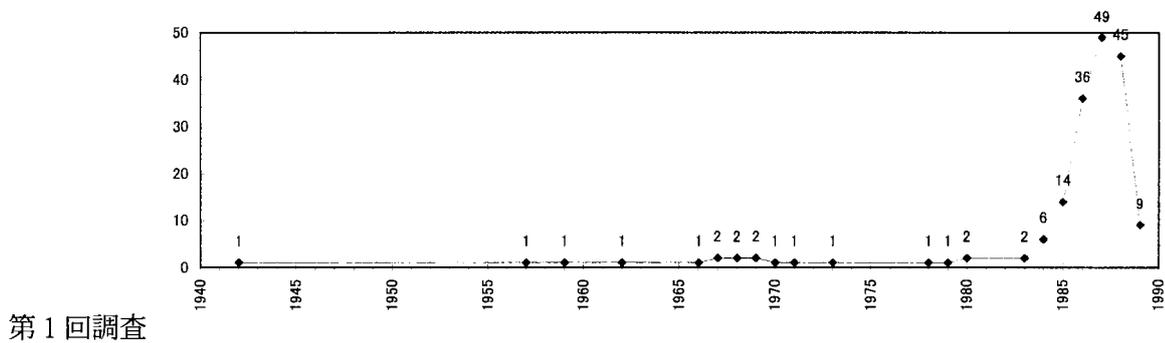


図2・年齢構成

地図一覧

第1～3回の結果を、言語地図で示す。地図の作成には、インフォマティクス社のGISソフト「SIS v7.0」を使用した。

項目数は50であるが、一部の項目で複数の地図を作成しているため、地図の総枚数は53である。

各地図の上には地図名と質問文脈、調査時の選択肢を提示している（調査時に絵を用いた項目ではその絵も掲げた）。また、それぞれの地図には解説を付している（執筆者名等は各解説の末尾に記載している）。解説は情報提供者向けに書いたものを掲載しているため、文体は「です・ます体」にしている。

地図の見出しは、報告された回答語形を統合したものである。地図一覧に続いて、語形の統合の一覧を示した。

《地図目次》

第1回調査

1. (書か)ない
2. 捨てる
3. (花に水を)やる
4. (人が)いる
5. 舌
6. (行か)なかった
7. (良い天気)だ
8. 高くなる
9. 起きろ
10. (親戚にこの本を)やる

第2回調査

11. 鳩尾 (みぞおち・みずおち)
12. 踝 (くるぶし)
13. 心臓かゆい
14. メールを作成する
15. いくら
16. 見ない
17. 見ろ
18. 行こう
- 19-1. 行かないでおこう(その1)
- 19-2. 行かないでおこう(その2)
20. 行くまい
21. 行ってもらいたい
22. やってもらいたくない
23. 感謝のことば
24. 朝のあいさつ
25. 外出時の挨拶
26. 帰宅時の挨拶
27. 食前の挨拶
28. 食前に手をあわせるか
29. 食後の挨拶
- 30-1. 食後に手をあわせるか
- 30-2. 食前・食後に手をあわせるか

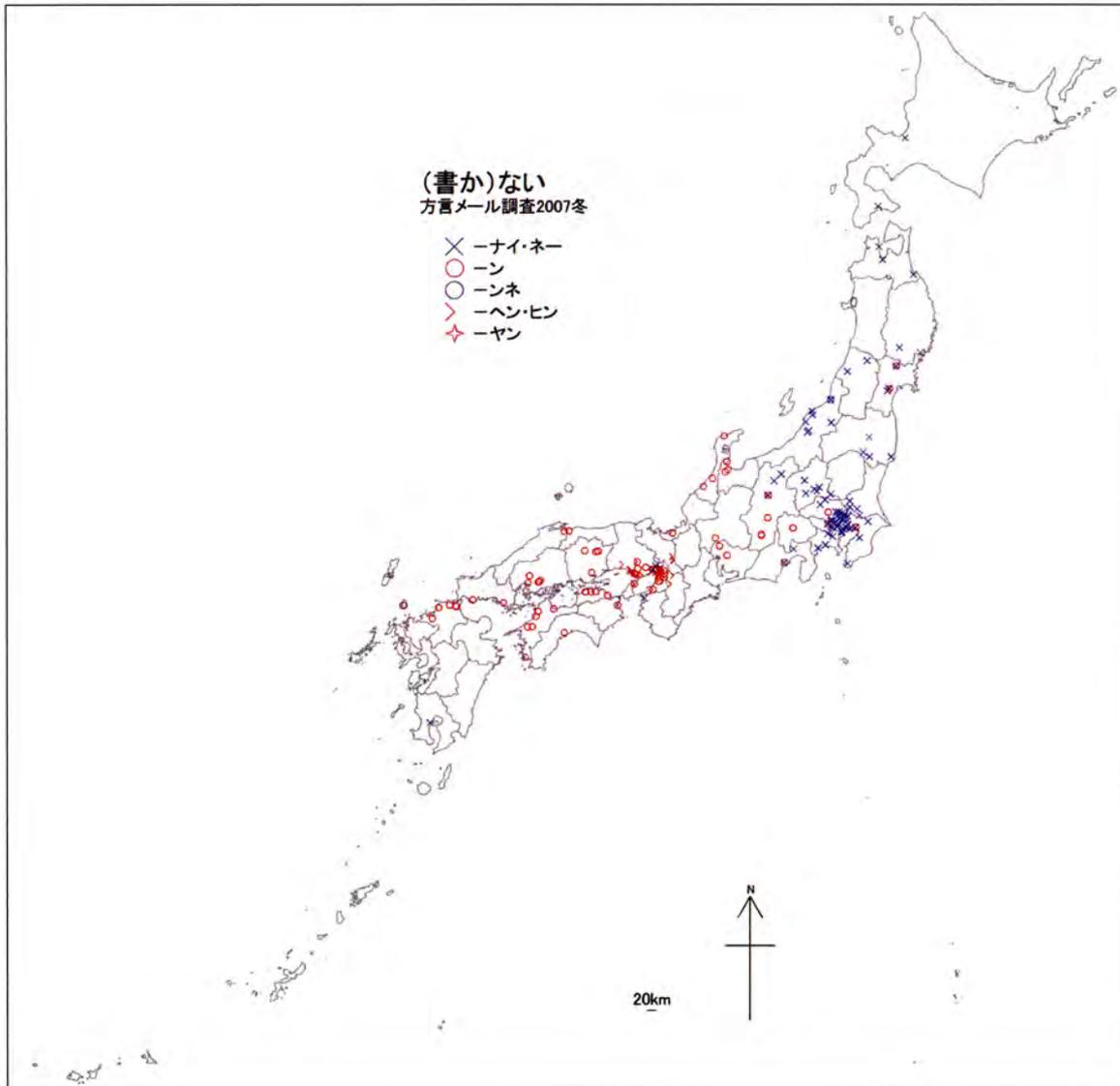
第3回調査

31. しあさって
32. 塩の味
33. 塩の味が足りない
34. 梅干しの味
35. レモンの味
36. おもしろい
37. おもしろくない
38. (東の方)へ(行け)
39. (早く学校)に(行け)
40. (犬)に(追いかけられた)
41. (雨が降っている)から
42. (雨が)降れば
43. 行っては(いけない)
- 44-1. 休まなければ(ならない)
- 44-2. (休まなければ)ならない
45. 着ることができる
46. 起きることができる
47. 教えることができる
48. 着ることができない
49. 起きることができない
50. 教えることができない

1. (書か)ない

自分は手紙を書かない

〈カカナイ・カカン・カカヘン〉



分布の解説

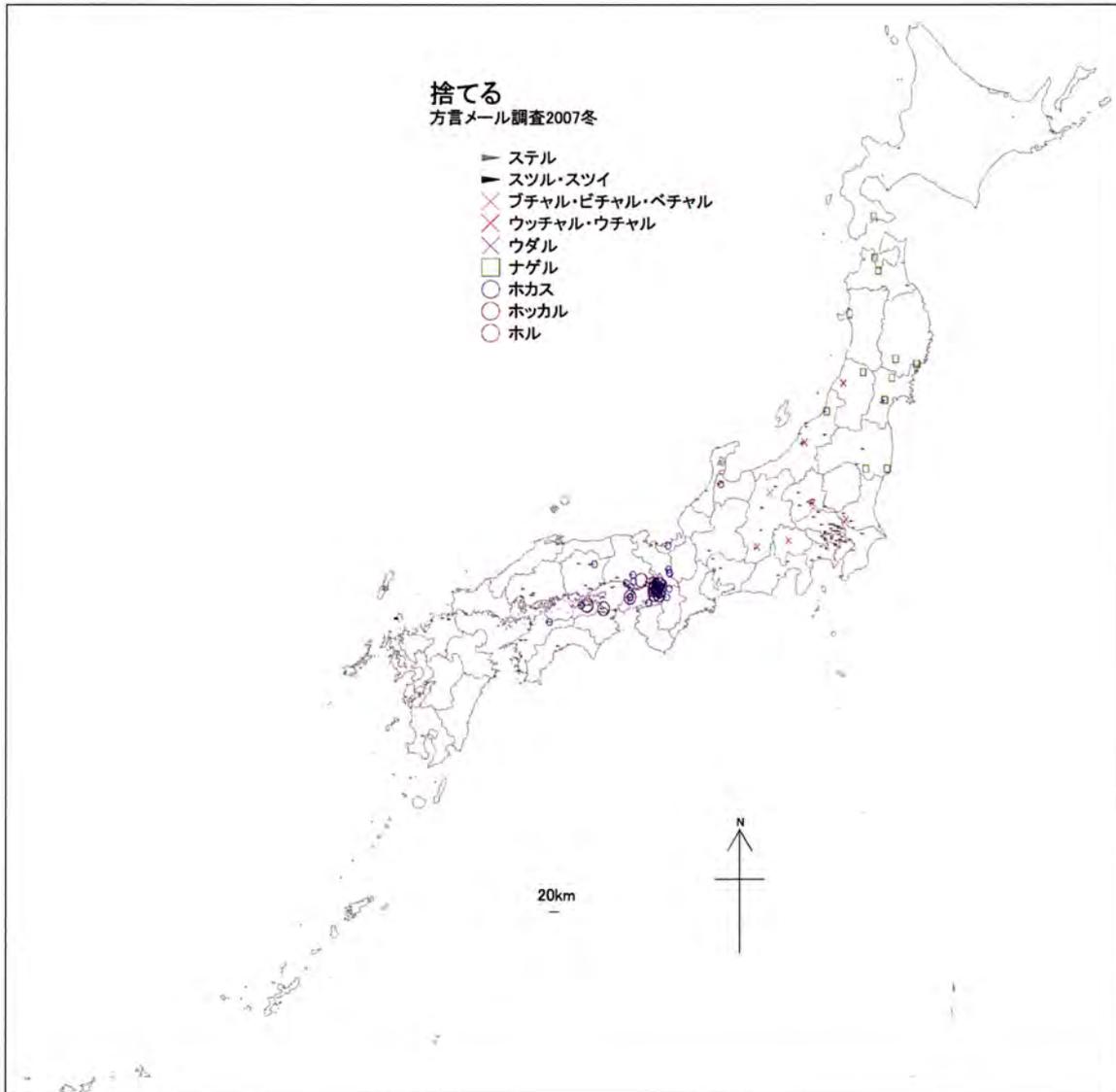
「書かない」の「ない」のような動詞の否定形式の分布が注目点です。動詞の否定形式は、古くから、東日本ではナイ、西日本ではンのように、東と西で語形が対立し、分布領域もきれいに分かれることが知られています。また、近畿地方の中心部では、ヘンやヒンのような形が用いられますが、これらは「書きはしない」の「しない」にあたるセンに基づくものです。以上に関して、今回の調査でも、東と西の対立の様子や近畿中央部のヘン・ヒンの顕著な分布が見えています。一方で、近畿に一箇所ヤンが報告されており、これは「見る」「起きる」など一段活用の動詞に接続するヤンが「書く」のような五段活用の動詞に用法が拡張したものかも知れません。また、新潟にンネが見られますが、東のナイと西のンの混ざり合ったもの、あるいは他の動詞への類推などから発生したものであることなどが考えられます。以上のほかに東日本で少なからずンが報告されていますが、これについては、一時的なものなのか、さらに拡張が進むのか、今後の動向が注目されます。

(大西拓一郎)

2. 捨てる

ごみを捨てる

〈ステル・ホカス・ナゲル・ブチャル〉



分布の解説

共通語形であるステルが広く分布していますが、地図を見ると、地域ごとに様々な方言形が用いられています。関東地方から甲信越にかけては、「打ちやる」が語源とされるウツチャル・ウチャルやブチャル・ピチャル・ベチャルが分布しており、さらに変化したと思われるウダルという形で山形県庄内地方まで広がっていることがわかります。

一方、関西地方を中心として「放る」とその変化した形が分布しています。近畿地方ではホカス(小さな青い円形記号)という形に変化しており、近畿地方の周辺には、元の形とされるホール・ホル(大きな円形記号)、ホツカル(富山県の小さな円形記号)が分布しています。従来、ホカスの勢力範囲は近畿地方にとどまっていたのですが、周辺地域へ広がっているようです。

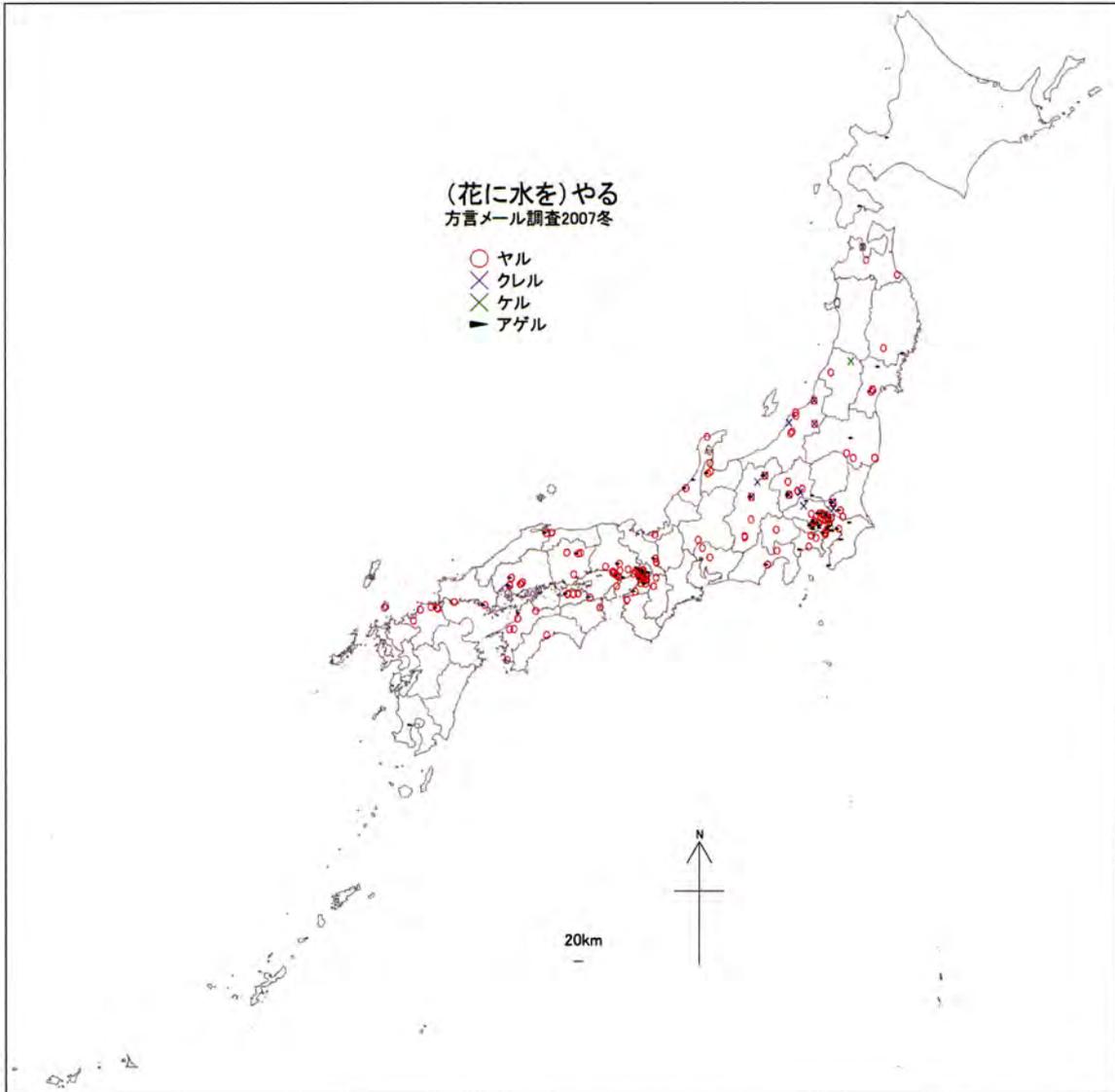
東北地方では広い範囲でナゲルが使用されています。また、九州地方には「捨てる」の古い二段活用形式であるスツルの回答も見られます。

(鎌水兼貴)

3. (花に水を) やる

花に水を やる

<ヤル・クレル・アゲル>



分布の解説

いわゆる「やり・もらい」(授受表現)の「やる」の分布が注目点です。かつては、東西に分かれてクレルが用いられていたことが知られています。この質問文は、植物に対して水を与えるということで授受表現としては限定的な文脈になっています。

ヤルは全国に広く分布します。アゲルは北海道、関東、近畿に多く見られます。

クレルは関東周辺部、長野、新潟に見え、クレルの変異形ケルは東北地方に見られます。動作主から離れる方向(遠心的方向)で用いられるクレルは中央語の歴史の中でも古い言い方です。現在、クレル、ケルを使うところでは、他にヤルやアゲルを併用するところも見取れます。

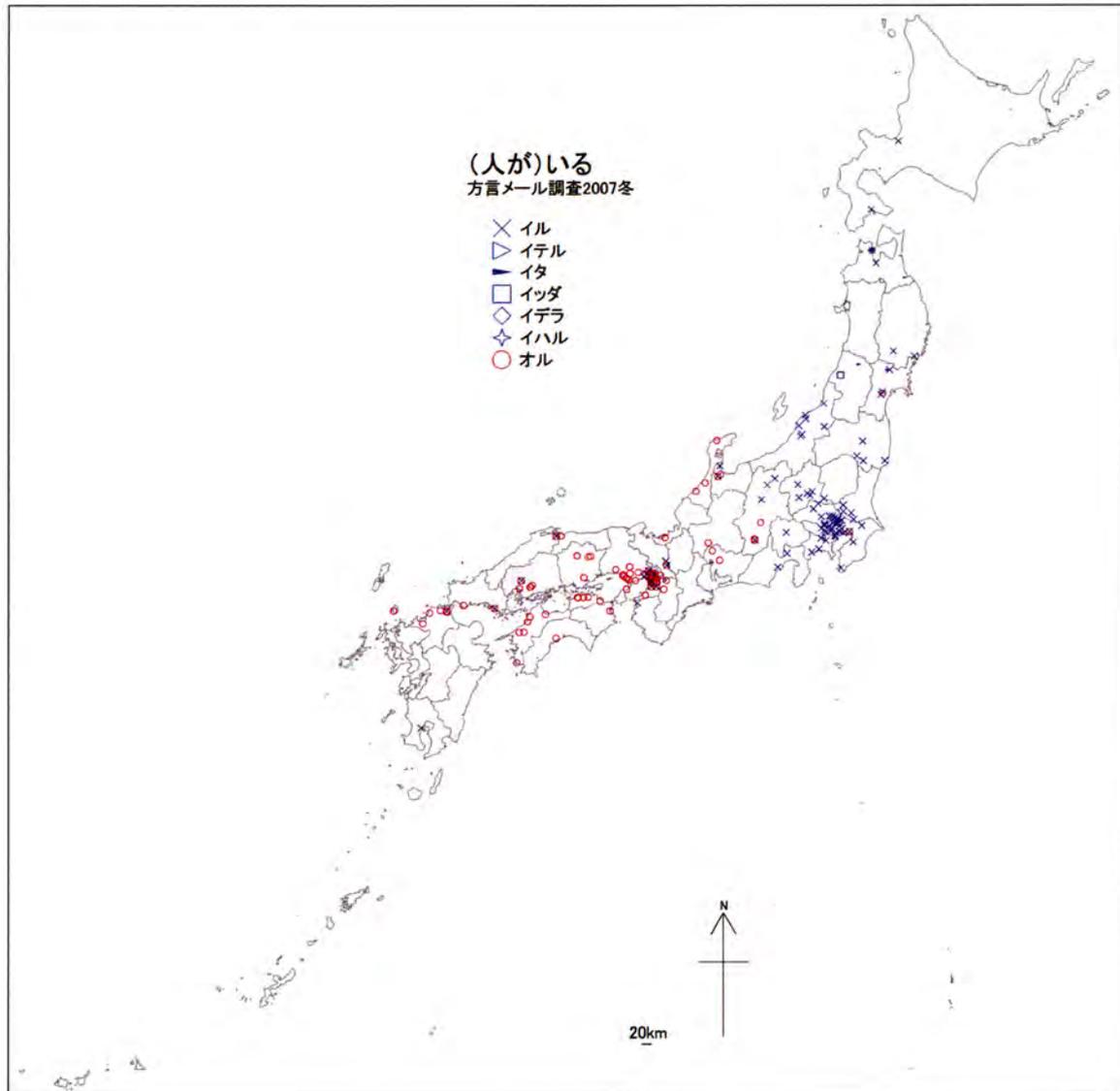
10 「(親戚の子供にこの本を)やる」も関連する項目ですので、そちらも合わせて御覧ください。

(吉田雅子)

4. (人が) いる

あそこに人が いる

〈イル・オル・アル〉



分布の解説

人を主体とした場合に、その存在をどのような動詞で表現するのが、第一の注目点です。東日本では共通語形のイルが用いられ、西日本のオルときれいに東西で分布が分かれることが古くから知られていました。今回の調査でもそのような東と西の対立的分布が見えています。同時に、近畿の中央部でもイルが用いられていることに注意しておきたいところです。東日本には、イルが広く分布するのですが、特に東北では、単純なイルという形だけではなく、イタや「いていた」に基づくと考えられるイッダ・イデラも見られます。これも注目点の一つです。これらの形は過去形的ですが、存在を表す「いる」においては、現在のことを表すことが知られています。近畿は記号が混み合っていて見づらいなのですが、その中にあるイテルは「いている」に基づきます。存在を表す動詞は、動詞そのものの異なりとともに、現在・過去といった時制(テンス)、あるいは、継続・結果といった相(アスペクト)とどのように組み合わせて使われるのが、興味深いところです。

(大西拓一郎)

5. 舌

口の中の 舌が痛い

〈シタ・ペロ・ヘラ〉



分布の解説

シタとペロが全国的に分布しています。共通語はシタですが、ペロも辞書で「俗語」「口語」などと扱われるように、古くから両方の語形が使用されてきたようです。しかしペロは「ペロペロなめる」というように擬音語を元に行っていると考えられているため、幼稚なイメージもあって、以前から公的な場面では用いにくかったと思われます。

また、舌の形がへらに似ていることや、ペロとへらの音が似ているため、へら・べらという語形を使用する地域もあります。中部地方ではへらという回答が、四国地方ではべらという回答が見られます。

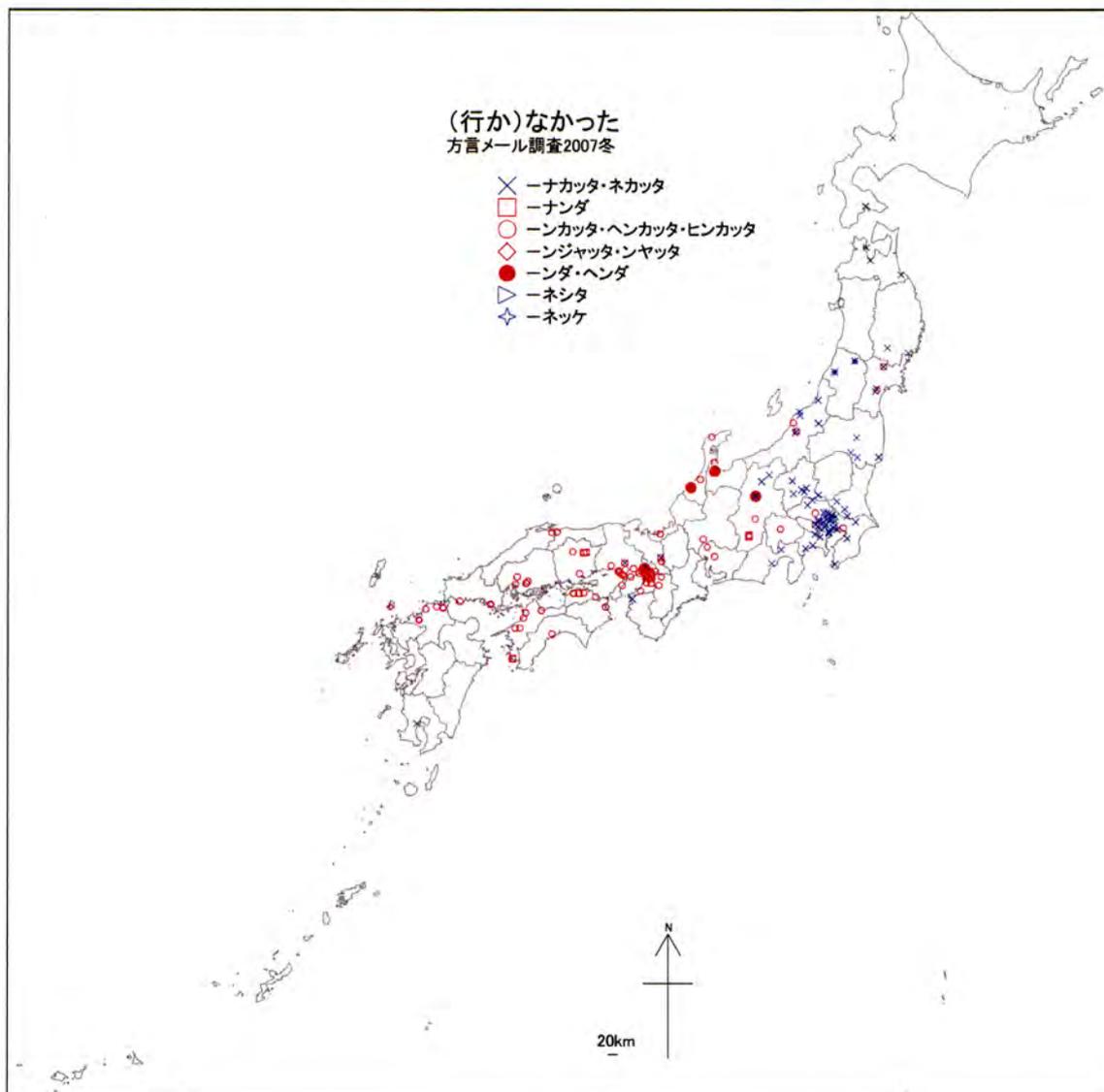
東京から東海地方にかけての、シタとペロが隣接していたり、シタとへらが隣接している地域では、両者を組み合わせたシタペロ、シタべらという言い方も見られます。

(鎌水兼貴)

6. (行か)なかった

昨日は学校に 行かなかった

〈イカナカッタ・イカナンダ・イカンカッタ・イカザッタ〉



分布の解説

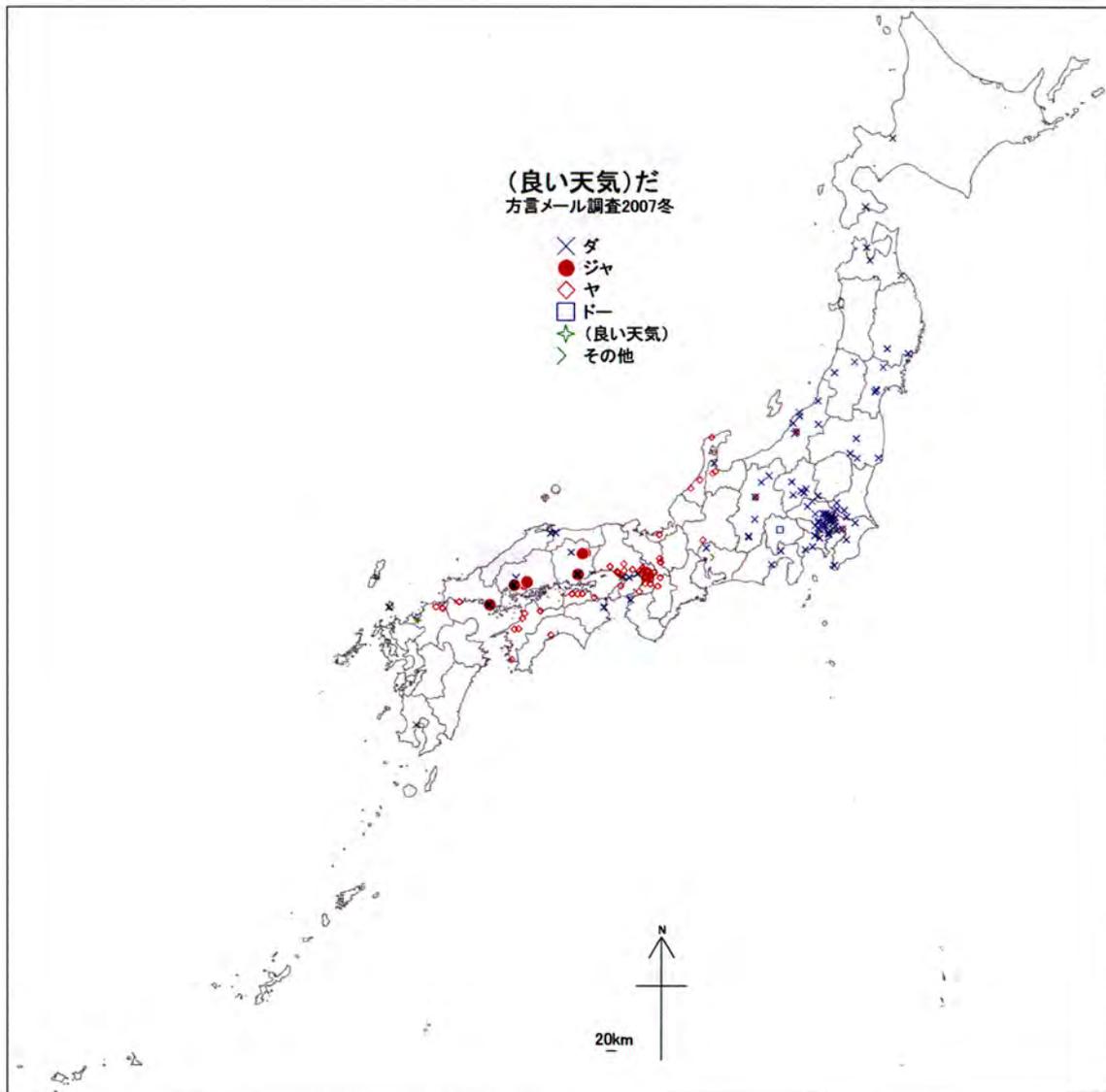
1 「書かない」のところで記しましたように動詞の否定形式は、東日本のナイ、西日本のンのように対立的な分布を示します。それに対し、その過去形は形も分布も、ちょっと複雑です。かつては、近畿を中心に、東で中部、西は中国・四国の東半まで、ナンダが広く分布していました。実際、ナンダは書きことばにも使われる標準的な形だったことが知られています。今回の調査でも、ナンダは確認できますが、全体にかなり衰退していると考えられます。そして、それにとって代わったように現れている形は、ンカッタ・ヘンカッタ・ヒンカッタ(以下ではンカッタ類と呼びます)です。西日本全域で見られるとともに東日本にもかなり広がっていることが分かります。一方、凡例のンジャッタ以下、ネツケまでは伝統的な方言形です。これらは、分布領域も、従来から知られている範囲から大きく外れていません。これらの伝統的方言形が将来どのようになるのか、また、勢力拡大を見せるンカッタ類の今後など、継続的に見ていくことが求められます。

(大西拓一郎)

7. (良い天気)だ

今日は良い天気 だ

<ダ・ジャ・ヤ>



分布の解説

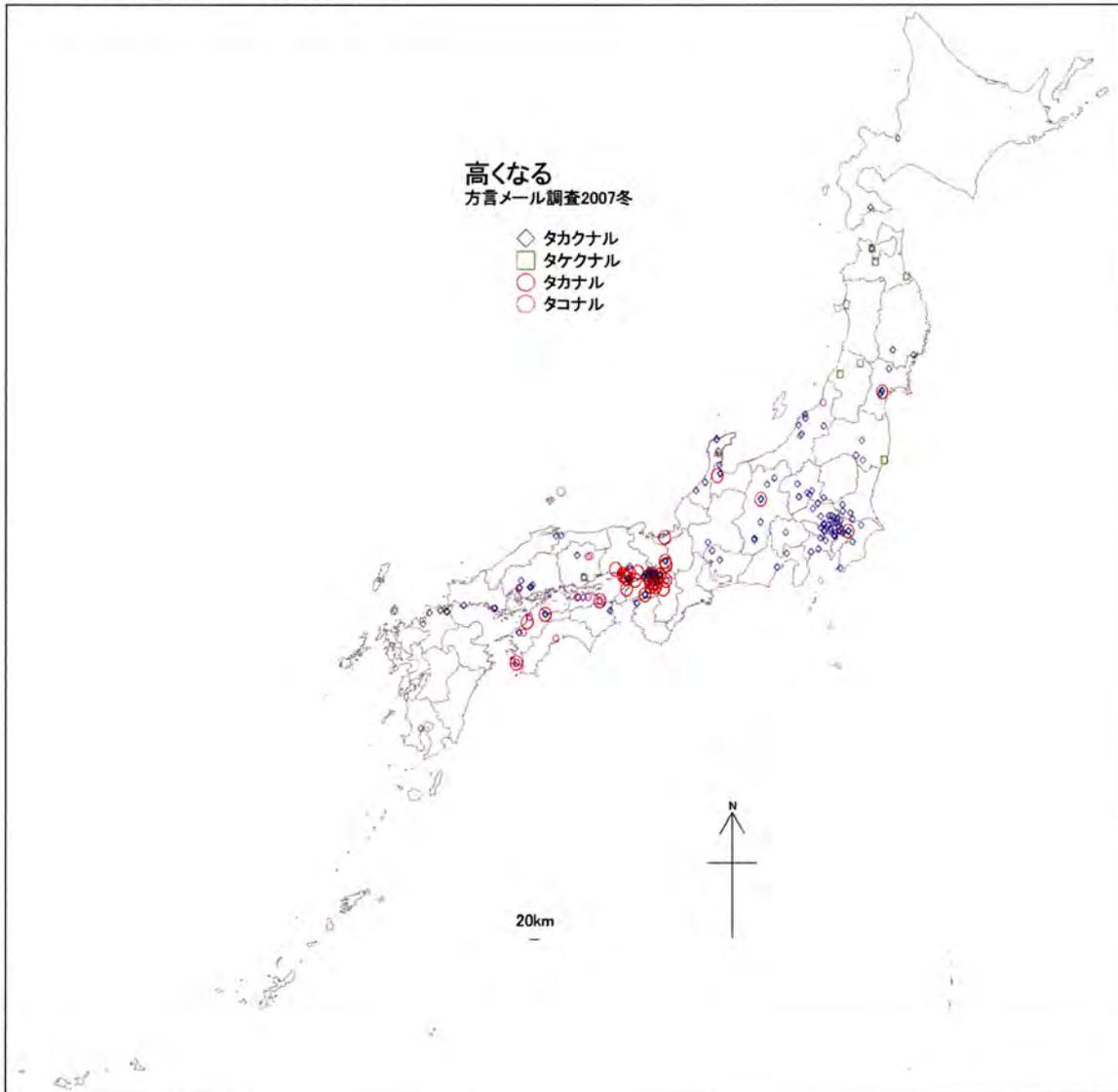
「今日は良い天気だ」という時の、「だ」にあたる部分(断定の助動詞, 断定辞)をどのように言うか, という地図です。ダが東日本, ジャ・ヤが西日本の言い方で, 日本全国が大きく二つに分かれることが知られており, 地図からもこの傾向を見て取ることができます。ただよく見ると, ダは, 近畿以西の西日本でもある程度使われています。このうち, 山陰地方のダは, 古くから使われているものですが, その他は, 共通語の影響と考えられます。また西日本では, かつてよりヤの分布域が広がっている中で, 山陽地方ではジャが有力です。ヤはジャから変化して生じた語形ですが, 山陽地方ではヤへの変化が進行していないようです。この他, 福岡県西部では, 「だ」にあたる部分を言わずに, 「～天気。」と言い切ったり, 「～天気ヤン。」のような別の表現による回答がありました。断定辞を用いないという, この地域の方言の特徴が現れているものと見られます。

(解説:三井はるみ, 地図作成:大西拓一郎)

8. 高くなる

物の値段がだんだん高くなる

〈タカクナル・タケクナル・タコーナル・タカナル〉



分布の解説

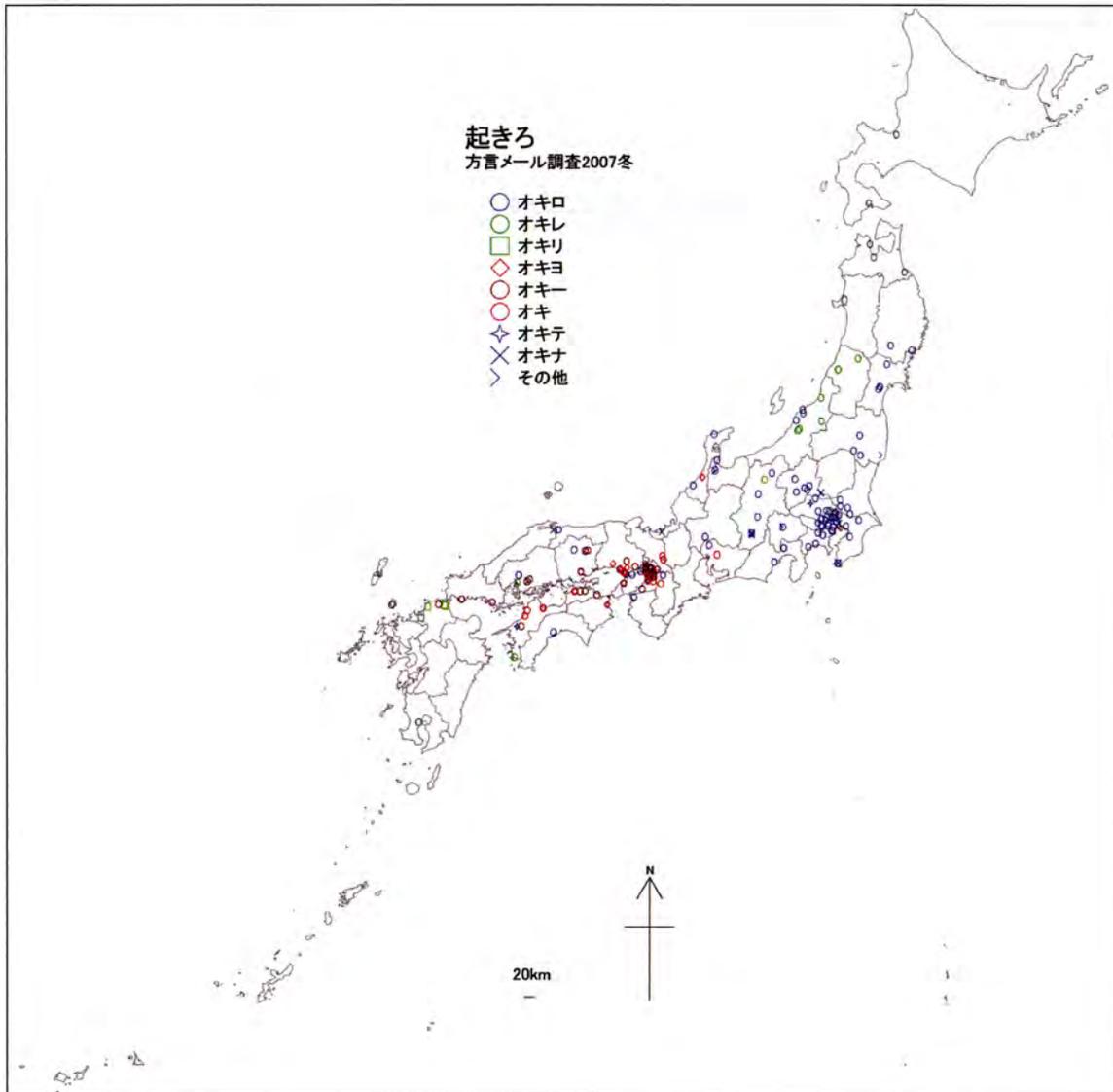
形容詞の連用形は、タカクナルのような非音便形が東日本、タコーナルのようなウ音便形が西日本の言い方で、日本全国が大きく二つに分かれることが知られており、地図からもこの傾向を見て取ることができます。東日本ではタカクナルの他に、東北地方にタケクナルが見られます(岡山にも1地点見られます)。タケクナルは、タカクナルから変化したもので、この地域の終止形タケーが語幹として取り込まれて生じたと言われてています。また西日本では、タカウナルから連母音の融合によって生じたウ音便形タコーナルとその短母音化したタコーナル(地図では小さい円形記号)よりも、タカナル(大きい円形記号)が目立ちます。『方言文法全国地図』第139図「高くなる」では、タカナルは、近畿地方の周辺部に分布するだけで、中央部には見られませんでした。この地図では、近畿中央部の回答のほとんどがタカナルであり、大きな変化が起こっていることがわかります。

(解説:三井はるみ, 地図作成: 鐘水兼貴)

9. 起きろ

明日は早く 起きろ

〈オキロ・オキレ・オキヨ・オキー〉



分布の解説

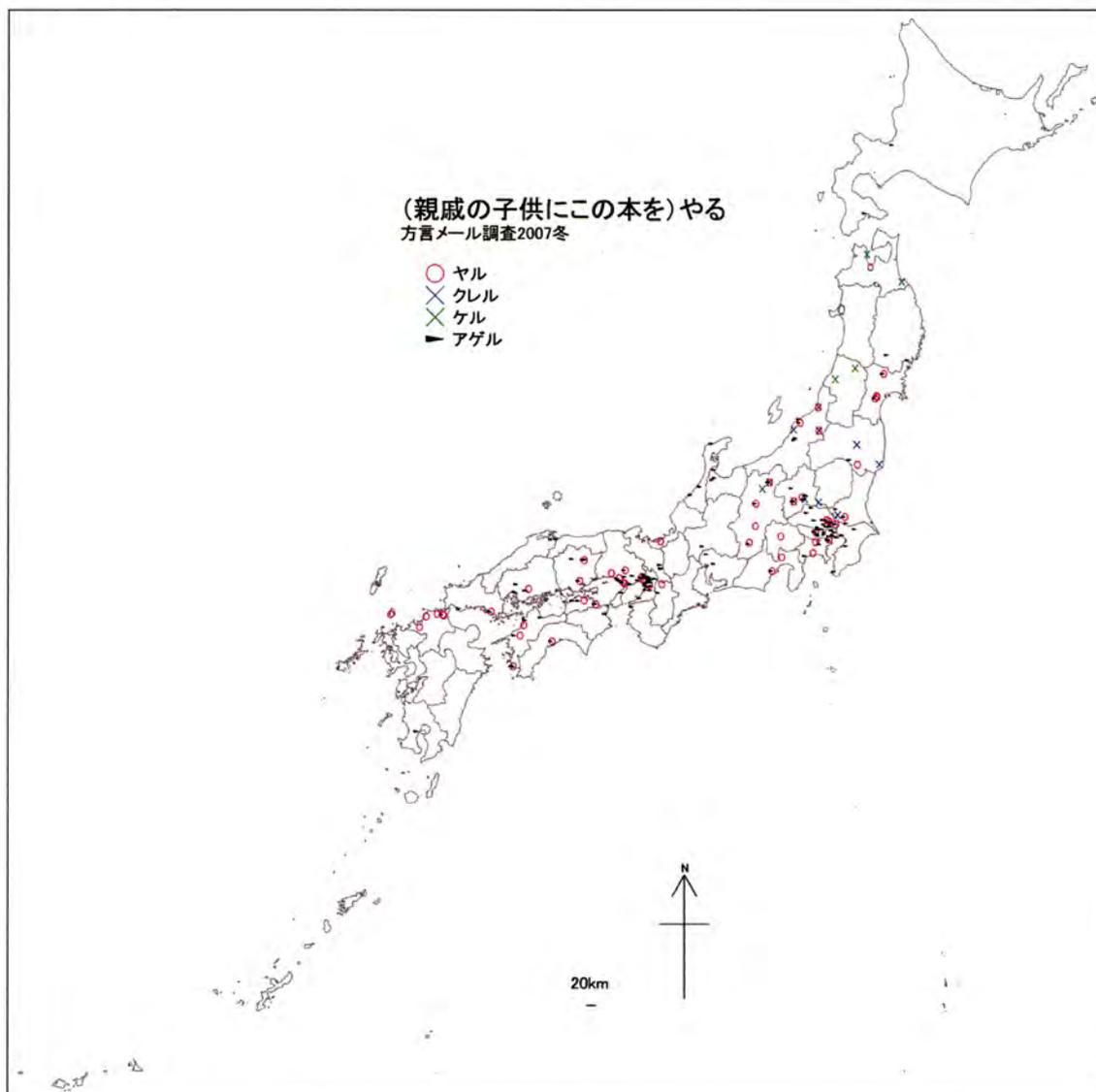
ラ行一段活用動詞の命令形は、オキロのような口語尾の形が東日本、オキヨ・オキーのようなヨ語尾の形が西日本の言い方で、日本全国が大きく二つに分かれるということが知られており、地図からもこの傾向を見て取ることができます。この他、東北地方の日本海側から中部地方にかけてと、中国・四国・九州地方の一部にオキレが分布しています。オキレは、ラ行一段活用動詞の五段活用化によって生じた形です。西日本では、オキヨ・オキー・オキが重なりつつ広く分布しています。ただしこの中には、連用形オキの命令法による回答が混在している可能性があります。連用形命令法は、命令形による命令よりやわらかい表現であるとされています。福岡には、オキリがまとまって見られます。これは、ラ行五段活用化した連用形の命令法と考えられます。『方言文法全国地図』第85図「起きろ(命令形)」, 第209・210図「起きろ(やさしく)」, 第212・213図「起きろ(きびしく)」では、この地域に現れていない形であり、新しい変化として注目されます。

(解説: 三井はるみ, 地図作成: 吉田雅子)

10. (親戚の子供にこの本を) やる

親戚の子供にこの本を やる

〈ヤル・クレル・アゲル〉



分布の解説

3(花に水を)やると同様、いわゆる「やり・もらい」(授受表現)の「やる」の分布が注目点です。10 の子供に対してものを与えるという場合と、3 の植物に対して水を与えるという場合とで比較してみましょう。子供に対して「やる」方に、アゲルは多く現れています。

現在では、親戚の子供に対してはアゲルという丁寧形式が採用されやすいのでしょう。そして、クレルとケルも、植物に対してよりも子供に対して「やる」方に、多く現れています。

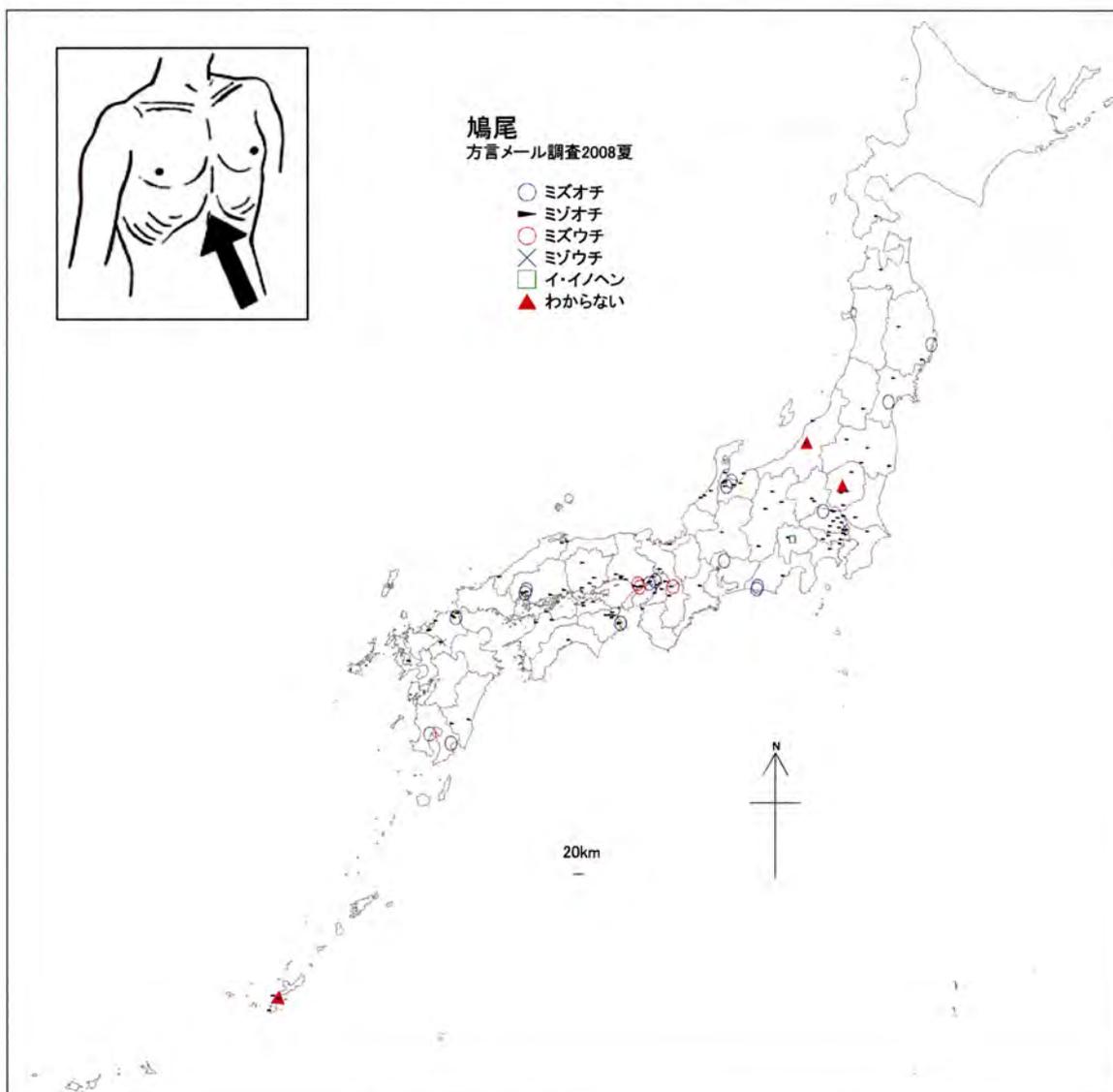
かつて東日本では「やる」にもクレルが用いられていましたが、非常に古くには、動植物に対してはヤル、クレルなどの授与動詞を使うことはなかったと推測されています。子供に対しての方によりクレル、ケルが現れた今回の結果も、この推測を支持することにつながるかもしれません。

(吉田雅子)

11. 鳩尾 (みぞおち・みずおち)

絵の胸の骨の下の真中あたり、柔らかいこのあたりのことを何と言いますか。

a.ミズオチ b.ミズオトシ c.ミズウチ d.ミゾオチ e.その他() f.わからない



分布の解説

胸の中央のくぼんだ部分(挿絵)について、名称の分布を調べるのが狙いです。また、名称がわからない場合もあると考え、「わからない」の選択肢もつくりました。

ミズオチの語源は「水落ち」で、『日本言語地図』第130図では全国に広く分布しています。ミゾオチも全国的に分布していますが、ミズオチのほうがやや優勢となっています。しかし今回の調査結果ではミゾオチがミズオチを圧倒しています。

前半部分のミズからミゾへの変化は「溝」からの影響と考えられています。また、後半部分のオチについても、「打ち」や「内」の影響でウチに変化することがあります。今回の結果でも、ミズウチ・ミゾウチが点在しています。

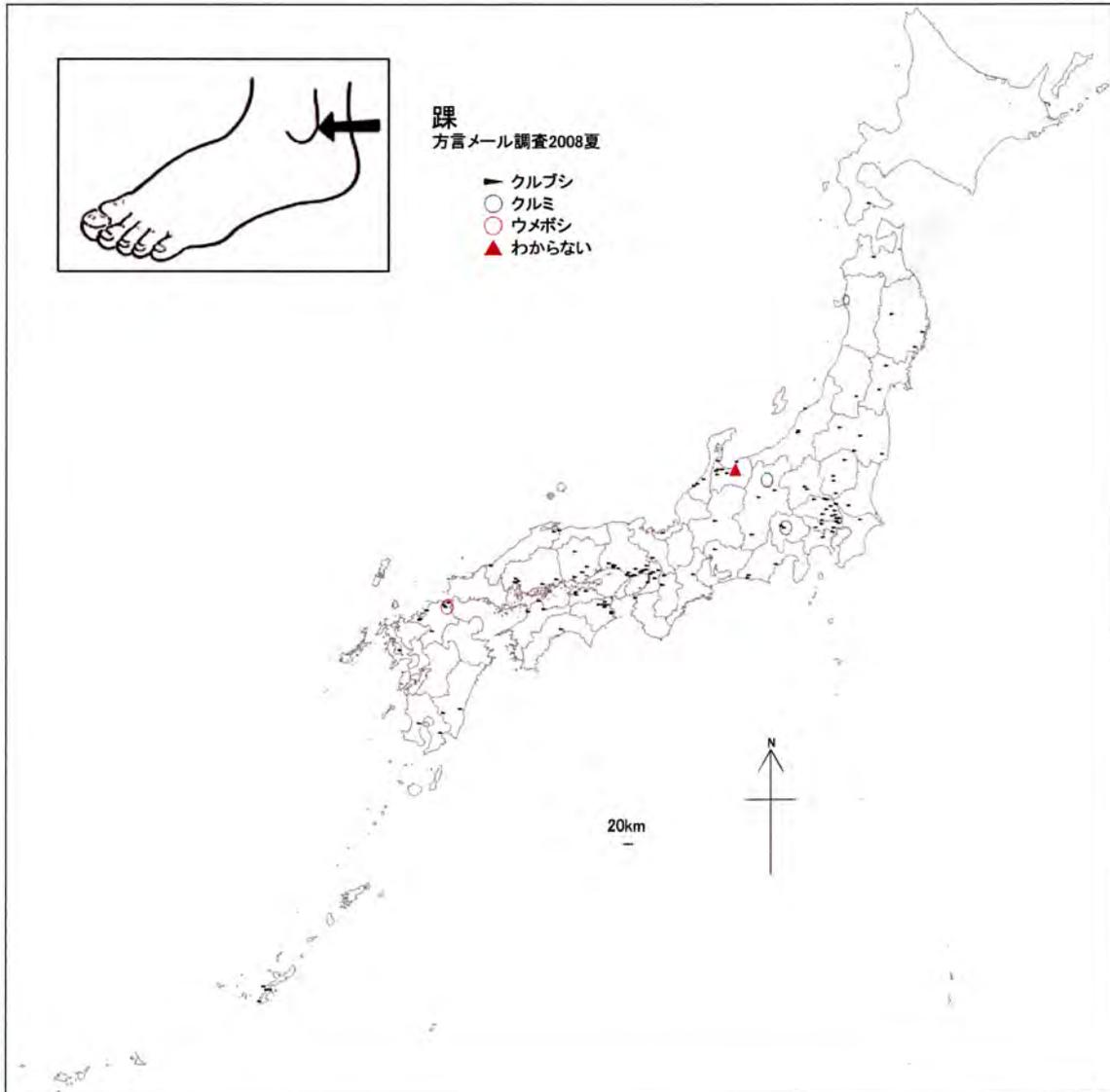
注目した「わからない」という回答はほとんどありません。この調査では質問をするときに回答語形の例が示されていたため、ミズオチがどこかをわからない人であっても、語形を知っていれば回答できた可能性があります。

(鎌水兼貴)

12. 蹠（くるぶし）

絵の矢印のところを何と言いますか。

a.クルブシ b.クルミ c.ウメボシ d.その他() e.わからない



分布の解説

足首の外側の骨がもりあがっている部分(挿絵)について、名称の分布を調べるのが狙いです。また、名称がわからない場合もあると考え、「わからない」という選択肢もつくりました。

結果は、ほとんど人がクルブシと回答しています。「わからない」という回答がもっと多いかと予想しましたが、選択肢に回答語形の例が示されていたために、クルブシを指す場所を知らなくても回答を選択した可能性があります。

ほぼすべての回答がクルブシになっていることについては、「くるぶし」に馴染みが薄くなったために、日常生活で地域の方言形が伝承されず、クルブシという共通語形だけ耳にしていることが予想されます。しかし、この点については今回の質問のみでは判断できません。

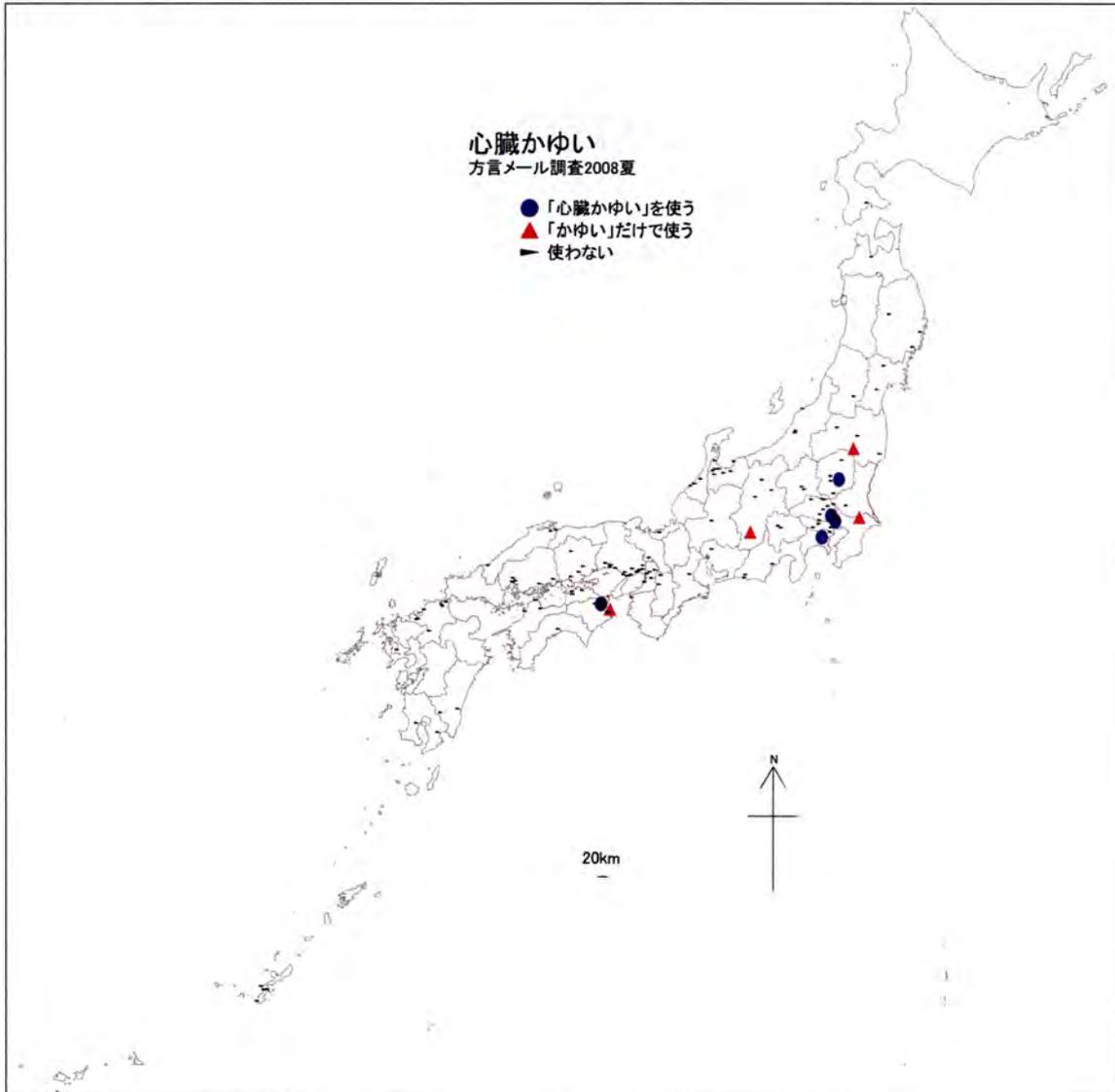
そのほかの語形が回答された地点はわずかに3地点ですが、『日本言語地図』第128図でもみられる語形です。長野と山梨のクルミは中部地方で使われている方言形です。また、福岡のウメボシは、『日本言語地図』では近畿地方に広く分布していた語形で、九州では福岡県の内陸部のみに分布しています。今回の回答地点とはやや分布がずれていますが、分布が広がったか、もしくは家族などの関係で使用するようになった可能性もあります。

(鎌水兼貴)

13. 心臓かゆい

何か心にひっかかるものがあったりもどかしいようなときに「心臓かゆい」という言い方をしますか。

- a.「心臓かゆい」を使う b.「かゆい」だけで使う c.使わない



分布の解説

「かゆい」は、皮膚がむずむずして、かきたくなる感覚をあらわしますが、「心臓かゆい」は、「心にひっかかるものがあり精神的にすっきりしない様子」をあらわす新しい表現とされています。

関西を舞台にした漫画の中で使用されたために、使うようになった人がいるといわれています。この調査でも、ほとんどの人は「使わない」と答えていますが、わずかに首都圏や関西近郊で「心臓かゆい」を使用する人がいます。

大都市は流行や情報の発信地でもあり、流行などに敏感な人によって使用されていると考えることもできます。しかし、今回の調査では、首都圏や近畿地方は他の地域よりも回答者数が多いため、非常に低い割合であっても使用者があらわれる可能性があります。

(鎌水兼貴)

14. メールを作成する

「メールを作成する」

a.メールする b.メールをうつ c.メールをかく d.その他()



分布の解説

文字は、かつては筆やペンによって「書く」ものでしたが、現在ではパソコンや携帯電話の普及によって、キーを「打つ」ことが多くなりました。この質問は、電子メールを作成する行為をなんと表現するかについてたずねたものです。

地図では「メールする」と「メールをうつ」がともに全国的に分布しており、特に地域差はありません。この質問では「メールを作成すること」と「メールを送信すること」の区別を求めていないため、厳密に「作成する」部分のみでも「メールする」を使うのかどうかは、この結果からはわかりません。

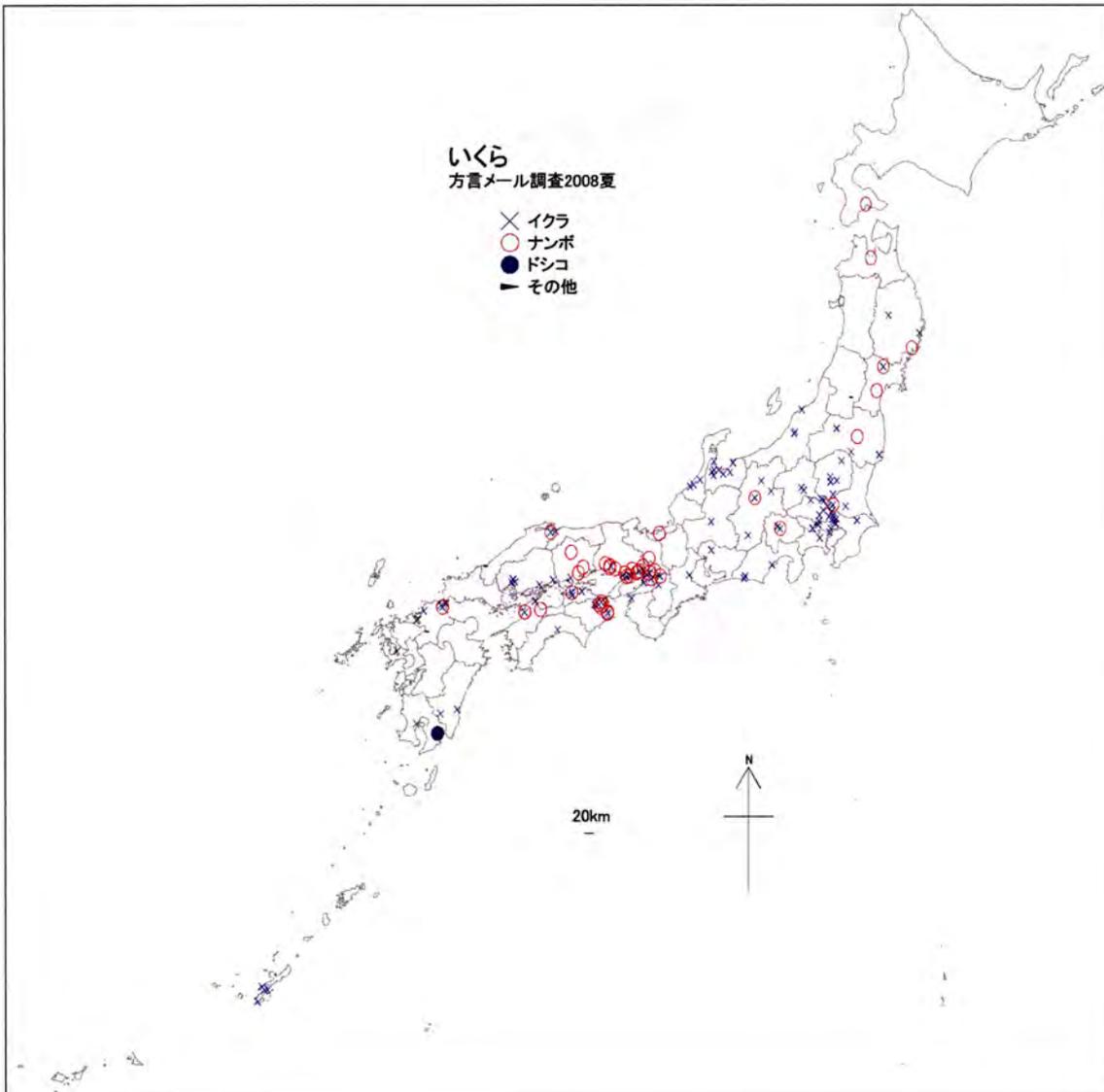
また、「メールを書く」「メールをつくる」といった回答は、やや年齢層が高い人々が使用するのではないかと考えましたが、若い人でも使用しており、特に年齢差はみられませんでした。

(鐘水兼貴)

15. いくら

(品物の値段を尋ねるとき)「このまんじゅうはひとついくらか」

a.イクラ b.ナンボ c.ドシコ d.その他()



分布の解説

ものの値段をたずねるときの言い方で、『日本言語地図』第 50 図では、東北地方・中部地方の一部・近畿以西～東九州においてナンボ、南九州でドシコ、それ以外の地域ではイクラが分布しています。

今回の結果では、イクラが全国的に分布しており、共通語化が進んでいると考えられます。しかしナンボは依然として、東北地方、中部地方・西日本に広く分布しており、『日本言語地図』と類似した分布となっています。またドシコも1地点ではありますが、『日本言語地図』で分布がみられる南九州で回答がありました。

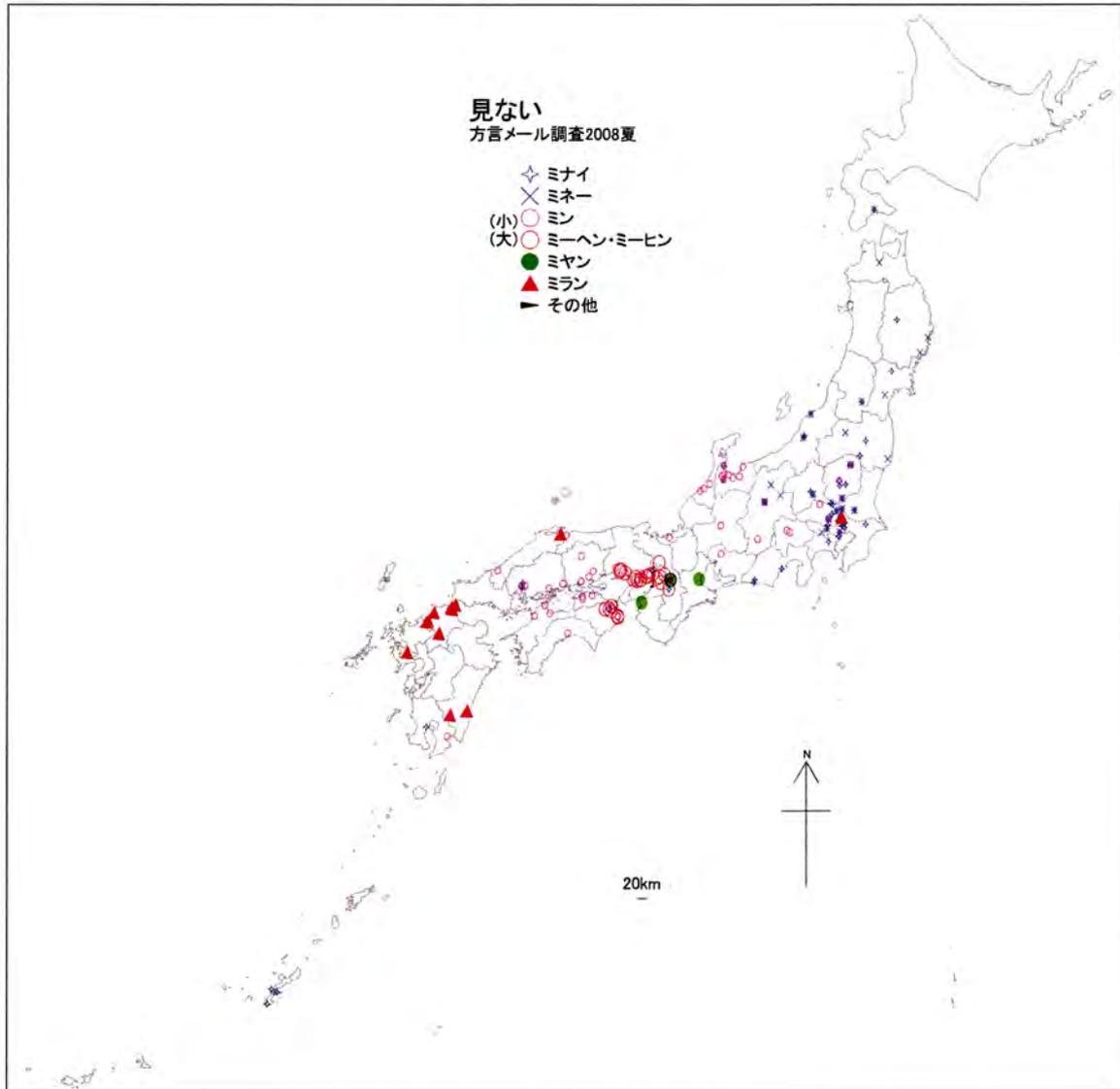
「いくら」の方言は、かつての分布を現在でも残しているといえるでしょう。

(鎌水兼貴)

16. 見ない

「朝はテレビは見ない」

a.ミナイ b.ミネー c.ミン d.ミーヘン e.ミラン f.ミヤン g.その他()



分布の解説

一段活用動詞「見る」の否定形式についての質問です。否定形式は、古くから東日本でナイ、西日本でンという東西の対立があります。今回の結果でも、東日本でミナイ、西日本でミンという明確な東西差がみられます。このほか、近畿地方を中心として、センから変化したヘン・ヒンが分布しています。また紀伊半島にはミヤンが分布しています。これらは『方言文法全国地図』第74図での分布とも類似しており、現在でも活力のある方言といえます。

九州ではミランがみられます。ミランは一段活用動詞のラ行五段活用化とされています。「見る」のような一段活用動詞の活用は、「知る」のようなラ行五段活用動詞と類似しています。そのため否定形式の場合にもラ行五段活用動詞の未然形(「知る」の場合には西日本ではシラン)への類推によって、ミランという形になったものと考えられます。山陰地方でも同じ現象がみられません。

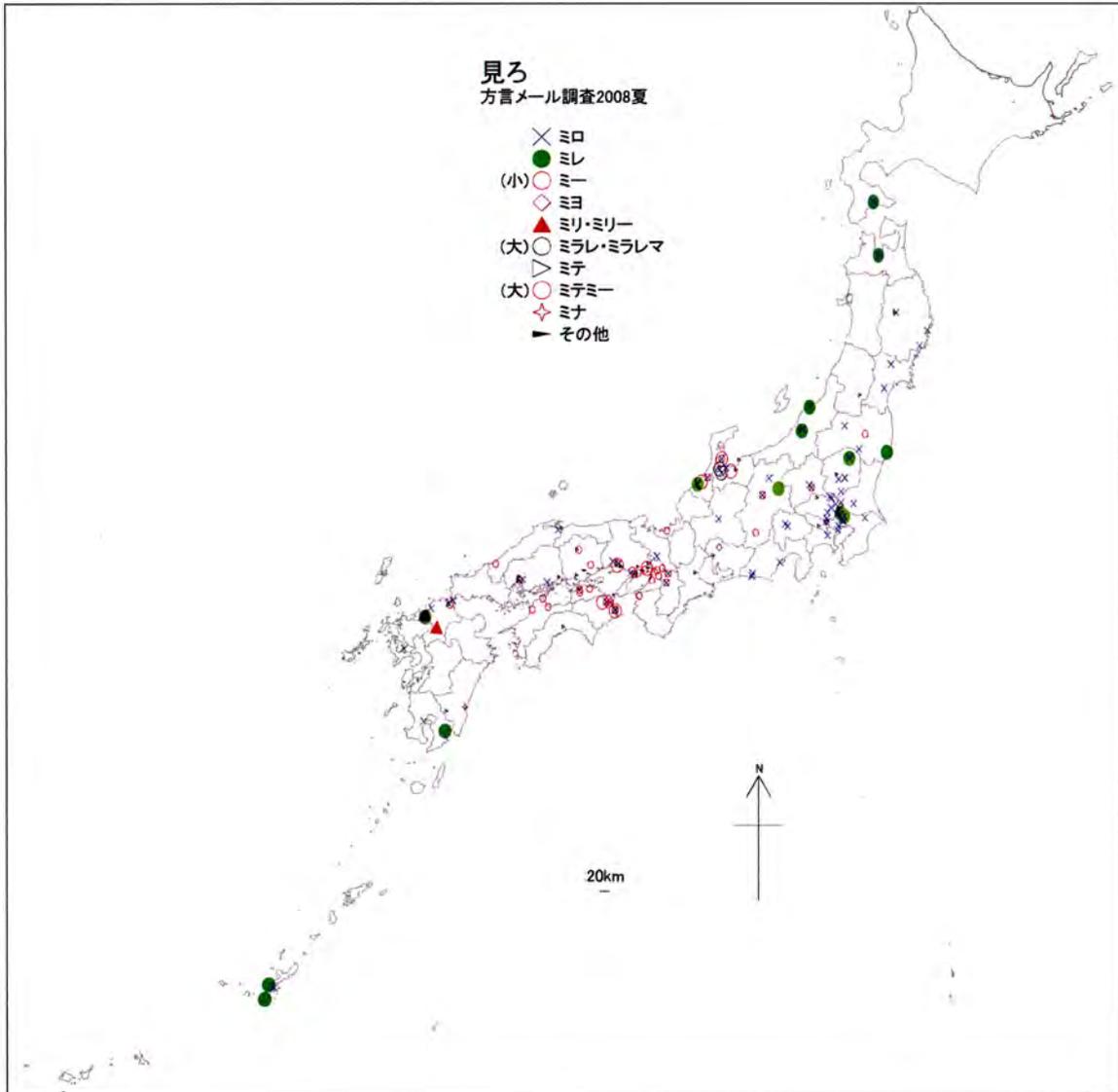
また、第1回調査の「書かない」でもみられましたが、「見ない」でも西日本のンが関東地方でも報告されており、ンの分布が拡大していると考えられます。

(鍵水兼貴)

17. 見ろ

「あれを見ろ」

a.ミロ b.ミヨ c.ミレ d.ミー e.その他()



分布の解説

一段活用動詞の命令形の分布は、東日本ではミロのようにロが語尾に、西日本ではミヨ・ミーのようにヨが語尾になり、東西対立がみられます。第1回調査でも同じ一段活用動詞「起きろ」を調査しましたが、同じような分布となっています。

ミレは、一段活用動詞のラ行五段活用化によるものです。『方言文法全国地図』第86図では東日本の日本海側や九州地方にみられます。今回の結果では、これらの地域の回答者が少ないため、ややわかりにくいですが、同じ地域にミレが分布しています。

連用形による命令法も広く分布しています。西日本に広がるミーは、命令形だけでなく、連用形のミの命令法も混在しているものと思われます。北九州に分布するミリは、ラ行五段活用化をした上でさらに連用形の命令法を用いた表現で、『方言文法全国地図』ではこの地域には現れていない新しい形です。

富山のミラレは、やわらかい命令表現ですが、富山では『方言文法全国地図』第210図でも「起きる」のやわらかい命令表現としてオキラレが用いられており、現在でも使用されていることがわかります。

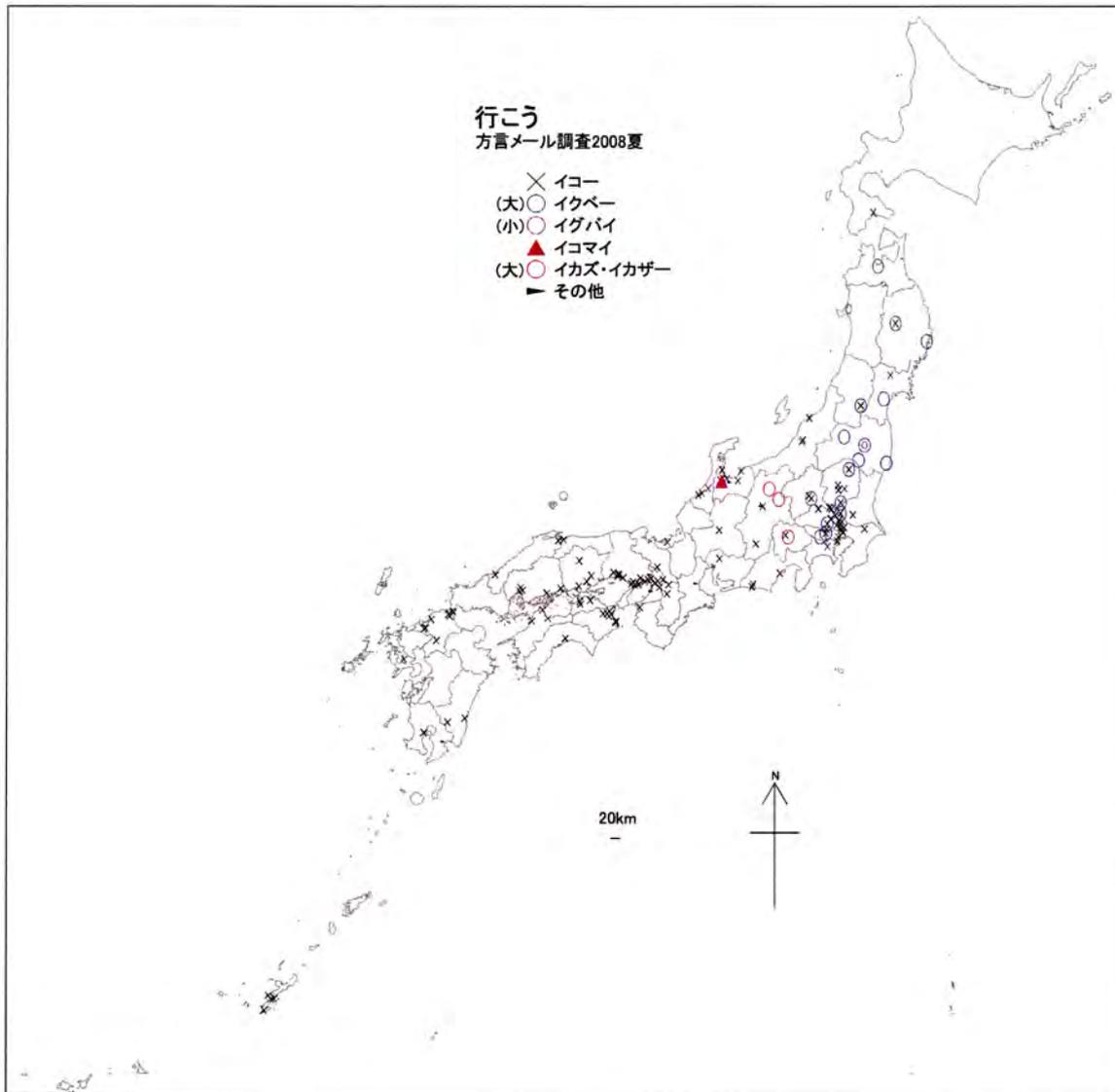
このほかの命令表現として、ミテ、ミナといった表現も広く使用されています。

(鎌水兼貴)

18. 行こう

「いっしょに行こうよ」(友達を温泉に誘ったのですが、友達が迷っているときに)

a.イコー b.イクペー c.イカズ d.イカマイ e.その他()



分布の解説

「いっしょに行こうよ」と勧誘するときの表現についてたずねました。同時に、共通語では使用されないマイがどう分布しているかにも注目しました。しかし結果は、共通語形のイコーが全国に分布しています。

東日本では、関東・東北地方でイクペーが、中部地方でイカズ・イカザーが分布しています。福島で見られるバイは、ペーと同じく「べし」を出自とした語形で、九州方言の断定をあらわすバイとは異なります。

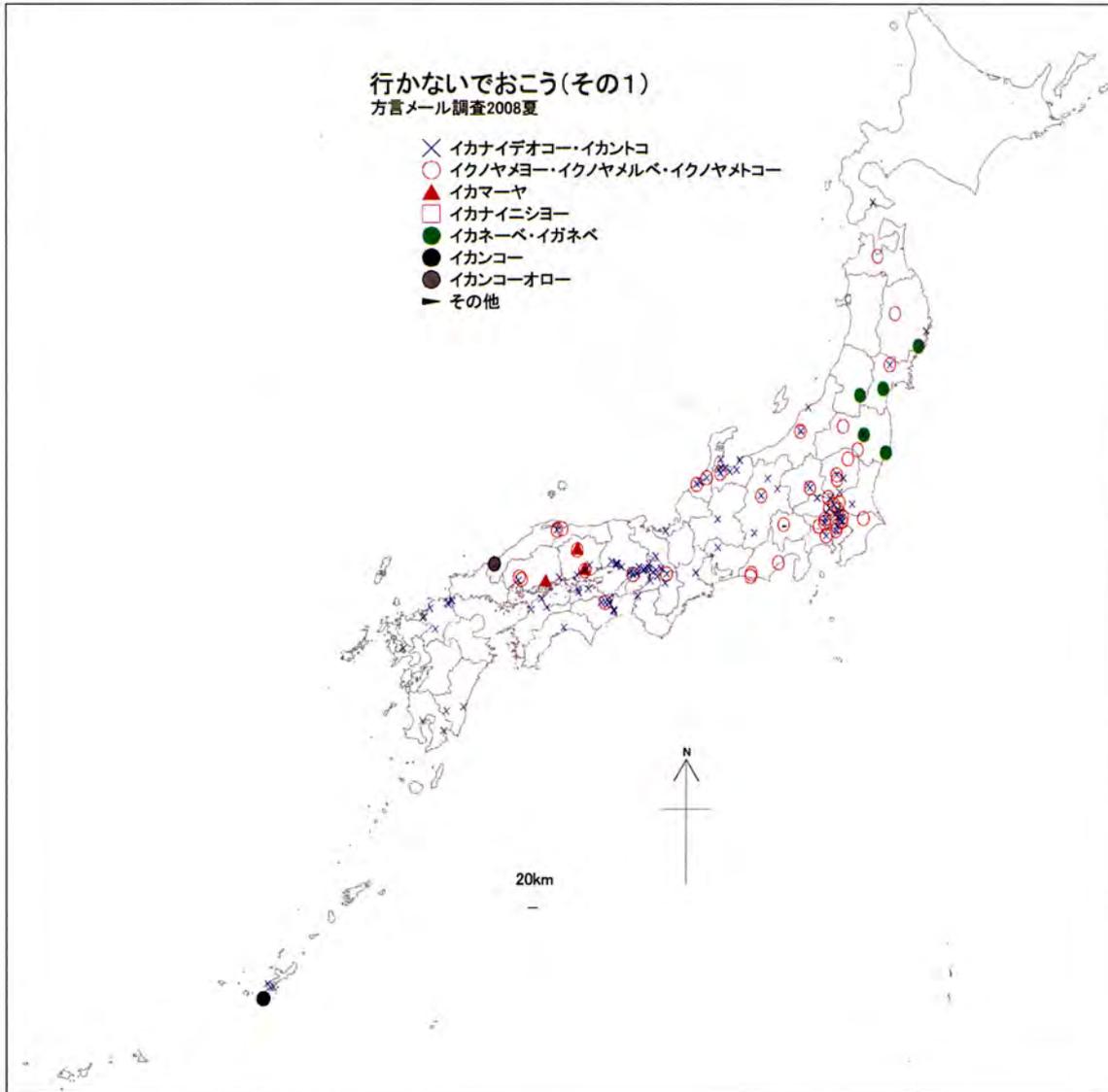
イコマイは『方言文法全国地図』第 235 図では中部地方から北陸にかけて分布していますが、今回は富山で1人回答があるのみです。

(鏈水兼貴)

19-1. 行かないでおこう (その1)

「行かないでおこうよ」(自分は行かないつものときに、相手も行かないように誘いかける)

a.イカナイデオコー b.イクノヤメヨー c.イカントコ d.イクマイ e.イカマイ f.その他()



分布の解説

自分は行かないつものときに、相手も行かないように誘いかけるときの表現です。18と同様に共通語で使用されないマイの分布にも注目しました。この質問は回答語形が多様なため、地図を2つにわけています。

その1は、語形をおおきくまとめた分布です。イカナイデオコー・イカントコなどの、否定+デオコーとなる表現が広く全国に分布しています。

これに対して東日本では、イクノヤメヨーが広く分布しています。このため東日本ではイカナイデオコーとイクノヤメヨーの二つの表現が並存していることとなります。また、東北地方にべを用いたイカネーベが分布しています。

マイは、イカマーヤの形で山陽地方に分布しています。

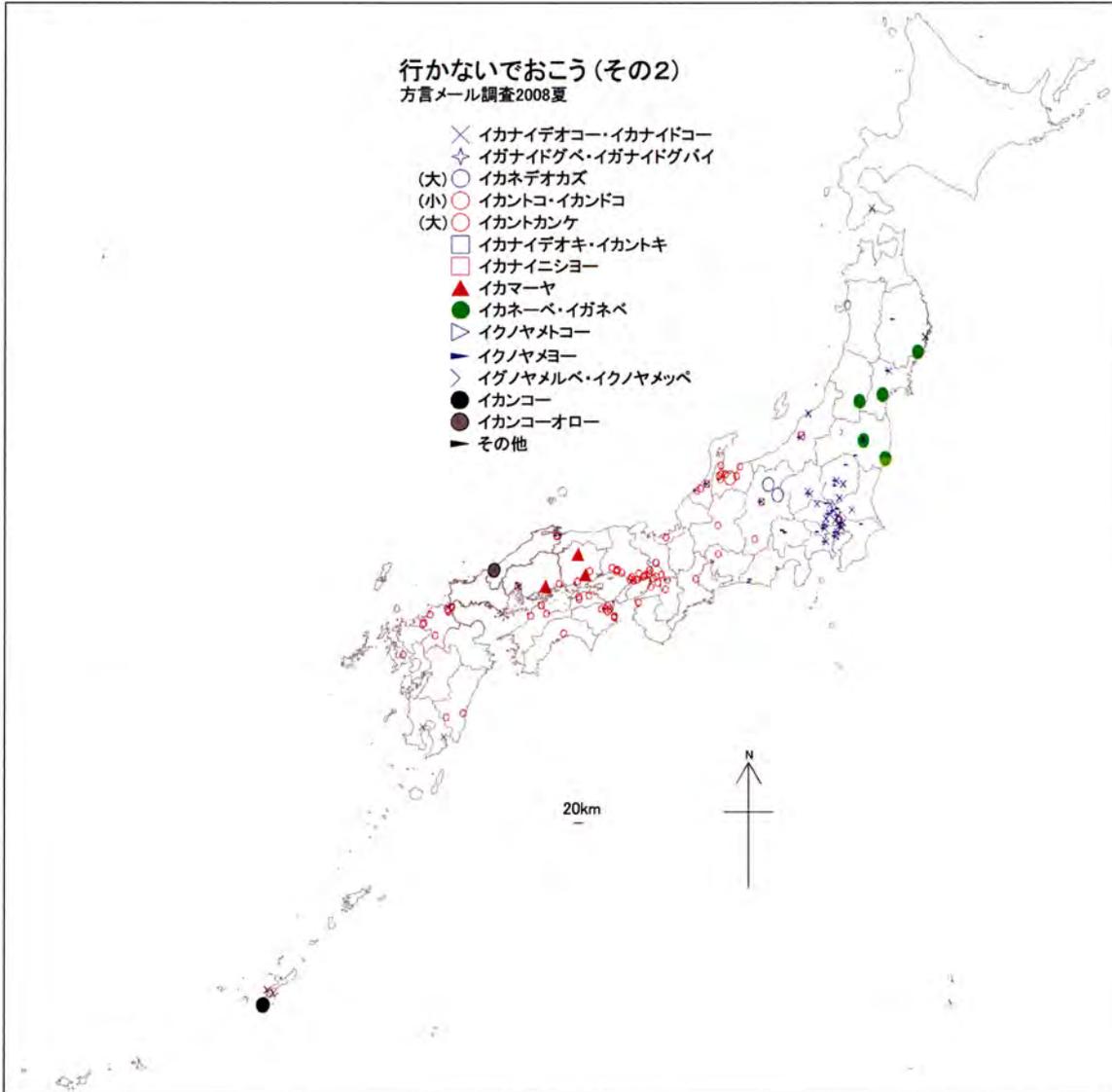
このほか島根ではイカンコーオロー、沖縄ではイカンコーが回答されています。

(鍾水兼貴)

19-2. 行かないでおこう (その2)

「行かないでおこうよ」(自分は行かないつもりなのに、相手も行かないように誘いかける)

a.イカナイデオコー b.イクノヤメヨー c.イカントコ d.イクマイ e.イカマイ f.その他()



分布の解説

その1の地図における、イクノヤメヨー類に対応する記号を目立たないようにしながら、詳細な語形の分布を示しました。

語形の前半部分だけをみると、16「見ない」の地図と同様に、東日本ではイカナイ、西日本ではイカンが分布しており、東西で対立しています。

一方、後半部分だけをみると、東北地方ではイガナイドグベが分布しています。東北地方の他の語形もみなイグノヤメルベ、イカネーベなど、ベが使用されています。

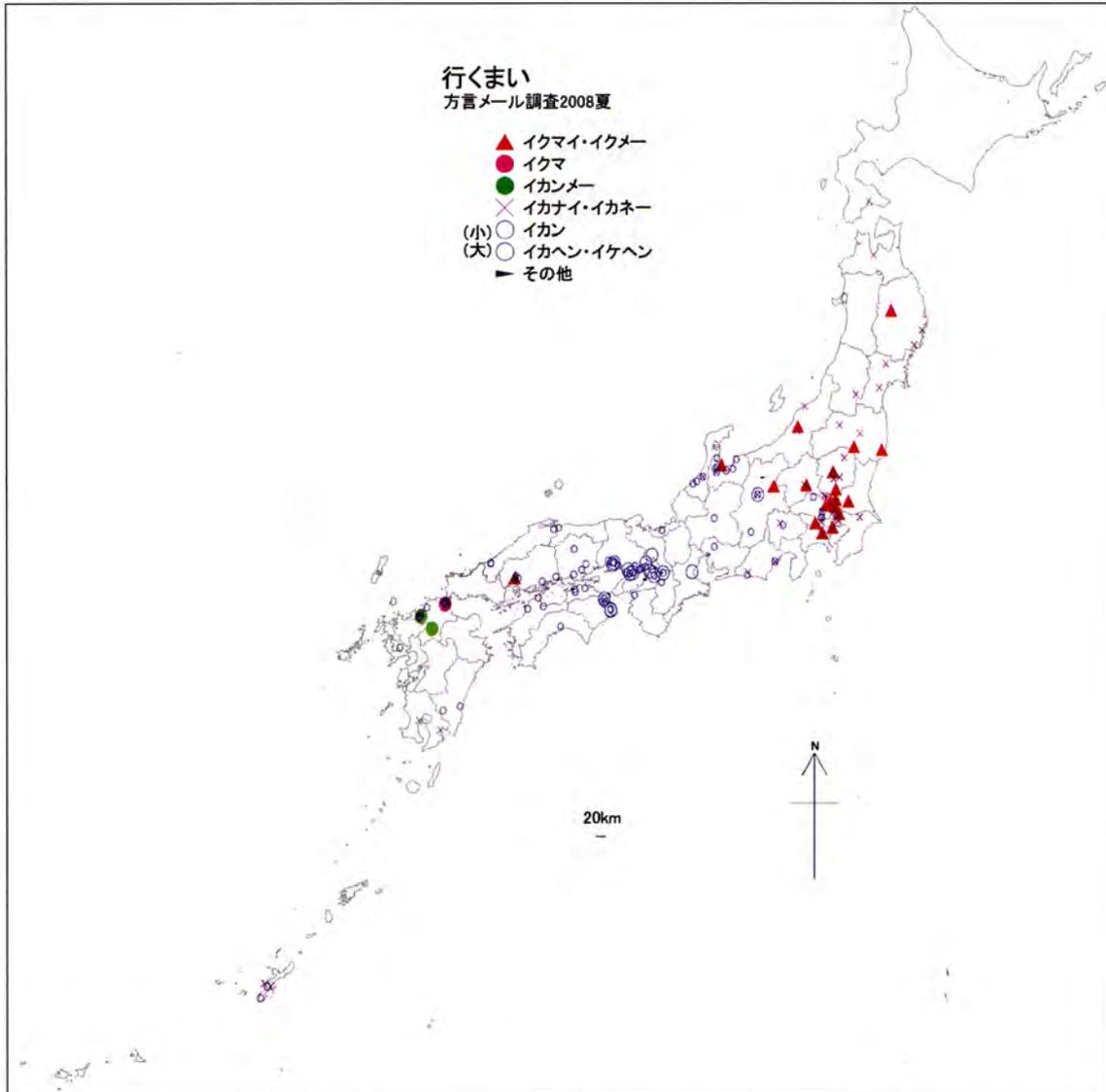
このほかでは、長野ではイカネデオカズのように、ズが用いられるほか、イカナイデオキもみられます。

(鍵水兼貴)

20. 行くまい

「もうそんなところへなんて、けっして行くまい」と心に決める。

a.イクマイ b.イクメー c.イカナイ d.イカン e. その他()



分布の解説

「けっして行くまい」と決心するような、否定の意志をあらわす表現の分布です。18, 19 では共通語で用いられないマイの用法についての分布でしたが、この項目では共通語で使用されるマイの分布です。

『方言文法全国地図』第 234 図では、マイによる表現と、否定形式のみによる表現とが混在しています。今回の調査では、マイは関東地方を中心に東日本に偏って分布しています。また、九州にもイクマ、イカンメーという形で分布しています。

否定形式は、全国で使用がみられます。そのため、16「見ない」と似た東西対立の分布がこの地図でもあらわれます。東日本ではイカナイ・イカネー、西日本ではイカンとなり、近畿でイカヘン・イケヘンが使われています。

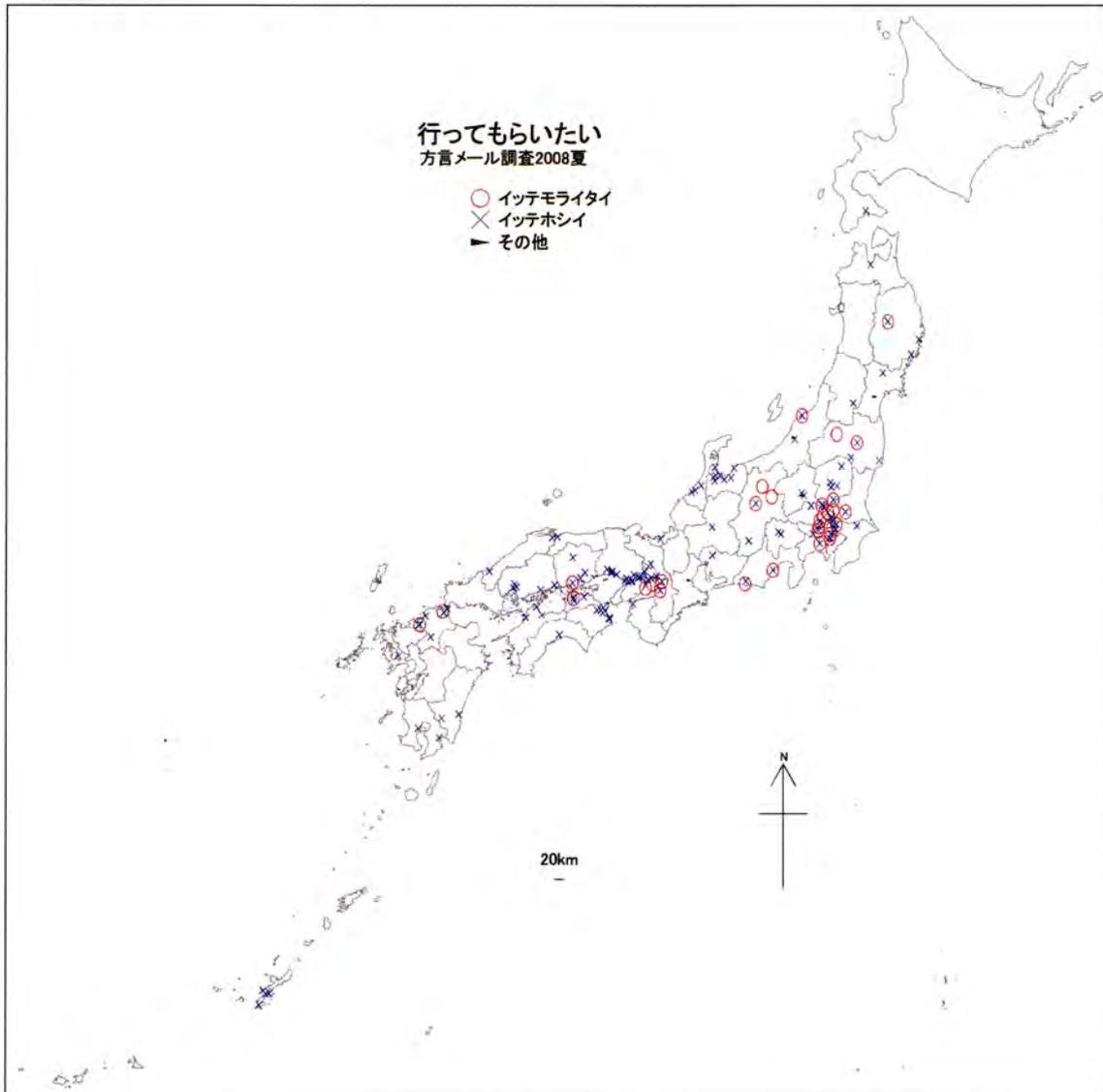
西日本でマイが使用されなくなったため、マイは分布としては圏周分布のようになっています。

(鎌水兼貴)

21. 行ってもらいたい

「あの人には、いっしょに 行ってもらいたい」

a. イッテモライタイ b. イッテホシイ c. その他()



分布の解説

「～てもらいたい」と要求する表現についてたずねました。『方言分布全国地図』第 231 図ではイッテモライタイが全国に分布し、近畿や北陸を中心としてイッテホシイが分布しています。この一テホシイは、昭和になってから急速に関西から全国に広がったとされています。

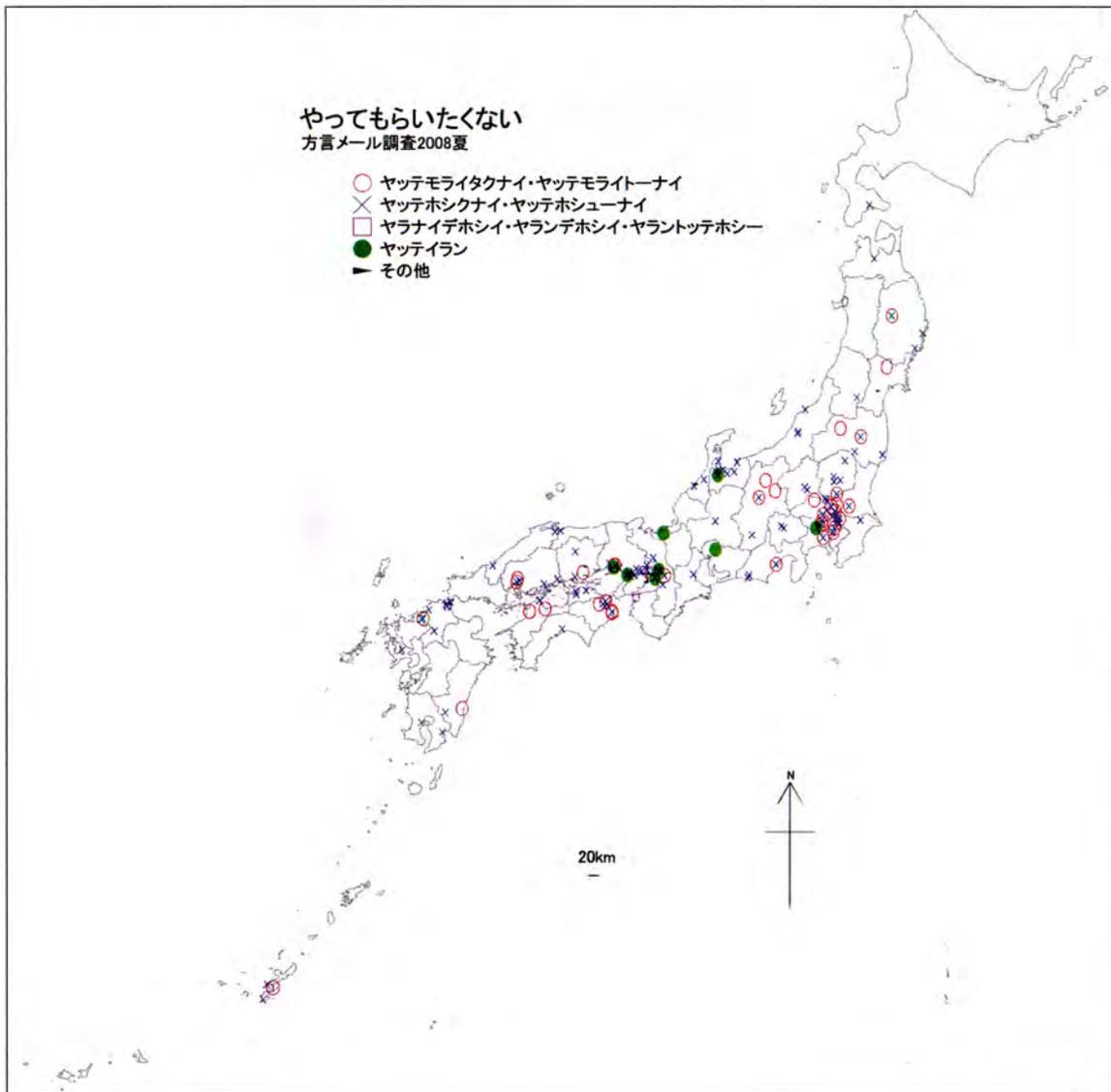
今回の結果をみると、全国的にイッテホシイが分布しています。イッテモライタイは関東など東日本を中心とした分布し、全国でもまばらに残存している状態です。そのため現在では、一テホシイが新しい共通語になったといえるでしょう。

(鐘水兼貴)

22. やってもらいたくない

(迷惑なので、あの人には)「そんなこと、やってもらいたくない」

a. ヤッテモライタクナイ b. ヤッテホシクナイ c. ヤッテイラン d. その他()



分布の解説

「～もらいたくない」は21「～もらいたい」の否定表現にあたります。これも21と同様に、全国的にヤッテホシクナイが分布しており、関東を中心としてヤッテモライタクナイが残存している状況です。

近畿地方では、「いらない」に相当するヤッテイランが広がっています。地図では、近畿地方だけでなく、富山、愛知、東京でも回答がみられ、広がりつつあることがわかります。

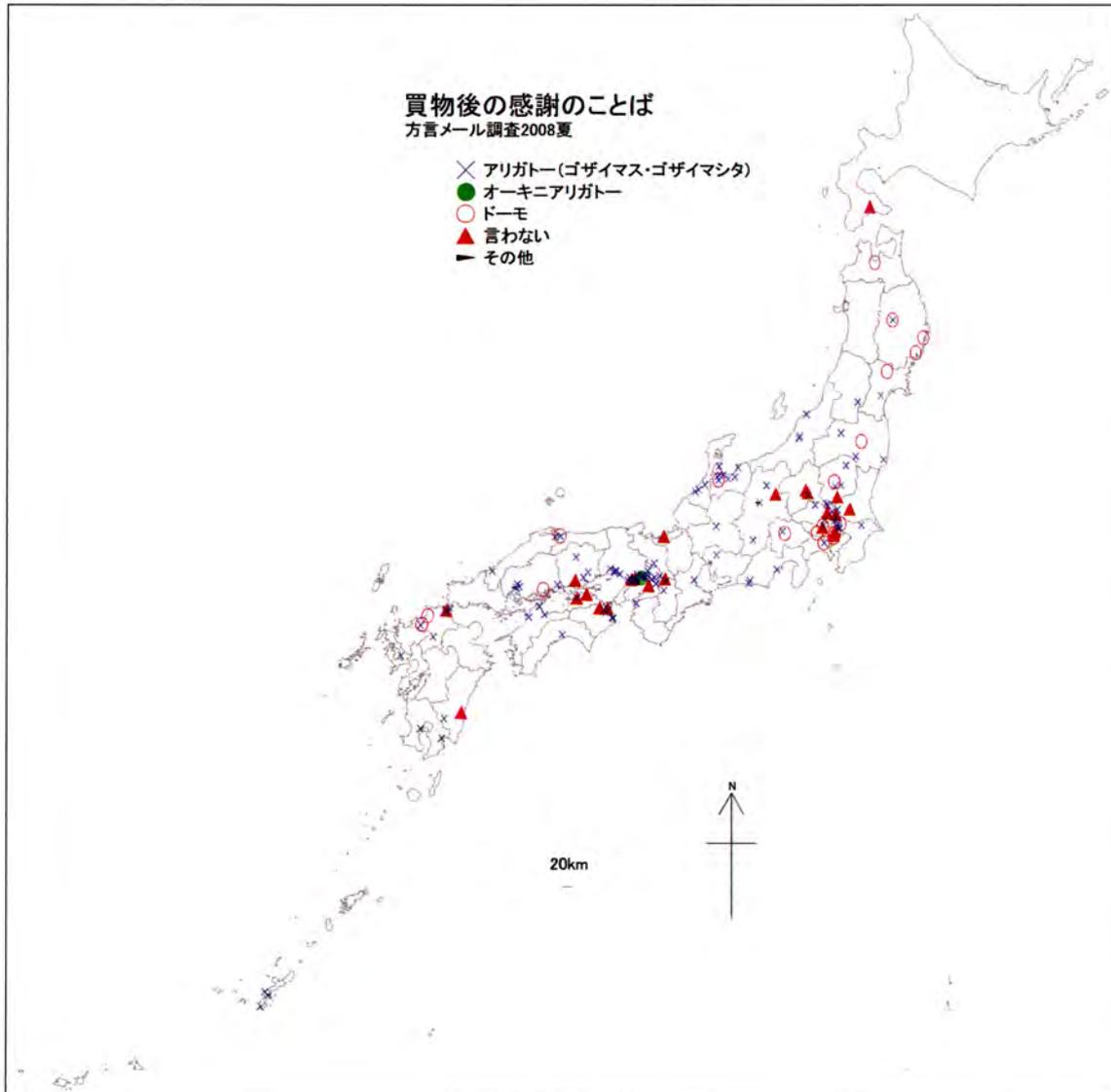
このため、ヤッテホシクナイは、関西で新しく生まれたヤッテイランの外側に分布する周囲分布となっています。

(鍵水兼貴)

23. 買物後の店員への感謝のことば

個人商店で買い物をしたあと、店の人に「ありがとう」等の感謝のことばを言いますか。

<アリガトー・オーキニ>



分布の解説

買い物をしたあとで、店員に「ありがとう」など、感謝のことばをいうかどうかについてたずねたものです。感謝のことばは、物を買った場面を扱った『方言文法全国地図』第267～270図において非常に多様な表現がみられますが、この調査ではほとんどがアリガトー(ゴザイマス)と、ドーモに限られます。アリガトー(ゴザイマス)は全国的に分布しているのに対して、ドーモは東日本を中心とした分布となっています。

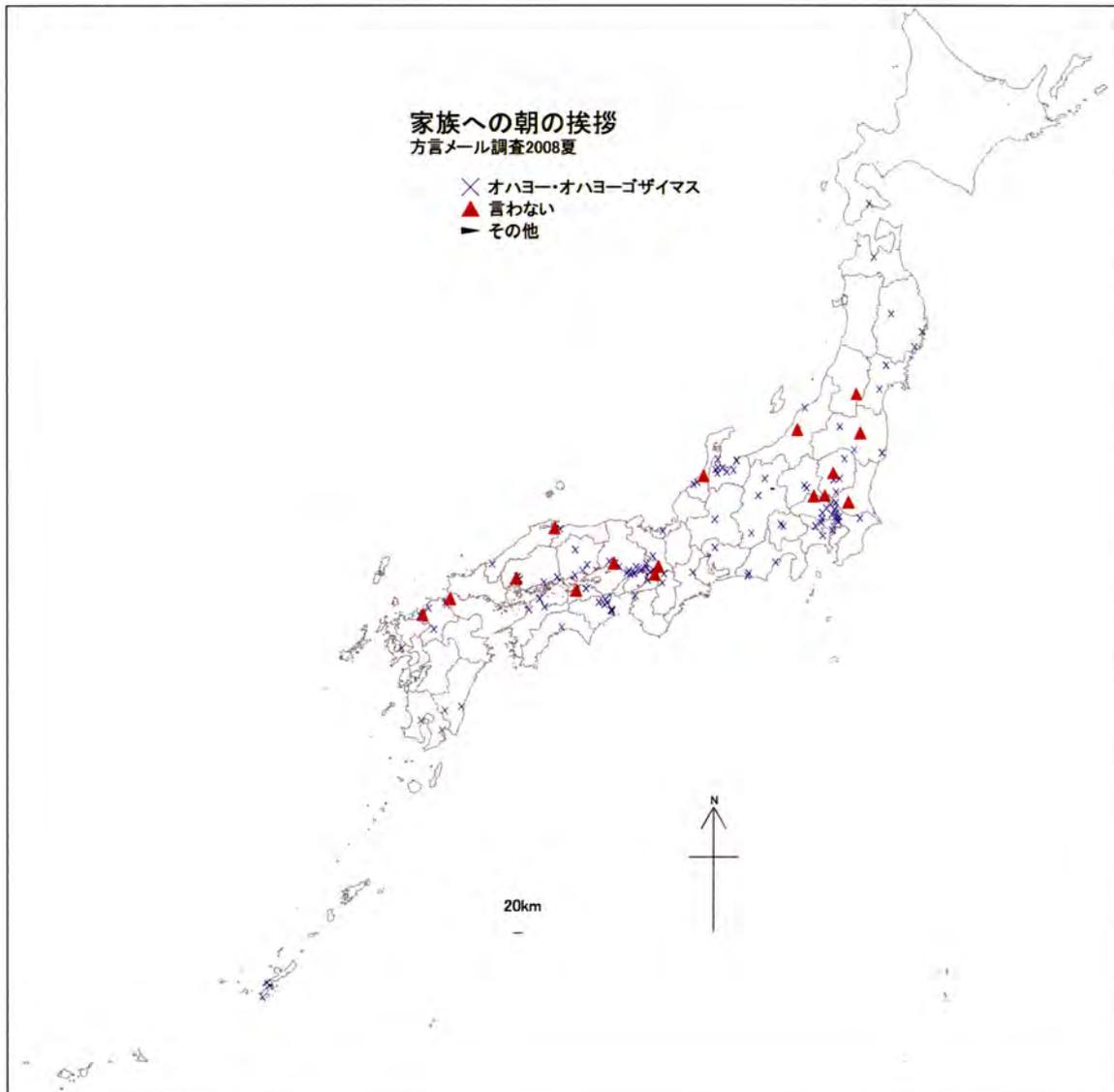
また、関東や近畿などの大都市圏においては「言わない」という回答が多くなっています。これは住民と店員のかかわりなど、地域社会における人のつながりも影響していると思われます。

(鎌水兼貴)

24. 家族への朝のあいさつ

朝起きたとき、家族に向かって「おはよう」等の挨拶のことは言いますか。

〈オハヨーゴザイマス・オハヨー〉



分布の解説

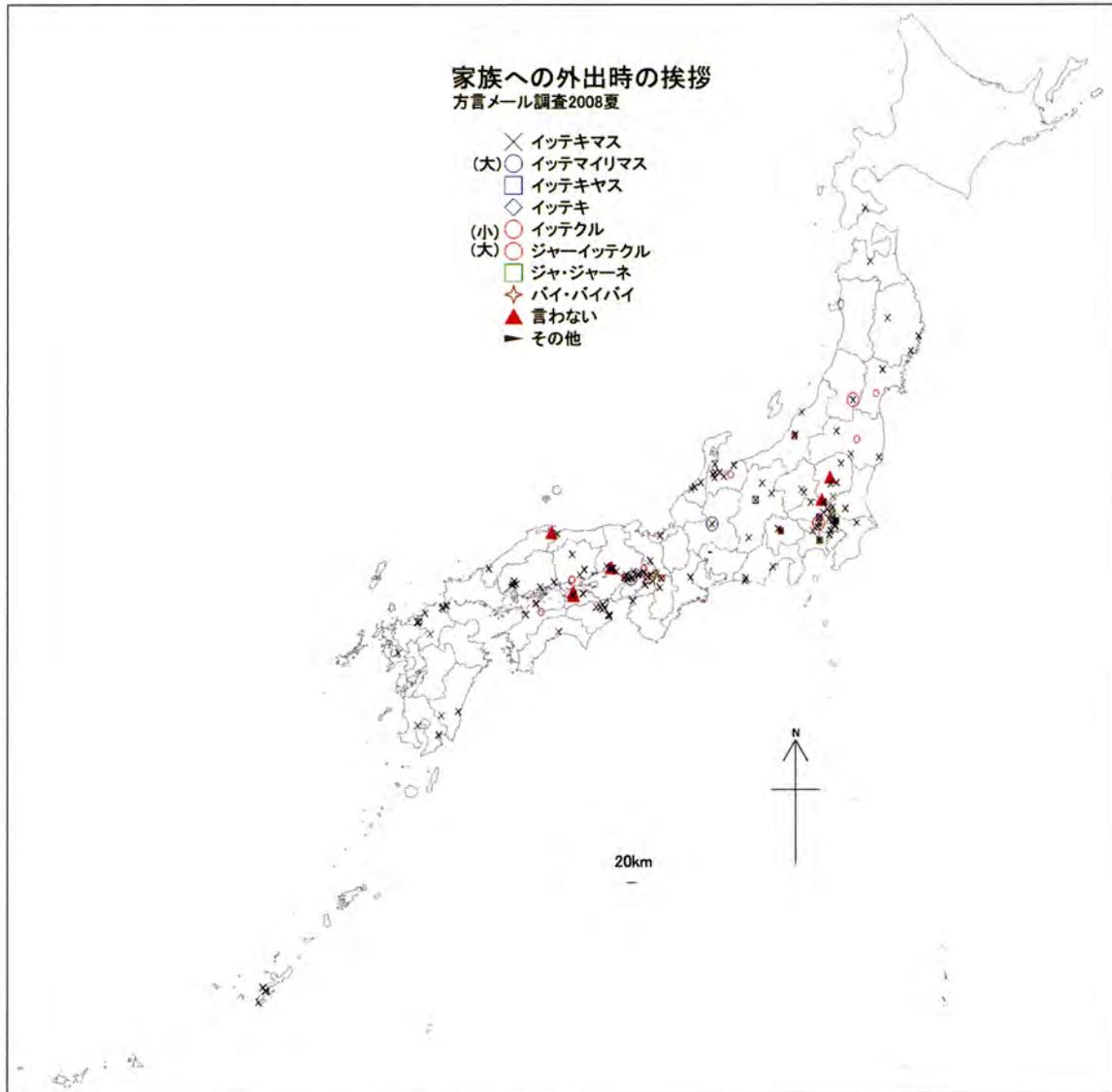
朝起きたときに家族に対して、どのような挨拶をするかをたずねたものです。挨拶をするかどうかでは、全国のほとんどの人が挨拶を行っています。また、おおきくまとめると、そのほとんどがオハヨー（ゴザイマス）を使用しています。言わない人は全体の1割程度であり、特に地域的な傾向もなく全国に広がっており、個人的要因が強いものと思われます。

(鎌水兼貴)

25. 外出時の家族への挨拶

家から出かけるとき、家族に向かって「いってきます」等を行いますか。

〈イッテキマス・イッテマイリマス・ジャ〉



分布の解説

家を出るときに家族に対して、どのような挨拶をするかをたずねたものです。挨拶をしない人はわずかで、特に地域的な傾向はありません。

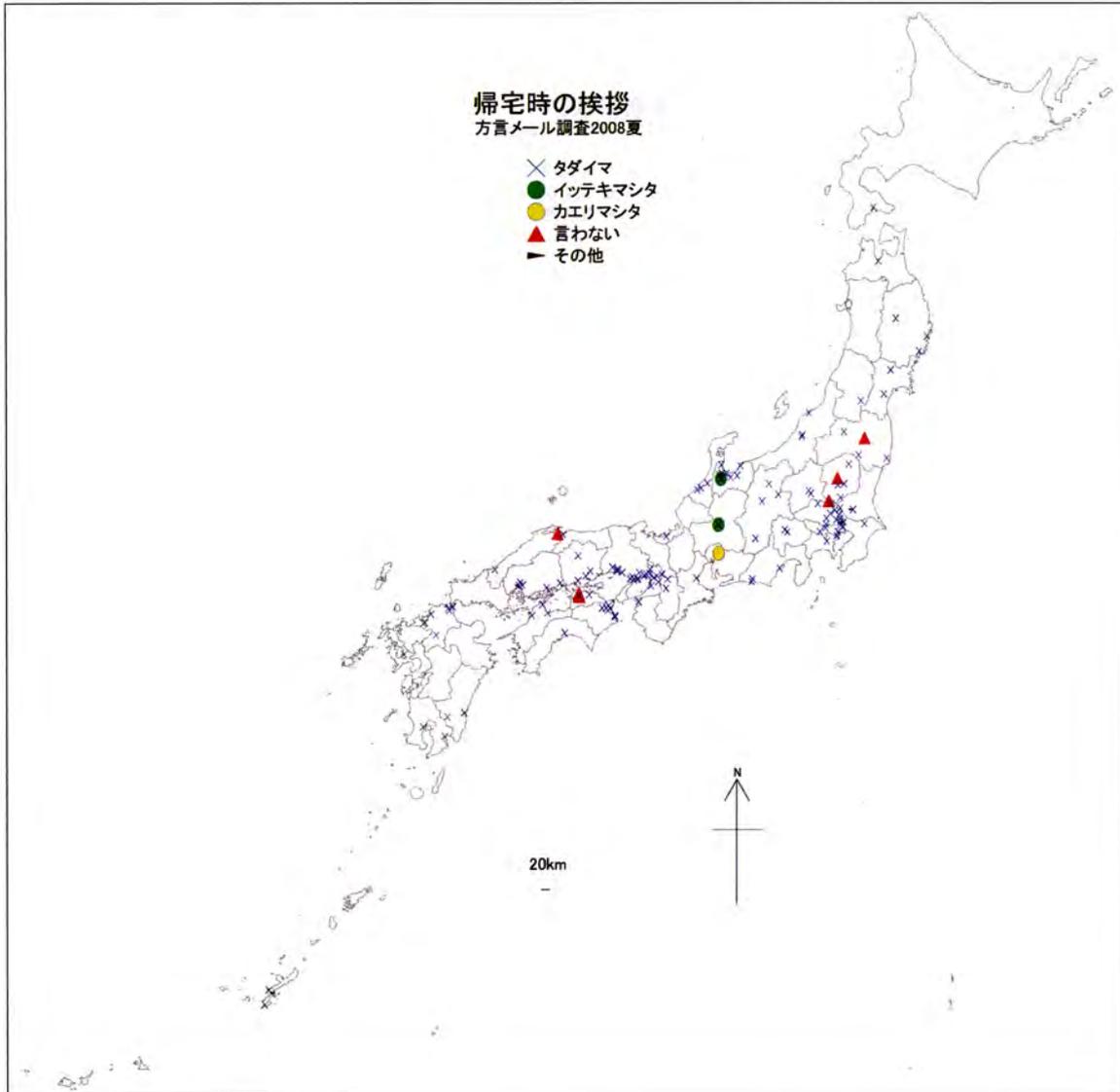
挨拶の表現は、ほとんどがイッテキマスです。一部、東京・大阪などでジャー・ジャーネといった表現がみられます。

(鎌水兼貴)

26. 帰宅時の家族への挨拶

外出から帰宅したときに「ただいま」等を言いますか。

〈タダイマ・イッテキマシタ・イッテマイリマシタ〉



分布の解説

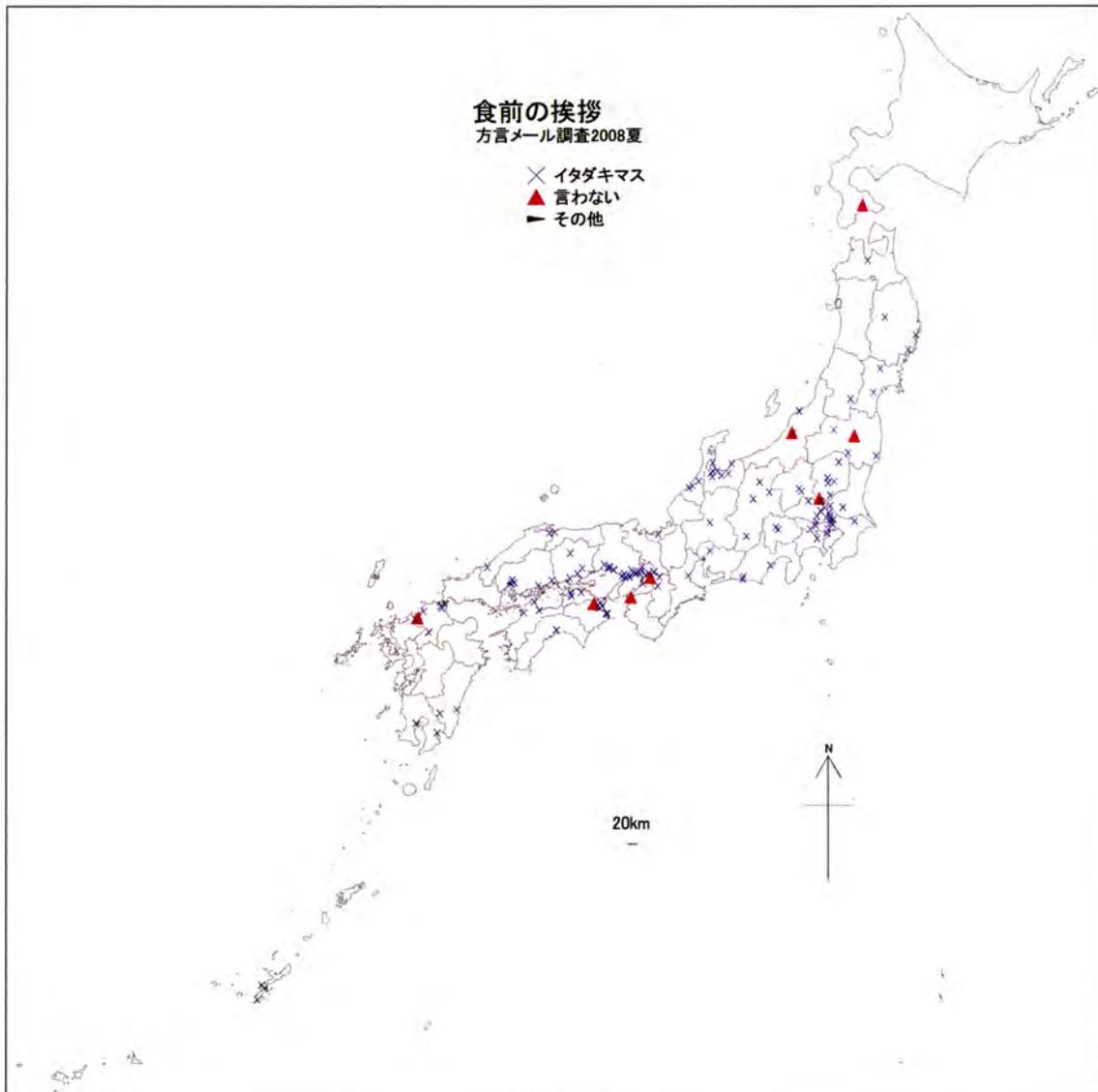
家に帰ってきたときに家族に対して、どのような挨拶をするかをたずねたものです。ほぼ全国で帰宅時の挨拶をしており、挨拶の表現もほとんどタダイマが使われています。例外として、富山から岐阜、愛知にかけて、イッテキマシタ・カエリマシタといった表現が用いられています。

(鐘水兼貴)

27. 食前の挨拶

食事を食べ始めるときに、「いただきます」等を行いますか。

〈イタダキマス〉



分布の解説

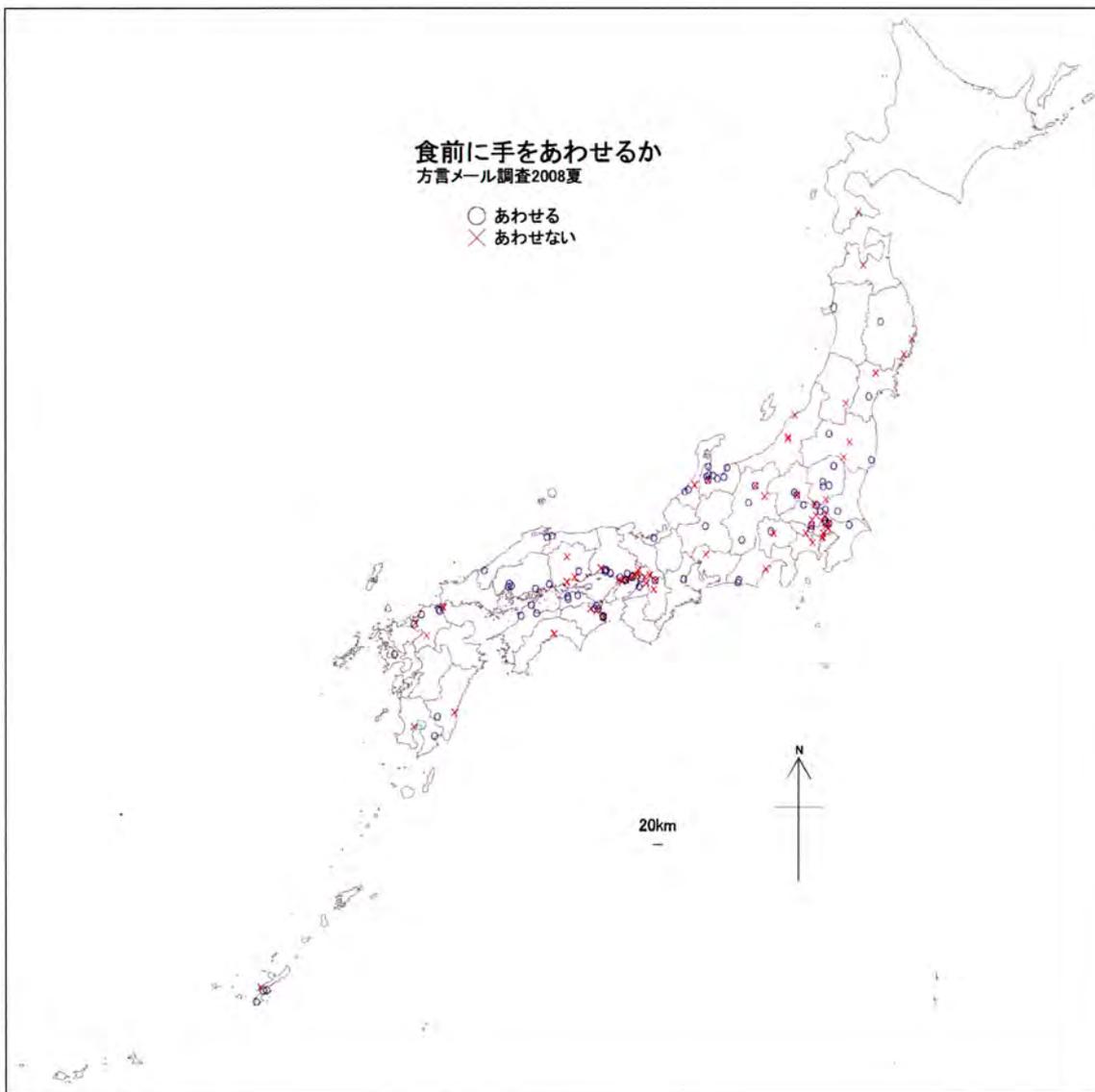
食前にどのような挨拶するかをたずねたものです。食前の挨拶は、全国的にほとんどの人が行っていると回答されています。また、挨拶の表現も全国的にイタダキマスにほぼ統一されています。

(鐘水兼貴)

28. 食前に手をあわせるか

食事を食べ始めるときに、手をあわせませんか。

a.あわせる b.あわせない



分布の解説

27 の食前の挨拶を言うときに、手をあわせるかについてたずねたものです。食前の挨拶はほとんどの人が行うのに対して、手をあわせる割合は低くなり、半数程度になります。

地域差をみると、東京や大阪などの大都市圏で、あわせないという回答が目立ちます。また、全体としてみた場合には、東日本のほうがあわせない人がやや多いようです。

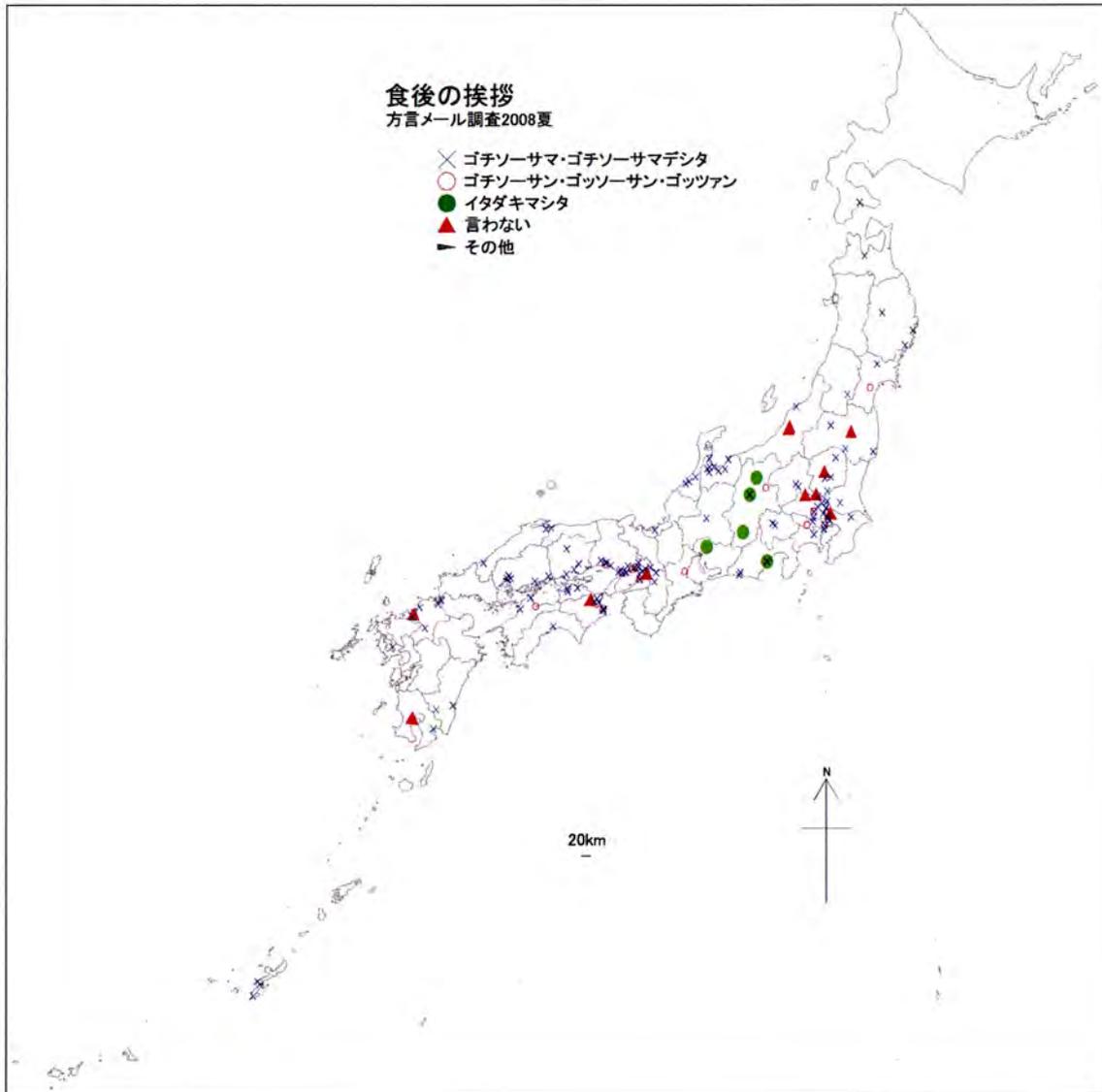
30-1 の食後に手をあわせるかについての結果とあわせた総合図を 30-2 に付しましたので、ご覧ください。

(鍵水兼貴)

29. 食後の挨拶

食事を食べ終わるときに、「ごちそうさま」等を言いますか。

〈ゴチソーサマ・イタダキマシタ〉



分布の解説

食後にどのような挨拶をするかをたずねたものです。食前の挨拶と同様に、食後においても挨拶をしないと回答した人はわずかです。

挨拶の表現は、全国的にゴチソーサマがほとんどです。ゴッソーサンなどの形に変化した挨拶もみられますが、特に地域的な傾向はみられません。

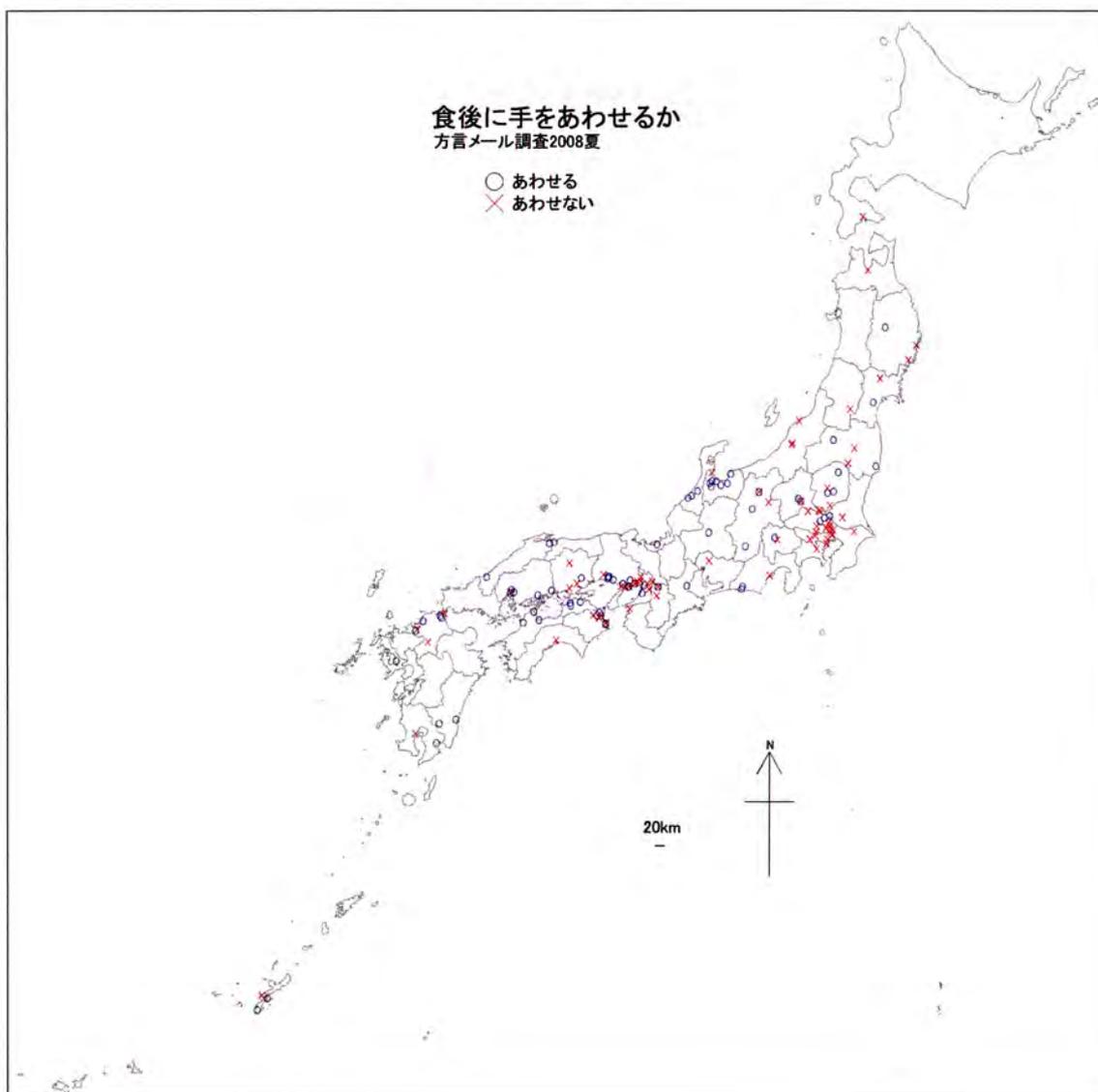
中部地方ではイタダキマシタという、他の地域とはことなった挨拶になっています。物をもらった場面での感謝のことばを扱った『方言文法全国地図』第 266～270 図では、中部地方における感謝をあらわす表現としてゴチソーサマが分布しています。ゴチソーサマが感謝の表現にもちいられているため、食後の挨拶は異なる表現となった可能性があります。

(鍵水兼貴)

30-1. 食後に手をあわせるか

食事を食べ終わるときに、手をあわせませんか。

a.あわせる b.あわせない



分布の解説

29の食後の挨拶を言うときに、手をあわせるかどうかについてたずねたものです。

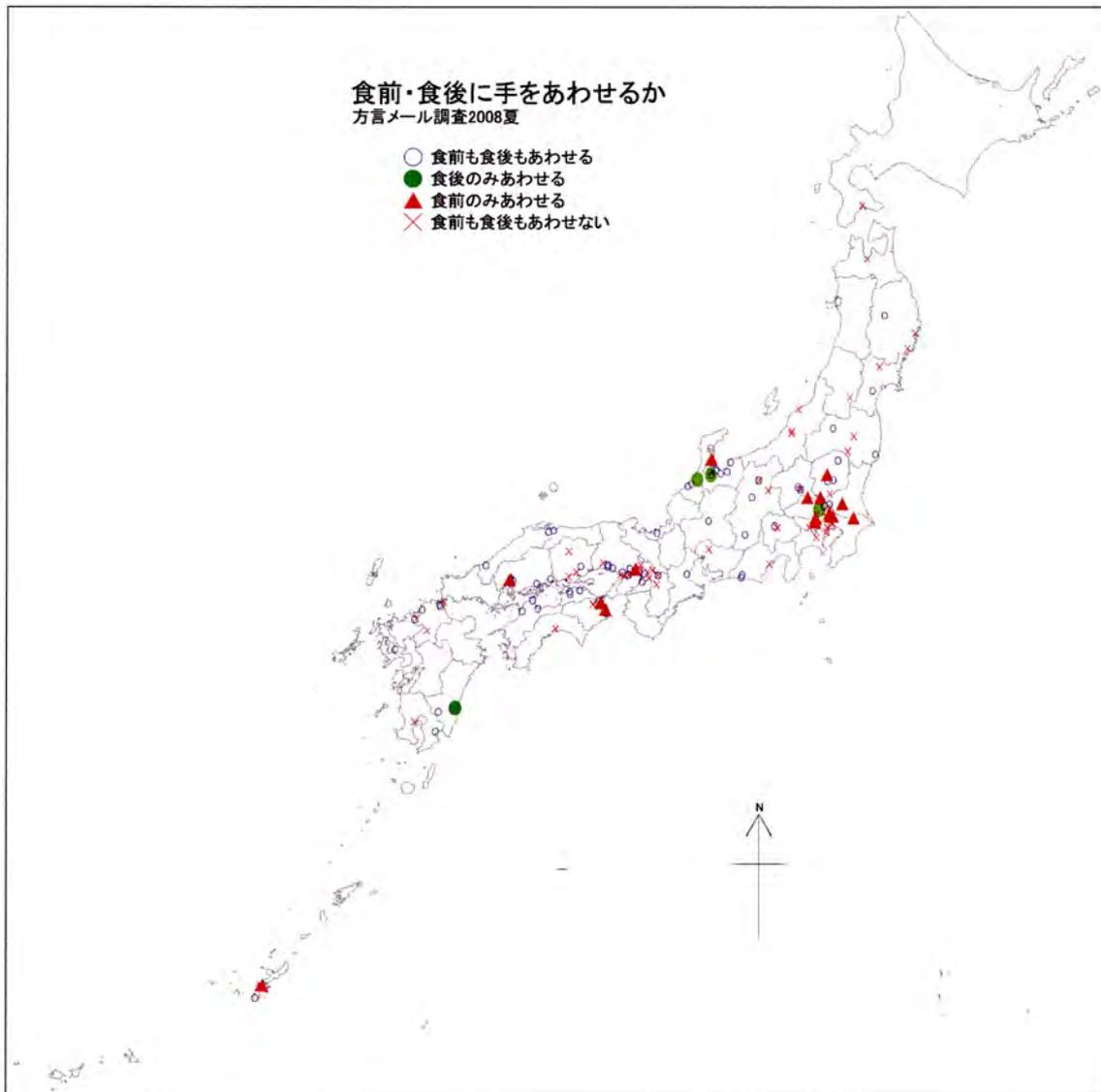
全体的にみると、やや東日本のほうが手をあわせない傾向があるようです。特に東京ではほとんどの人が手をあわせないと回答しています。

西日本でも大阪では手をあわせないと回答が多く、大都市部において、手をあわせる習慣がなくなっていることがうかがえます。

このあとに、28の食前に手をあわせるかについての結果とあわせた総合図を末尾に付しましたので、ご覧ください。

(鍾水兼貴)

30-2. 食前・食後に手をあわせるか



分布の解説

食事の際に手をあわせる行為についての総合図です。28の食前と、30-1食後の結果を一枚の地図であらわしました。食前食後ともに手をあわせる場合には青い○、どちらも手をあわせない場合には赤い×となっています。

全国的にみて、東日本ではあまり手をあわせず、西日本では手をあわせる傾向があります。また、東京・大阪などの大都市でも手をあわせない回答が多くみられます。

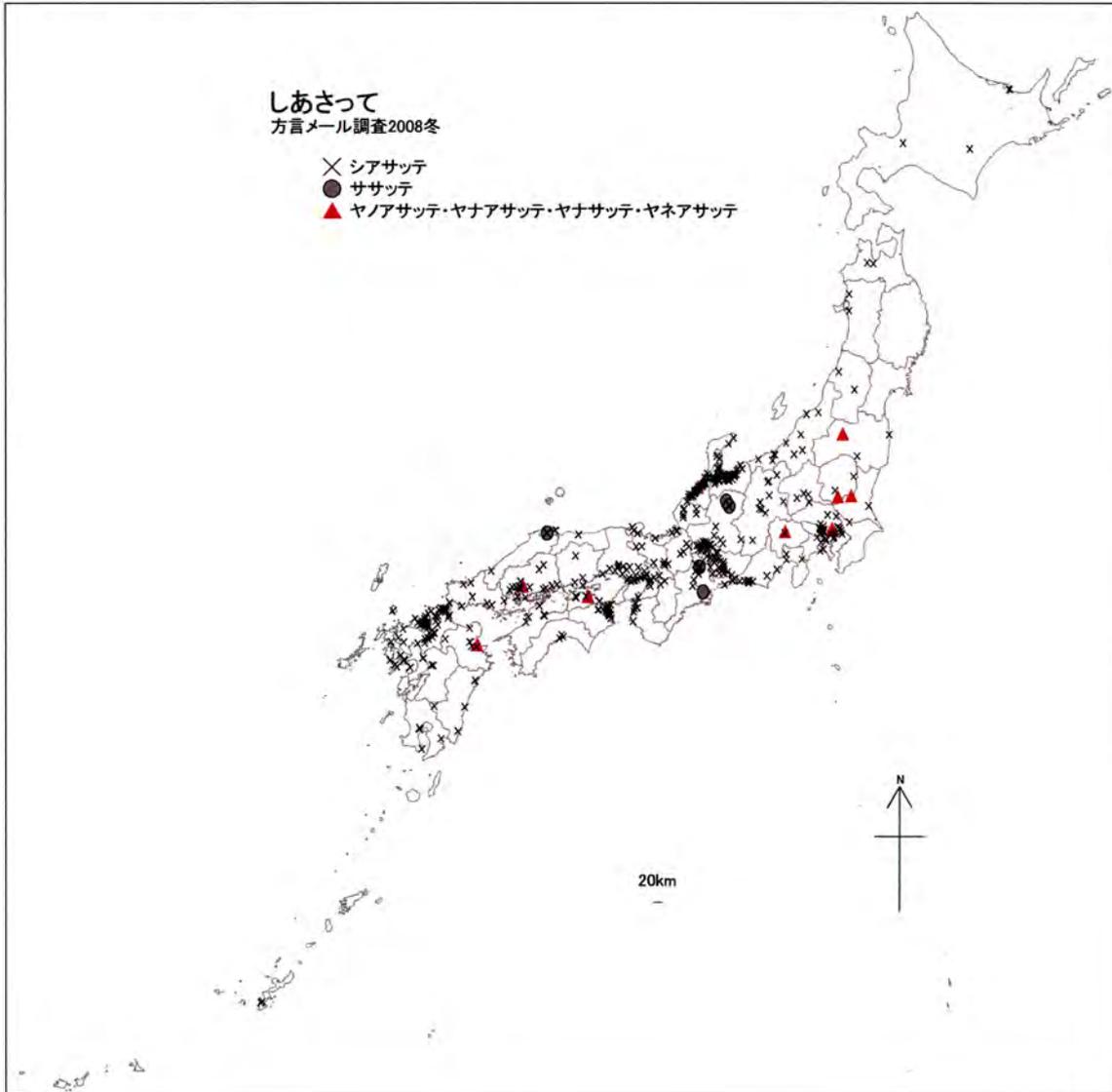
赤い▲は食前のみ手をあわせる人をあらわしています。手をあわせない人の多い東京ですが、あわせるとしても食前のみという人が多いようです。

(鎌水兼貴)

31. しあさって

あさっての次の日のことは何と言いますか。

a. シアサッテ b. ヤノアサッテ c. その他



分布の解説

あさっての翌日、つまり3日後を表す名称の分布を調べるのが狙いです。

『日本語地図』第 285 図では、大きく東日本がヤノサッテ、西日本でシアサッテという東西対立になっており、東京の都心部ではシアサッテ、中部や山陰の一部でササッテが分布していました。

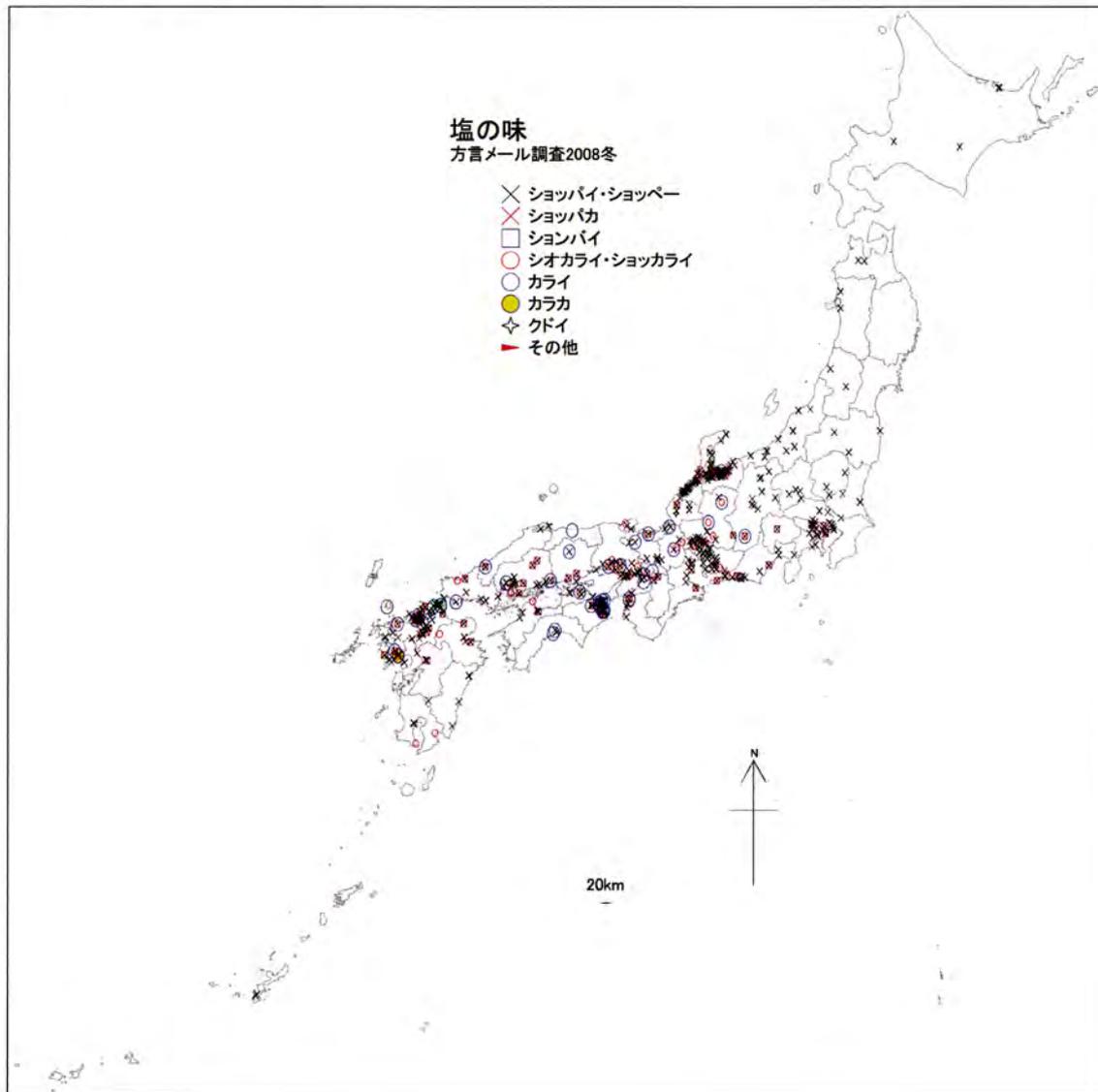
今回の調査では、全国的にシアサッテが分布しており、東日本のヤノアサッテは衰退しています。一方で、西日本には『日本語地図』ではみられなかったヤノアサッテがなぜか回答されています。また、中部や山陰でのササッテは残っていることがわかります。

(鍵水兼貴)

32. 塩の味

塩の味はどんなだと言いますか。

a. ショッパイ b. カライ c. シオカライ d. その他



分布の解説

塩味についての表現の分布を調べるのが狙いです。

『日本語地図』第39図では、東日本でショッパイ・ショッペー、西日本でカライ・カラカという東西対立になっています。

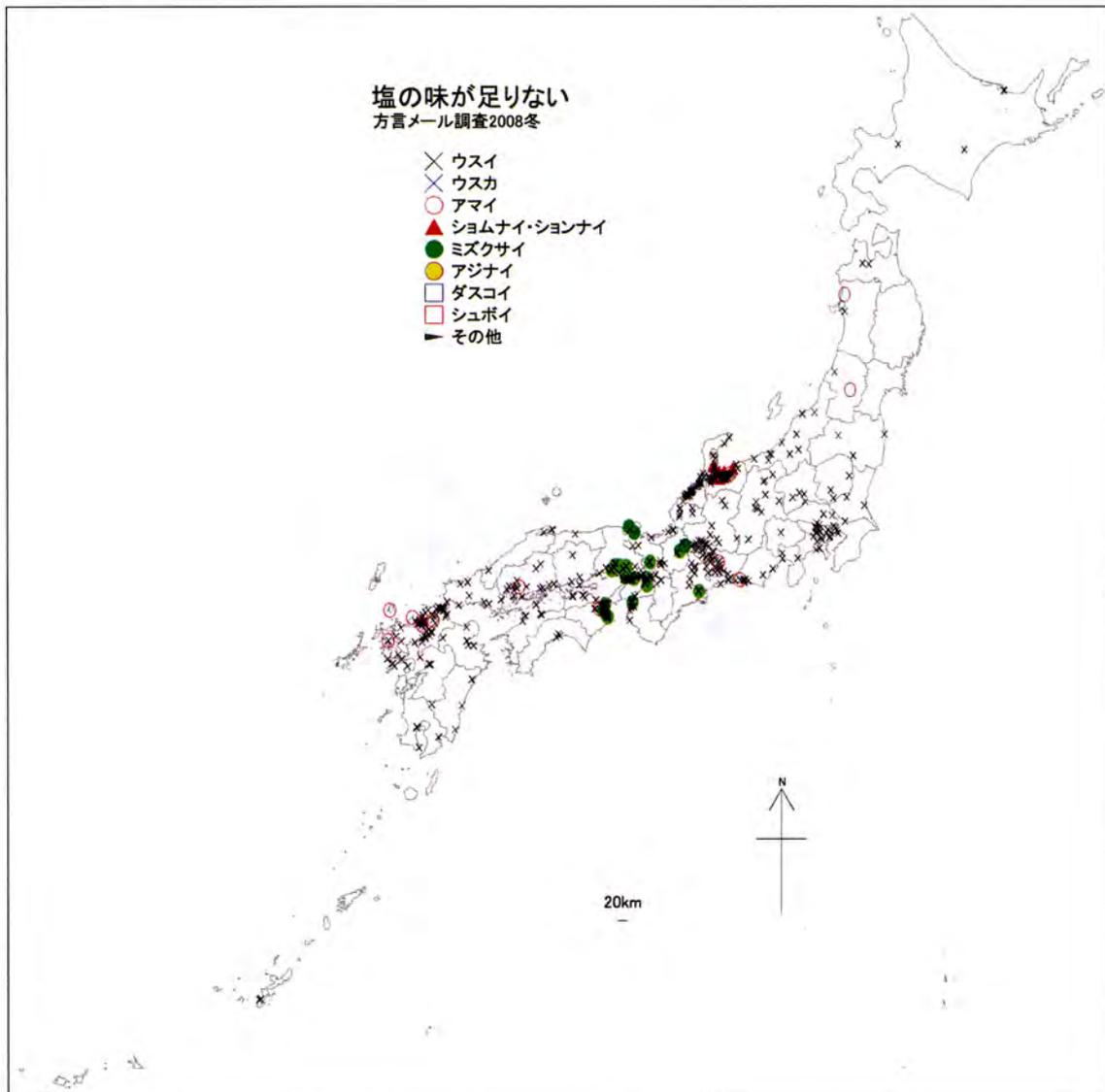
今回の調査では、ショッパイが全国的に広がっており、西日本ではカライからシオカライに変わっています。カライ・カラカも依然として残っており、ショッパイ・シオカライ・カライの3語形が並存する地域も多くみられます。そのほかとしては、『日本語地図』で北陸でみられたクドイが、今回の調査でも富山と福井で回答されています。地図ではよくみえませんが、九州ではショッパイを九州方言として取り入れた語形のショッパカが回答されています。

(鐘水兼貴)

33. 塩の味が足りない

しる(つゆ)などを作ったとき塩の味が足りないのを言うのに、しる(つゆ)の味がどんなだと言いますか。

a.ウスイ b.ミズクサイ c.アマイ d.その他



分布の解説

塩の味が足りない表現の分布を調べるのが狙いです。

『日本語地図』第38図では、近畿地方を中心にミズクサイが、その外側の四国、中部、関東などでウスイが、さらに外側の東日本・西日本全域でアマイが分布しています。

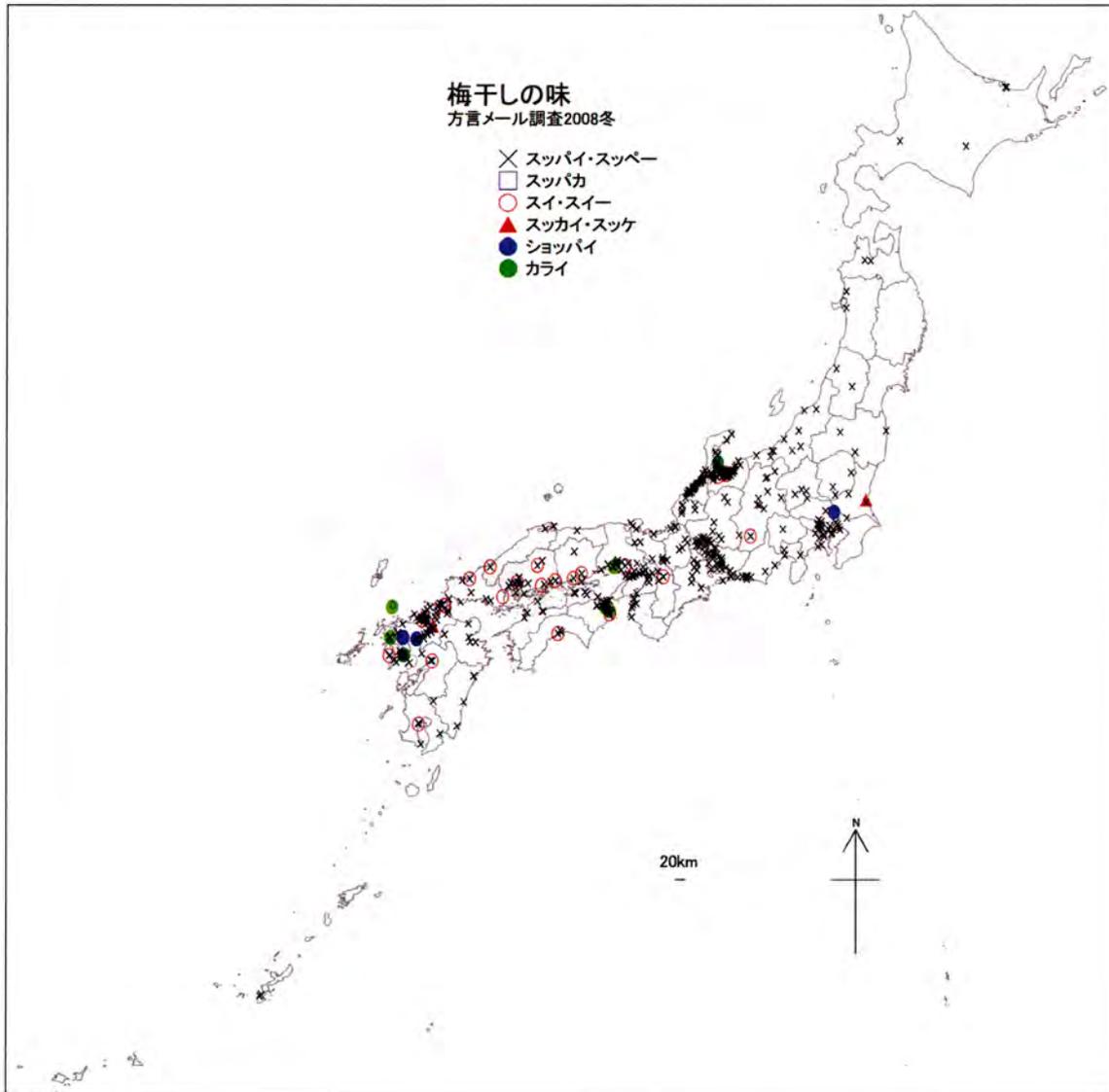
今回の調査では、全国的にウスイが広がっています。アマイは九州北部、東海、東北に残っており、ミズクサイも依然として近畿を中心に残っています。また、富山では、『日本語地図』では石川・富山などにみられるシヨムナイ・シヨンナイが分布しています。このほか、徳島でのシュボイ、富山でのダスコイといった、『日本語地図』にはみられなかった語形も回答されています。

(鐘水兼貴)

34. 梅干しの味

梅干しの味はどんなだと言いますか。

a. スッパイ b. スッカイ c. スイ d. カライ e. その他



分布の解説

梅干しの酸味についての表現の分布を調べるのが狙いです。同じ酸味の質問として、35「レモンの味」もご覧下さい。

『日本言語地図』第41図では、東日本ではスッパイ・スッカイ、西日本ではスイ・スイー・スイカと、大きくみて東西対立になっています。

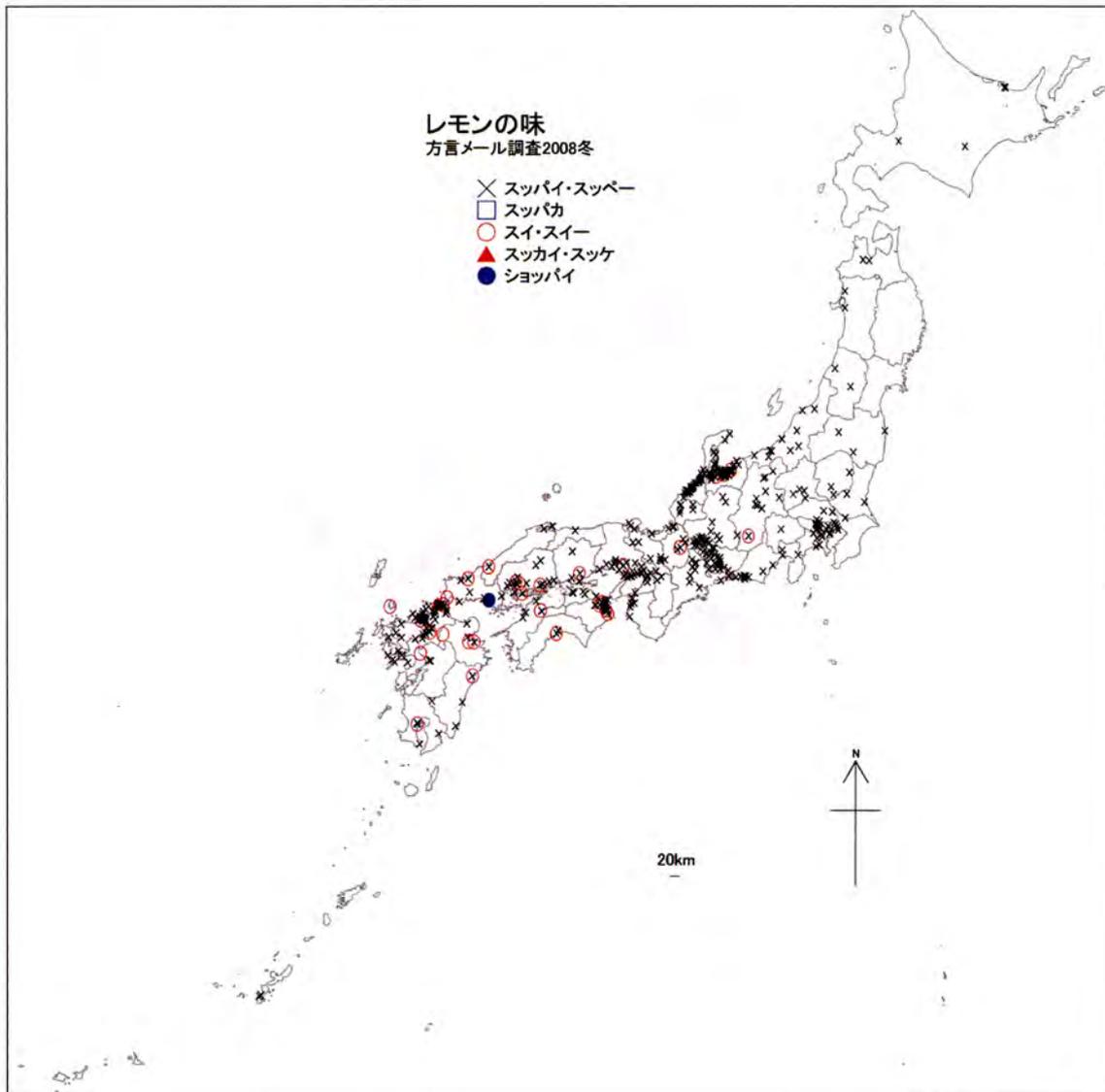
今回の調査では、スッパイが全国的に広がっています。西日本でのスイは衰退しながらも依然として残っています。また、九州でシヨツパイ・カライという回答がみられます。

(鍾水兼貴)

35. レモンの味

レモンの味はどんなだと言いますか。

- a. スッパイ b. スッカイ c. スイ d. カライ e. その他



分布の解説

レモンの酸味についての表現の分布を調べるのが狙いです。同じ酸味の質問として、34「梅干しの味」もご覧下さい。レモンの場合には、梅干しとは異なり、酸味に特化した表現が期待されます。

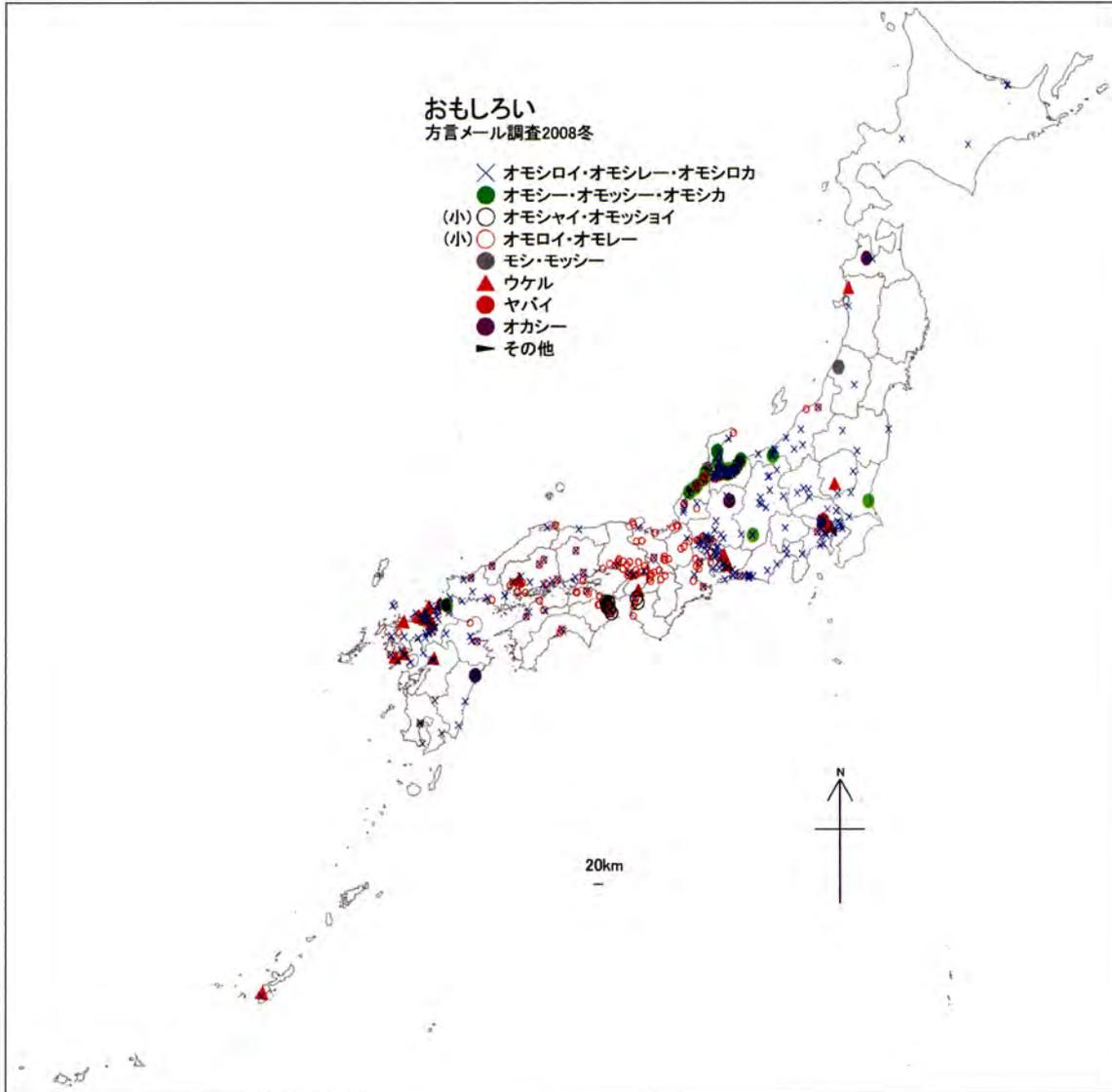
今回の調査では、全国的にスッパイが広がり、西日本ではスイが残っています。34「梅干しの味」で九州にみられたショッパイ・カライは、同地域ではみられません。ただし、1地点、山口でショッパイが回答されています。

(鎌水兼貴)

36. おもしろい

笑いながら「それはおもしろいね」と言うとき、「おもしろい」の部分をごどのように言いますか。

- a.オモシロイ b.オモロイ c.その他



分布の解説

「おもしろい」という表現についての分布を調べるのが狙いです。

今回の調査では、近畿を中心にオモロイ、それ以外の地方ではオモシロイが広がっています。九州では形容詞の語尾が「～カ」となるため、記号はわけていませんが、オモシロカも多くみられます。北陸ではオモシー・オモッシーがみられ、徳島・和歌山ではオモシャイ・オモッショイが回答されています。

ウケルは新しい表現と思われます。九州で多く回答されているほか、全国各地で見られるため、広がりつつある語形かもしれません。

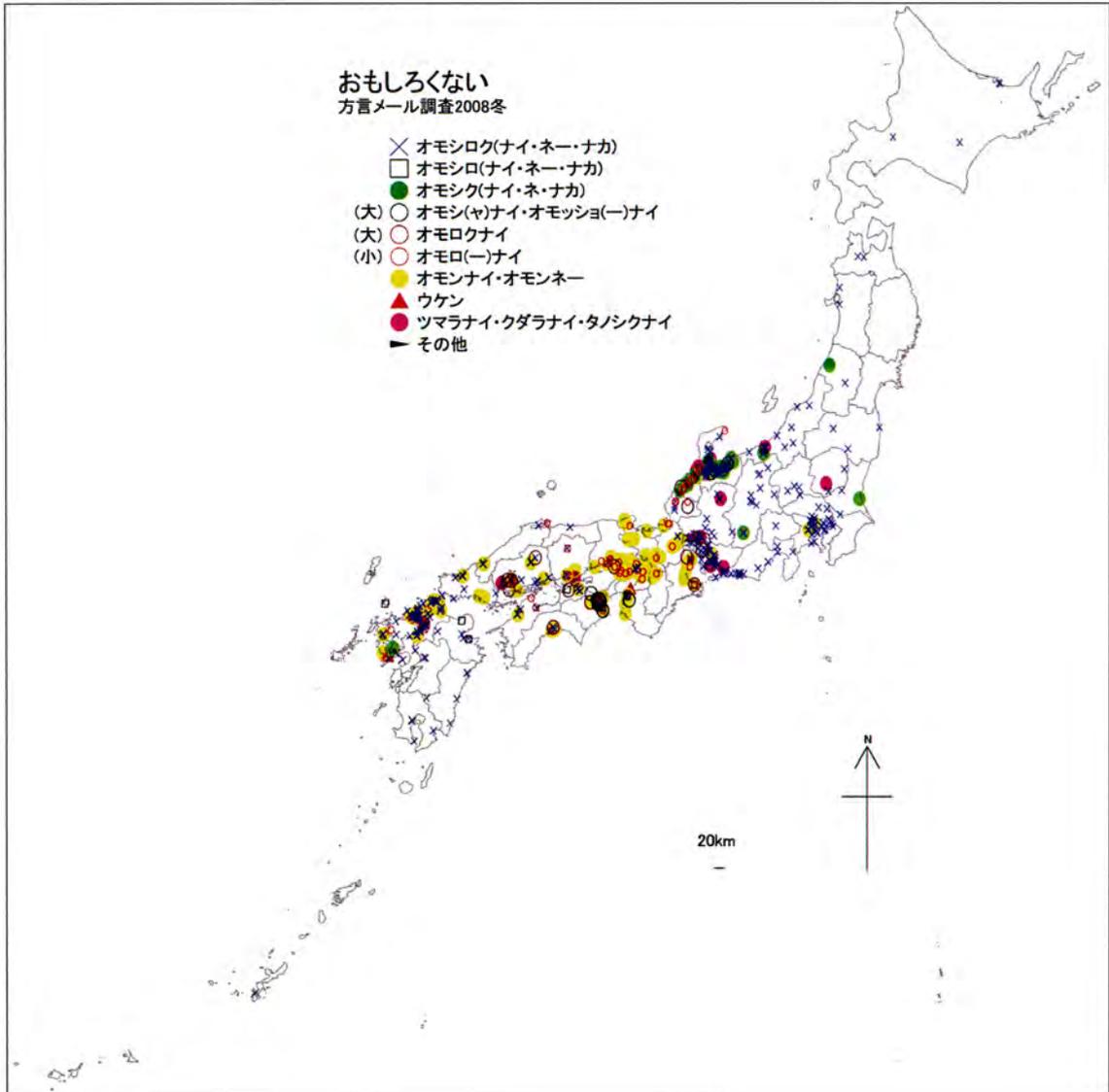
否定表現である37「おもしろくない」もご覧下さい。

(鎌水兼貴)

37. おもしろくない

「全然おもしろくない」と言うとき、「おもしろくない」の部分をごどのように言いますか。

- a.オモシロクナイ b.オモロナイ c.オモンナイ d.その他



分布の解説

「おもしろくない」という表現についての分布をみるのが狙いです。

36「おもしろい」の分布に対応して、近畿を中心にオモロナイが、それ以外の地方でオモシロクナイが広がっています。西日本を詳しく見ると、近畿でオモロナイ、その周辺部の中部や中国、四国にオモロクナイ、オモンナイが、北陸や和歌山・徳島にオモシヤナイ、オモッショナイが分布しています。

これらとは別に、西日本にオモンナイが広く分布しており、北九州まで広がっているほか、東京でも回答がみられます。「おもしろい」では九州に多くみられたウケルですが、否定形のウケンはありません、オモンナイが使用されているようです。

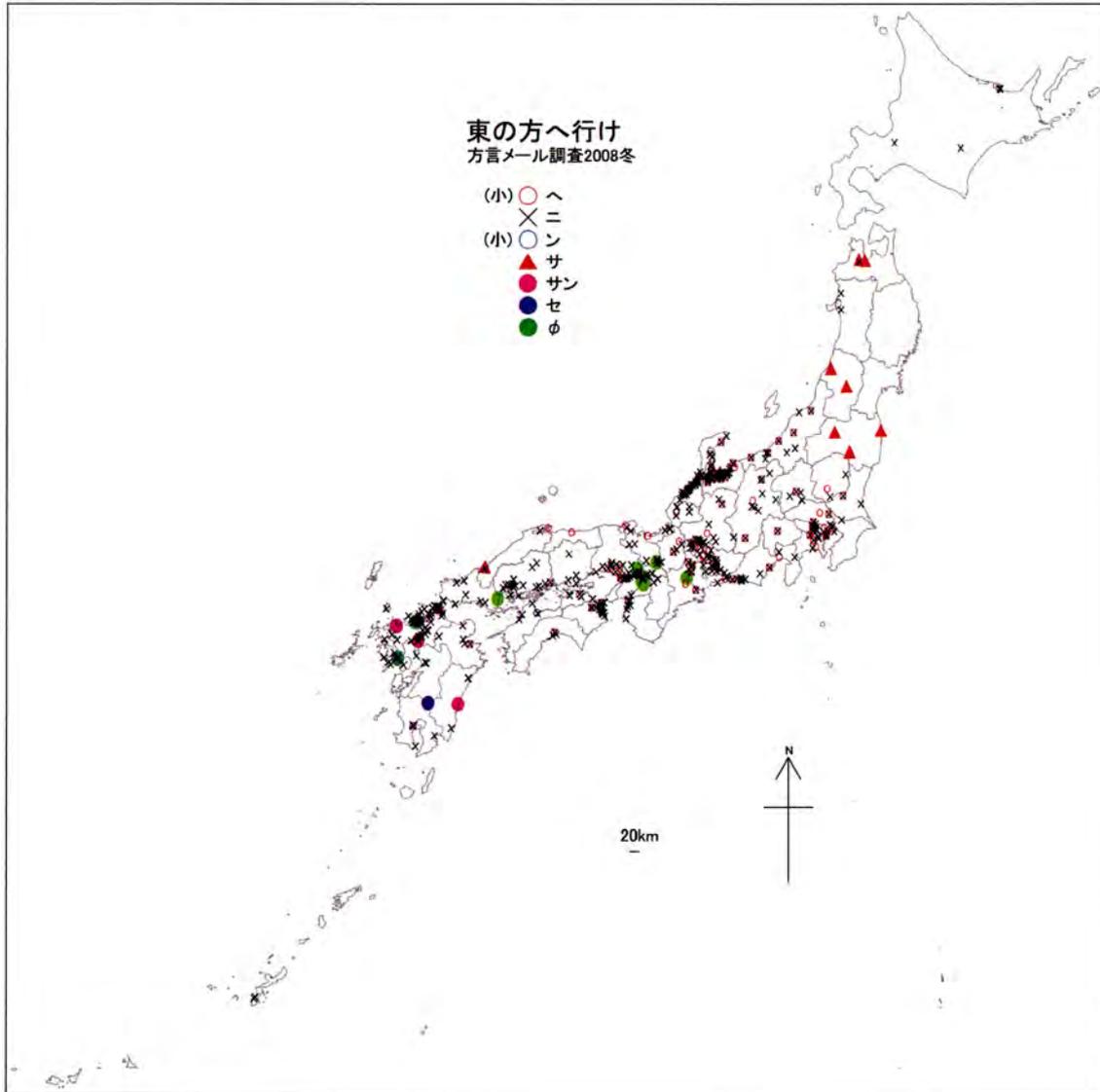
肯定表現である、36「おもしろい」もご覧下さい。

(鍵水兼貴)

38. 東の方へ行け

「どちらの方角に行ったら良いか」と聞かれて「東の方へ行け」と教えるとき、「へ」のところをどのように言いますか。

- a.へ (解説ではエをさしていると解釈します) b.ニ c.サ d.サン e.サニヤ f.その他



分布の解説

移動する方面をあらわす助詞の分布を調べるのが狙いです。

『方言文法全国地図』第 19 図では、関東から中四国にかけての広範囲でエが分布しており、東北でサ、九州でサン・セー・サネなどが分布しています。

今回の調査でも、東北ではサが分布しており、九州でもサン、セなどが回答されています。全国的には、『方言文法全国地図』ではわずかであったニが広く分布している一方で、エは東日本を中心とした分布に縮小しています。また、近畿では助詞を使わない(φ)という回答が多くみられますが、直前の音(ホー)が長音であるため、本当に助詞が無いかは確認できません。

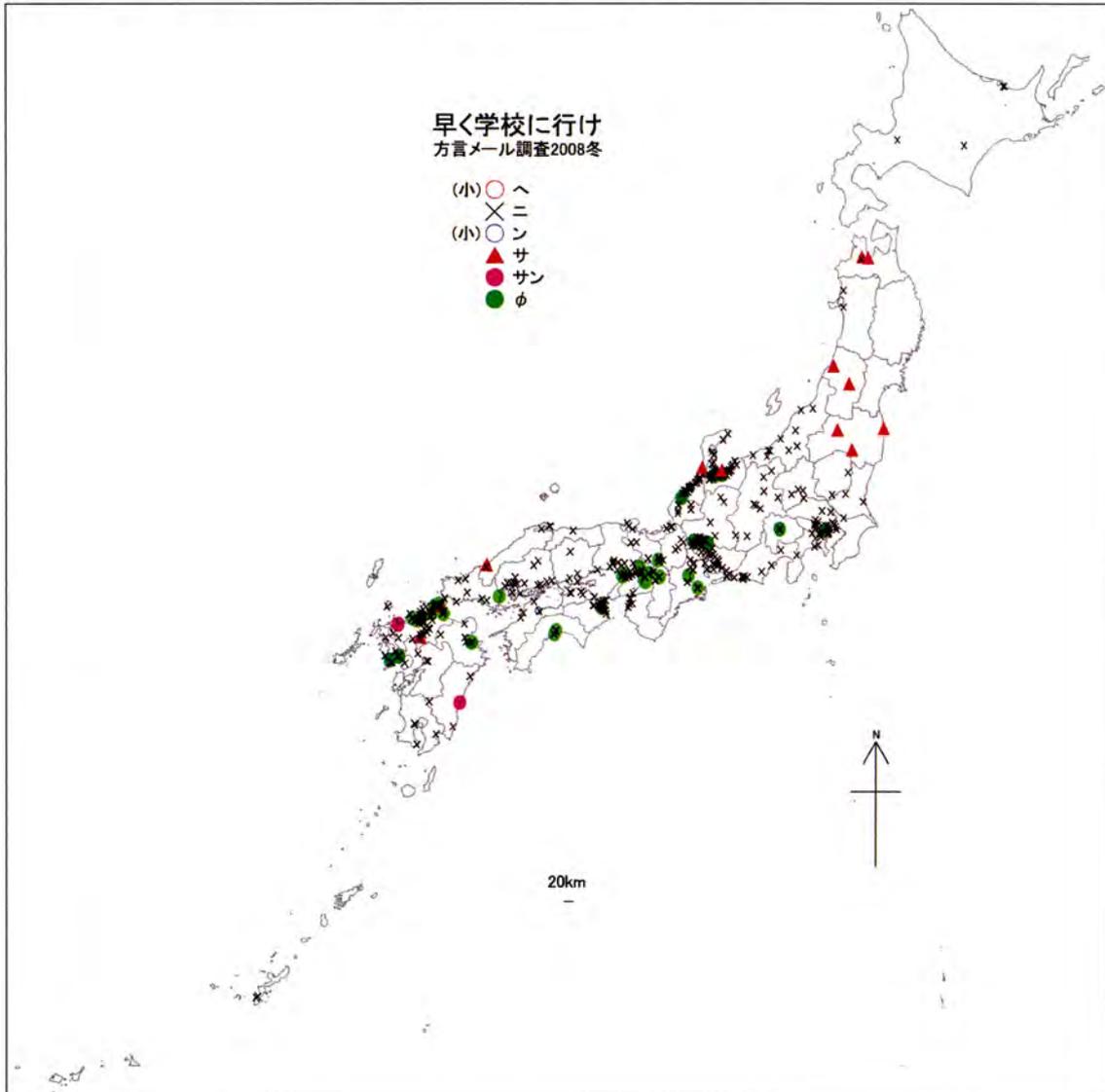
39「早く学校に行け」もご覧下さい。

(鍵水兼貴)

39. 早く学校に行け

「早く学校に行け」と言うとき、「に」のところをどのように言いますか。

a.へ (解説ではエをさしていると解釈します) b.ニ c.サ d.サン e.サニャ f.その他



分布の解説

移動する方向をあらわす助詞の分布を調べるのが狙いです。

今回の調査では、38(東の方へ行け)と同様に、東北ではサが、九州ではサやサンが回答されています。この表現における九州のサ・サンは新しく広がったと考えられます。全国的にはニが広く分布し、エは東日本を中心とした分布となっており、38 と似た分布になっています。近畿では助詞を使わない(φ)という回答が多くみられますが、直前の音(コー)が長音であるため、本当に助詞が無いかは確認できません。

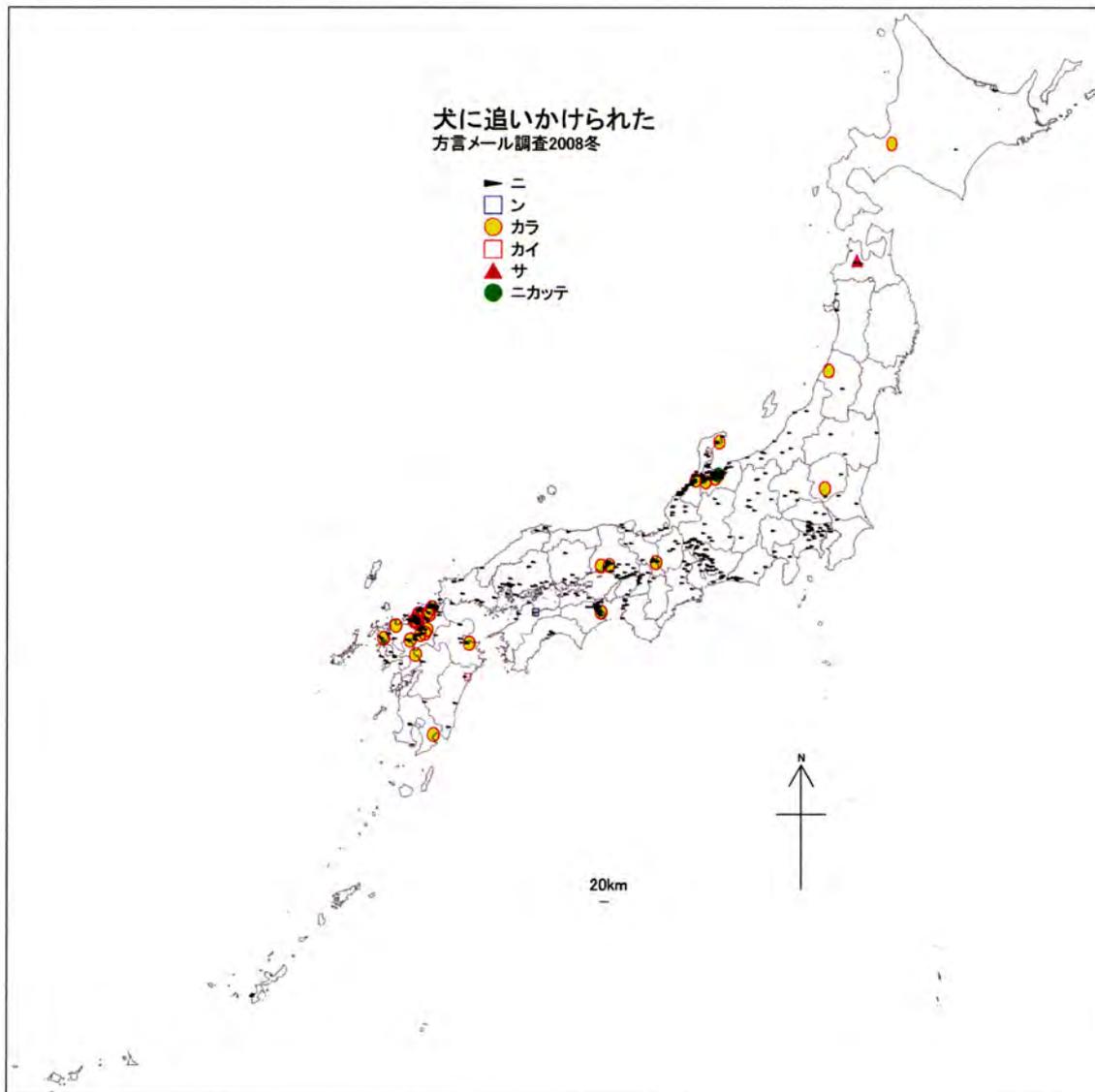
38「東の方へ行け」もご覧ください。

(鏑水兼貴)

40. 犬に追いかけられた

「犬に追いかけられた」と言うとき、「に」のところをどのように言いますか。

a.ニ b.カラ c.ニカッテ d.その他



分布の解説

受身の動作主の「に」についての表現の分布を調べるのが狙いです。

『方言文法全国地図』第 27 図では、全国的にニが分布しており、それ以外では、山形と西九州にカラが、秋田を中心にニカッテが分布していました。

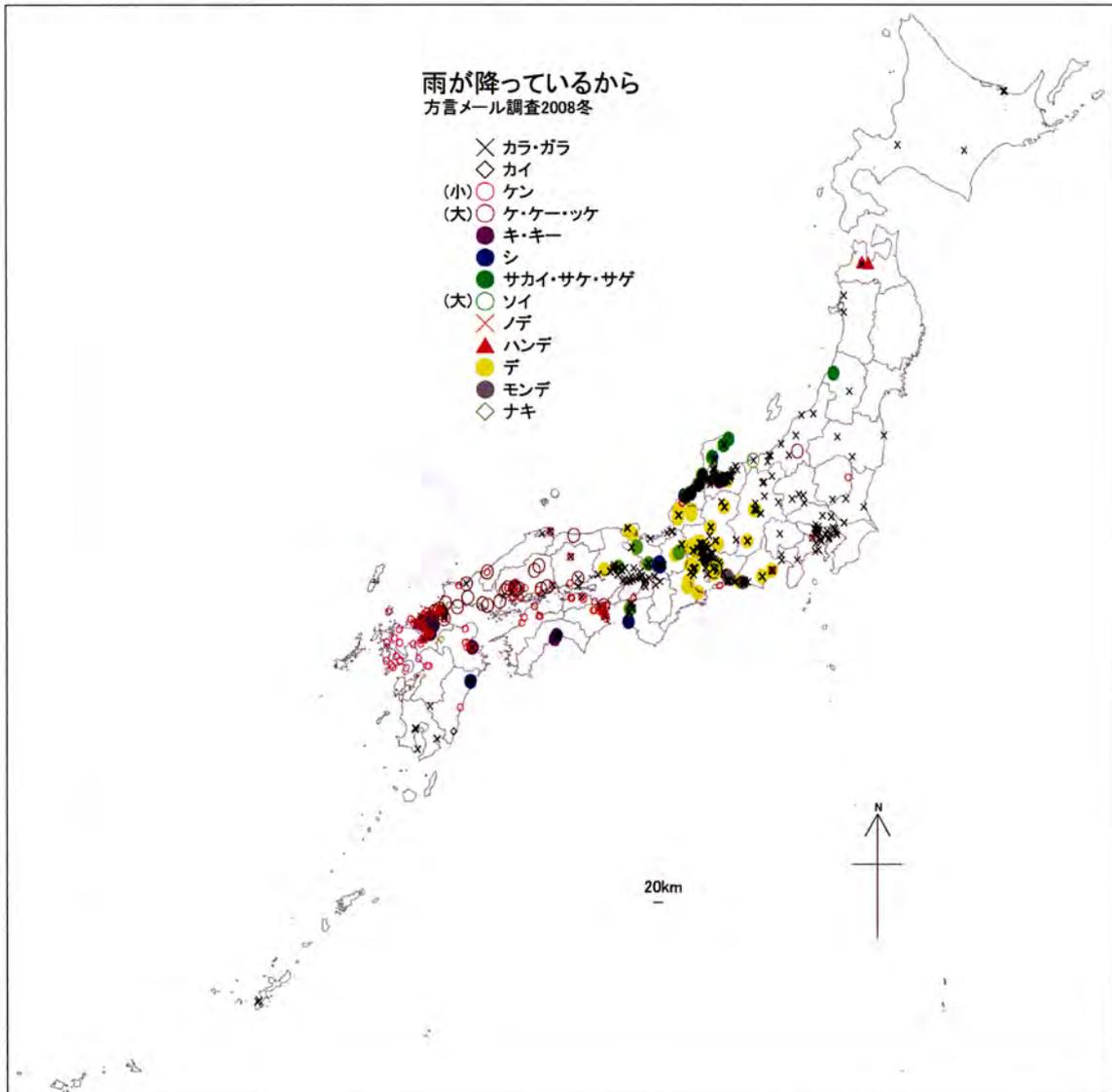
今回の調査でも全国的にニが分布していますが、九州ではカラが拡大しています。また、山形でも回答がみられます。興味深いことに、カラは九州以外でも新たに現れています。青森では同様にサが新たに現れています。

(鎌水兼貴)

41. 雨が降っているから

「雨が降っているから行くのはやめろ」と言うとき、「から」のところをどのように言いますか。

a.カラ b.ケン c.キー d.サカイ e.ハデ f.デ g.その他



分布の解説

原因・理由をあらわす「から」表現の分布を調べるのが狙いです。

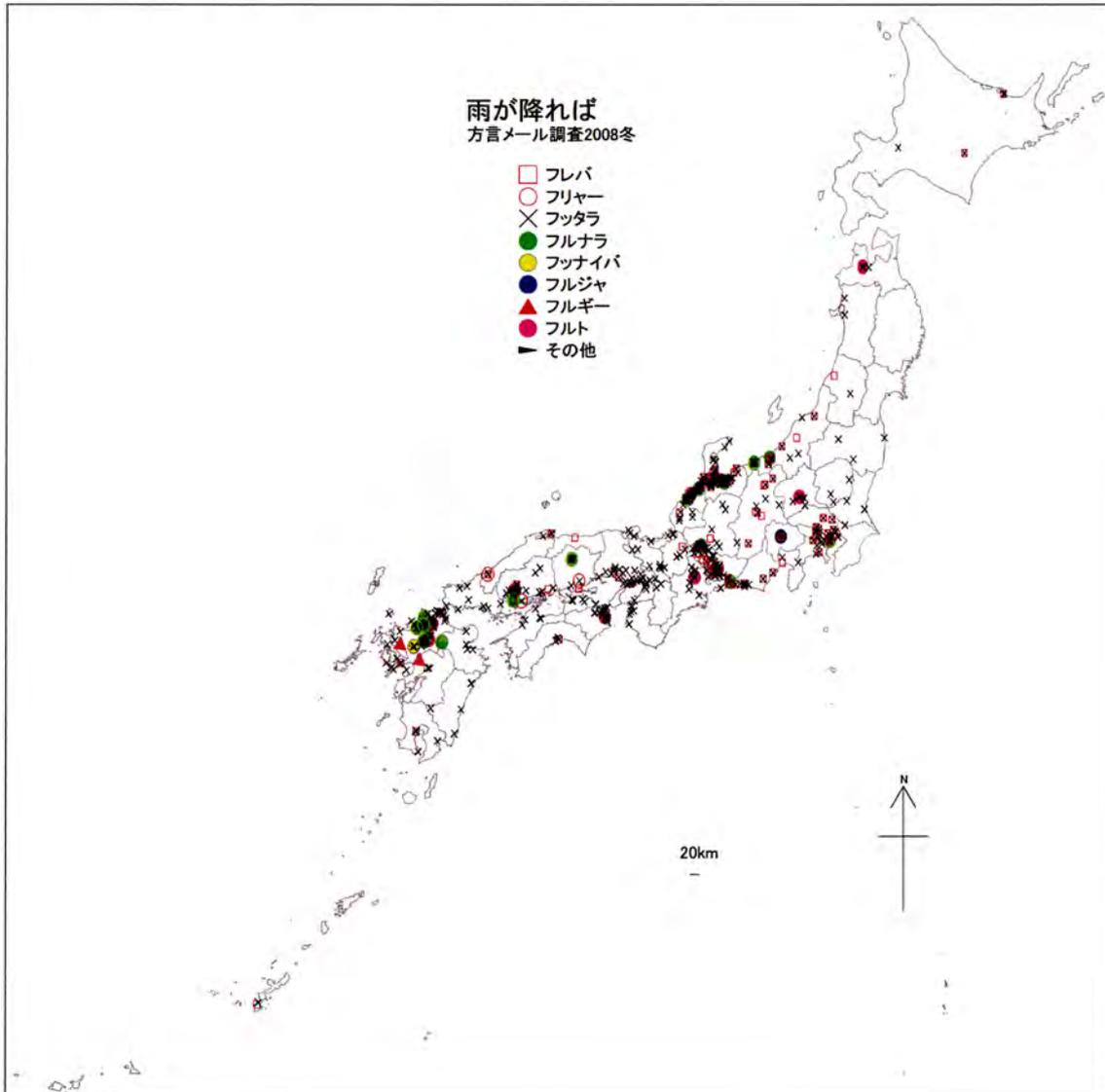
今回の調査では、カラは、近畿以東に広く分布しています。近畿から北陸、山形にかけてはサカイ・サケ・サゲが分布し、それを取り巻く中部から兵庫にかけてデが分布しています。また、中国地方ではケ・ケー、四国から九州にかけてはケン、高知や大分ではキーがみられ、青森ではハンデが回答されています。近畿のサカイ、南九州でのデの減少を除けば、これらは『方言文法全国地図』第33図の分布と一致しており、現代でも積極的に方言形が使われている項目といえるでしょう。

(鎌水兼貴)

42. 雨が降れば

「あした雨が降れば船は出ないだろう」と言うとき、「降れば」のところをどのように言いますか。

a.フレバ b.フツタラ c.フルト d.フルナラ e.フルギー f.その他



分布の解説

条件をあらわす「降れば」についての分布を調べるのが狙いです。

『方言文法全国地図』第 167 図では、近畿から四国にかけてフツタラが、それ以外の多くの地域でフレバと、その融合形フリヤーが分布しています。

今回の調査では、フツタラが全国的に広がっており、フレバは東日本中心の分布に狭くなっています。一方で、九州でのナラや、佐賀でのギーなど、『方言文法全国地図』でみられた語形も依然として使用されていることがわかります。

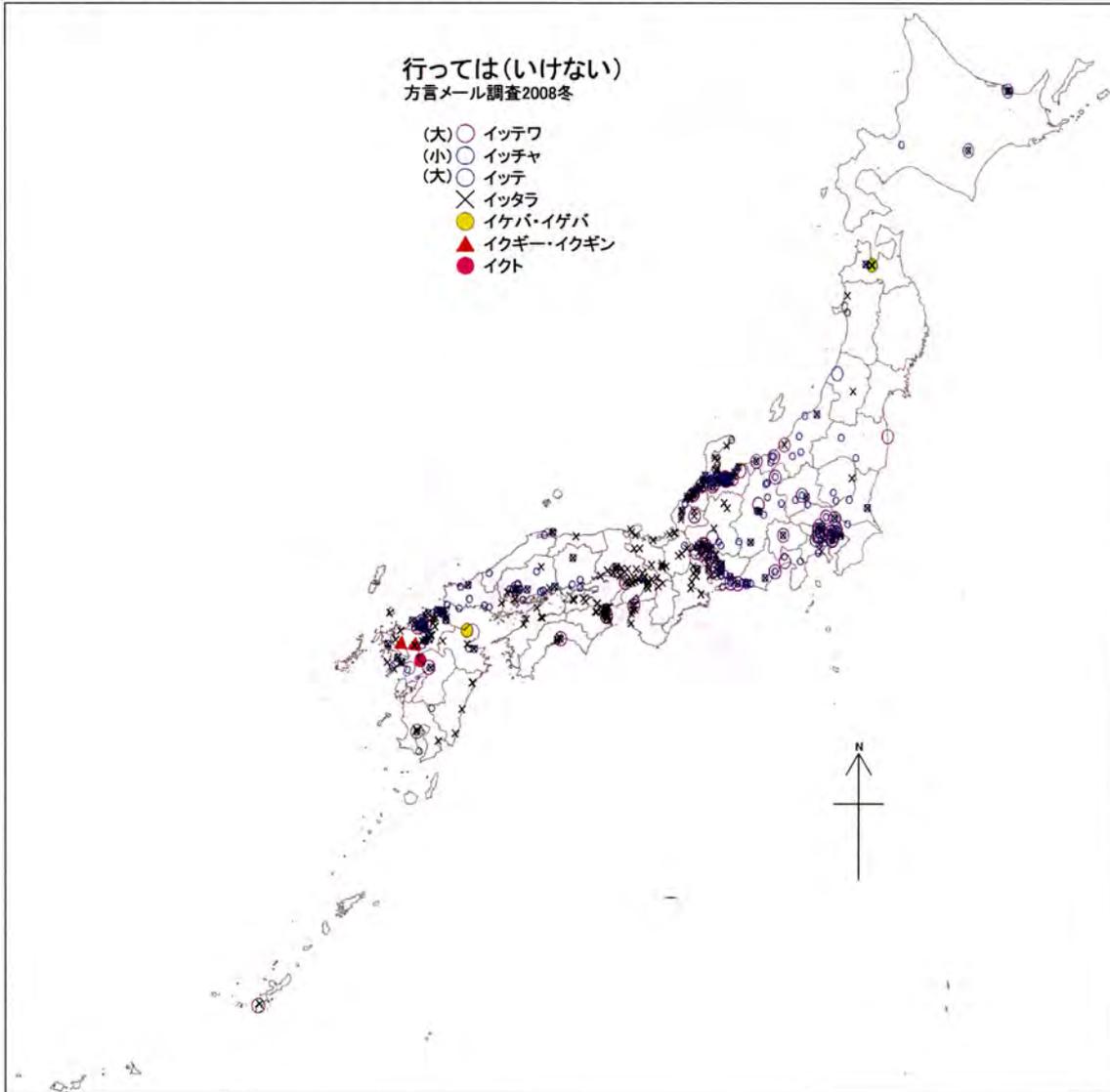
タラの広がりについては 43「行ってはいけない」もご覧下さい。

(鐘水兼貴)

43. 行ってはいけない

「そっちへ行ってはいけない」と言うとき、「行っては」のところをどのように言いますか。

a. イッテワ b. イッチャ c. イッタラ d. イケバ e. イクト f. イクギー g. その他



分布の解説

条件をあらわす「行っては」についての表現の分布を調べるのが狙いです。

『方言文法全国地図』第225図では、近畿から四国にかけてイッタラが、その周囲に広範囲にイッテワ・イッチャが分布していました。今回の調査でも、東日本ではイッテワ・イッチャが分布しているのですが、西日本では、かつて近畿のみであったイッタラの分布が西側に拡大しています。このほか、『方言文法全国地図』でみられた、北東北のイケバや、佐賀のイクギーなどは、今回の調査でも回答されています。南九州のイクトもみられますが、今回は熊本の1地点になっています。

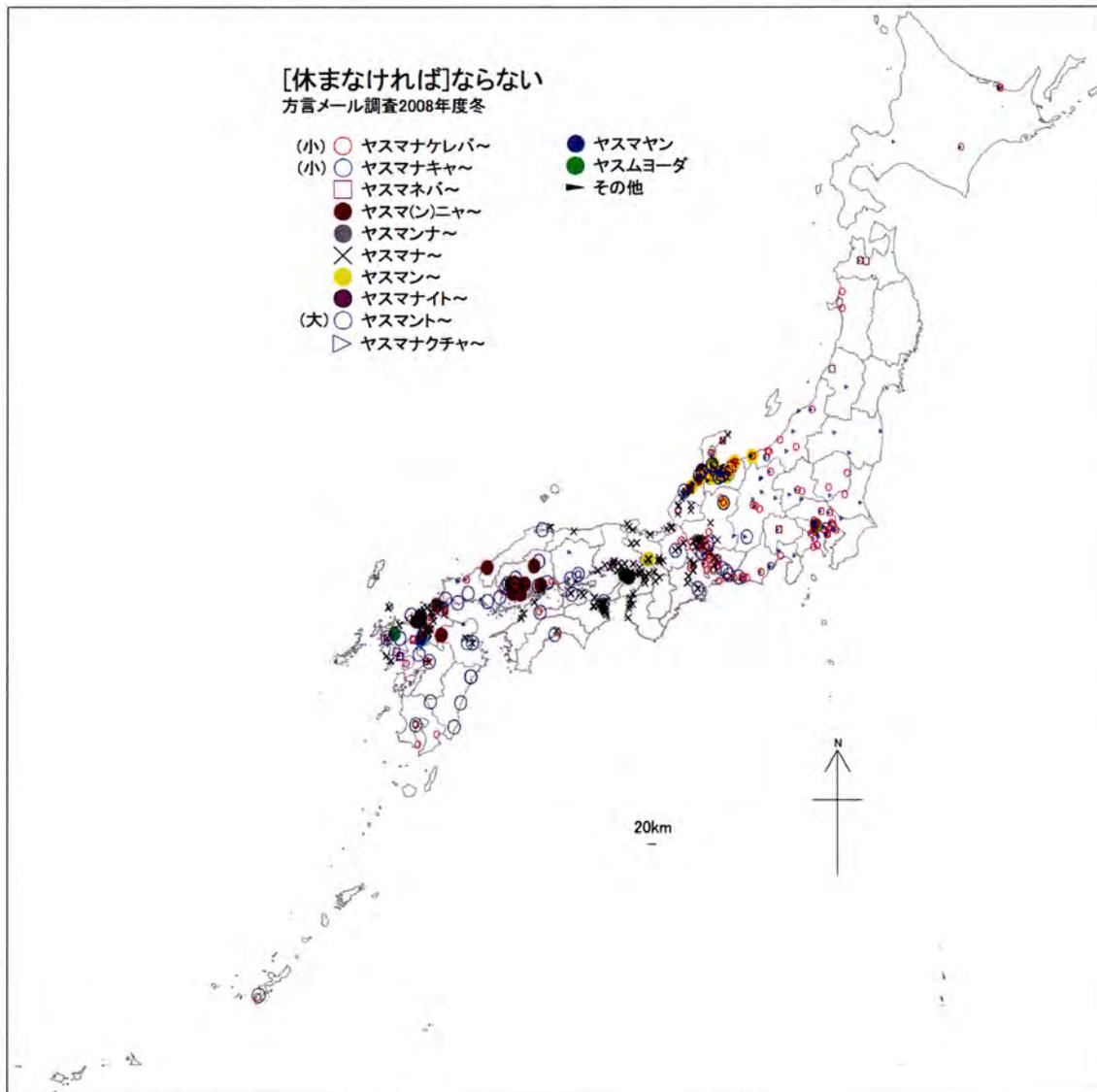
タラの広がりについては、42「降れば」もご覧下さい。

(鏑水兼貴)

44-1. 休まなければ (ならない)

「熱がかなりあるので今日の授業は休まなければならない」と言うとき、「休まなければならない」のところをどのように言いますか。

a.ヤスマナケレバナラナイ b.ヤスムヨーダ c.ヤスマナクチャナラナイ d.ヤスマナアカン e.その他



分布の解説

義務をあらわす「～なければならない」の表現の分布を調べるのが狙いです。あわせて各地にあるといわれる「～ようだ」を調べるのが狙いです。多くの表現は、前半部の「やすまなければ」の部分と、後半部の「ならない」の部分にわけることができるため、地図も2つにわけました。ただし単純に、前半部が条件表現、後半部が義務表現に対応するとは限らないので注意して下さい。ヤスマヤン、ヤスムヨーダはわけずに示しています。

前半部分の「休まなければ」の部分についてみてみます。動詞は異なりますが、『方言文法全国地図』第206図(「行かなければならない」の前半部)では、東日本では、東北でイカネバ、北関東でイカナクテワ・イカナクチャ、南関東でイカナキヤが分布しています。また、西日本では、近畿を中心にイカンとイカナが、その周囲の中部と中四国・九州ではイカニヤ(一)が分布しており、西九州ではイカンバがみられます。

今回の調査では、東日本では、東北でヤスマネバが、それ以外ではヤスマナケレバ・ヤスマナクチャが分布しており、西日本では、北陸でヤスマン、近畿でヤスマナ、中国ではヤスマンニヤ、西九州ではヤスマネバが分布しています。これらは、おおよそ『方言文法全国地図』の分布に一致しています。ただし、西日本では、ヤスマントが拡大しています。狙いの一つであったヤスムヨーダの使用は、1地点だけ関東で回答されています。

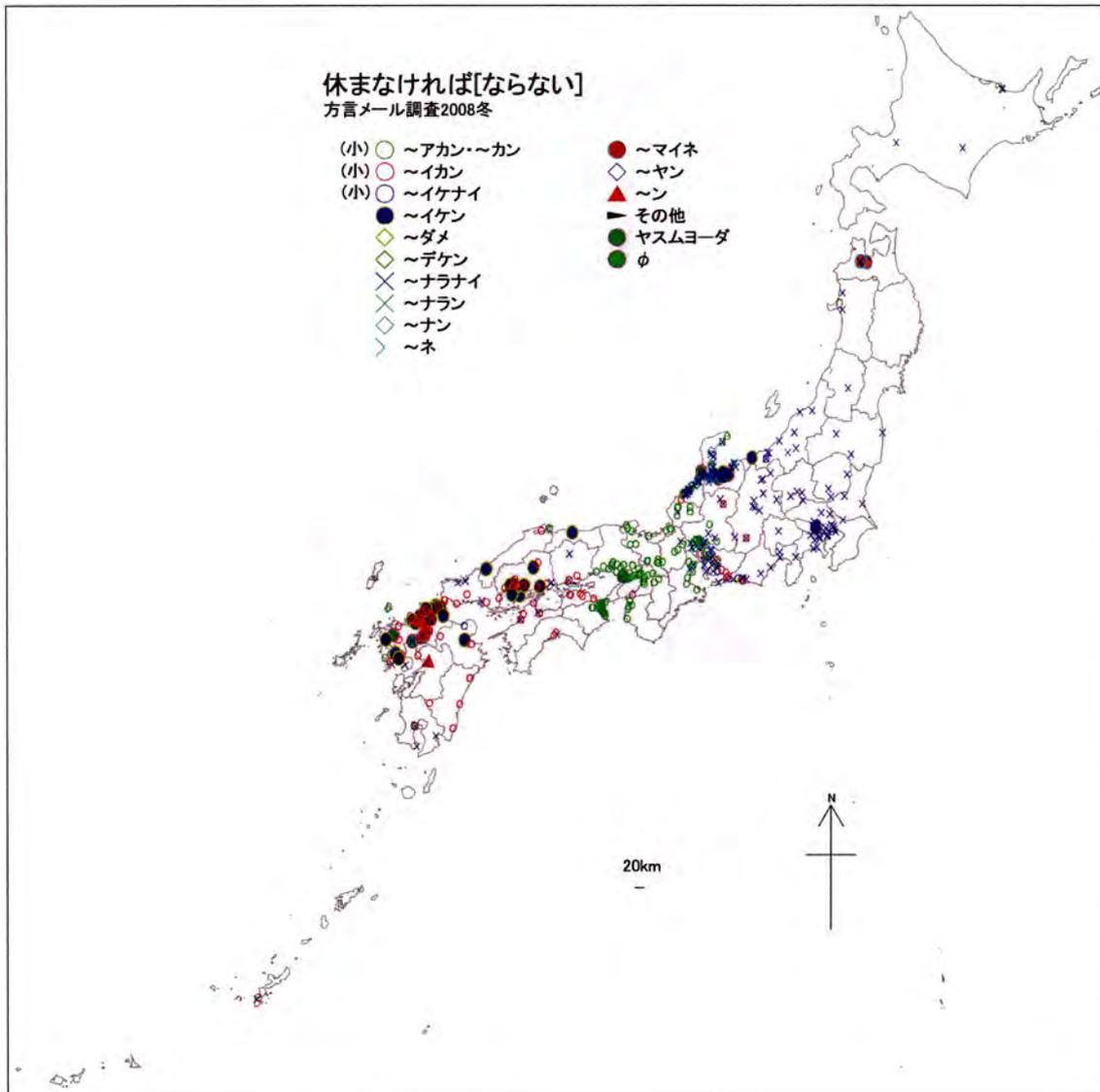
なお、ヤスマナキヤ~, ヤスマナ~のように「~」があっても、中には前半部だけで後半の「ならない」まであらわすものもあります(この場合、後半は「 ϕ 」となります)。

(鍵水兼貴)

44-2. (休まなければ) ならない

「熱がかなりあるので今日の授業は休まなければならぬ」と言うとき、「休まなければならぬ」のところをどのように言いますか。

a. ヤスマナケレバナラナイ b. ヤスムヨーダ c. ヤスマナクチャナラナイ d. ヤスマナアカン e. その他



分布の解説

義務をあらわす「～なければならぬ」の表現の分布を調べるのが狙いです。

あわせて各地にあるといわれる「～ようだ」を調べるのが狙いです。多くの表現は、前半部の「やすまなければ」の部分と、後半部の「ならない」の部分にわけることができるため、地図も2つにわけました。ただし単純に、前半部が条件表現、後半部が義務表現に対応するとは限らないので注意して下さい。

後半の「ならない」の部分についてみてみます。否定表現となるため、ナイとンによる東西対立がありますが、まとめて扱います。

『方言文法全国地図』第207図(「行かなければならぬ」の後半部)では、東日本でナラナイ、西日本でも中部・近畿と九州でナランと、広範囲にナラナイの形が分布しています。一方、西日本では、近畿を中心にアカンがさほど多くはないですが分布しており、中国ではイケン、四国イカンが分布しています。

今回の調査では、東日本では広くナラナイが広がり、西日本では、近畿でアカンが拡大し、中四国から九州にかけてはイカンが拡大しています。また、『方言文法全国地図』でみられた中国から北九州にかけてのイケンや、青森ではマイネもみられます。

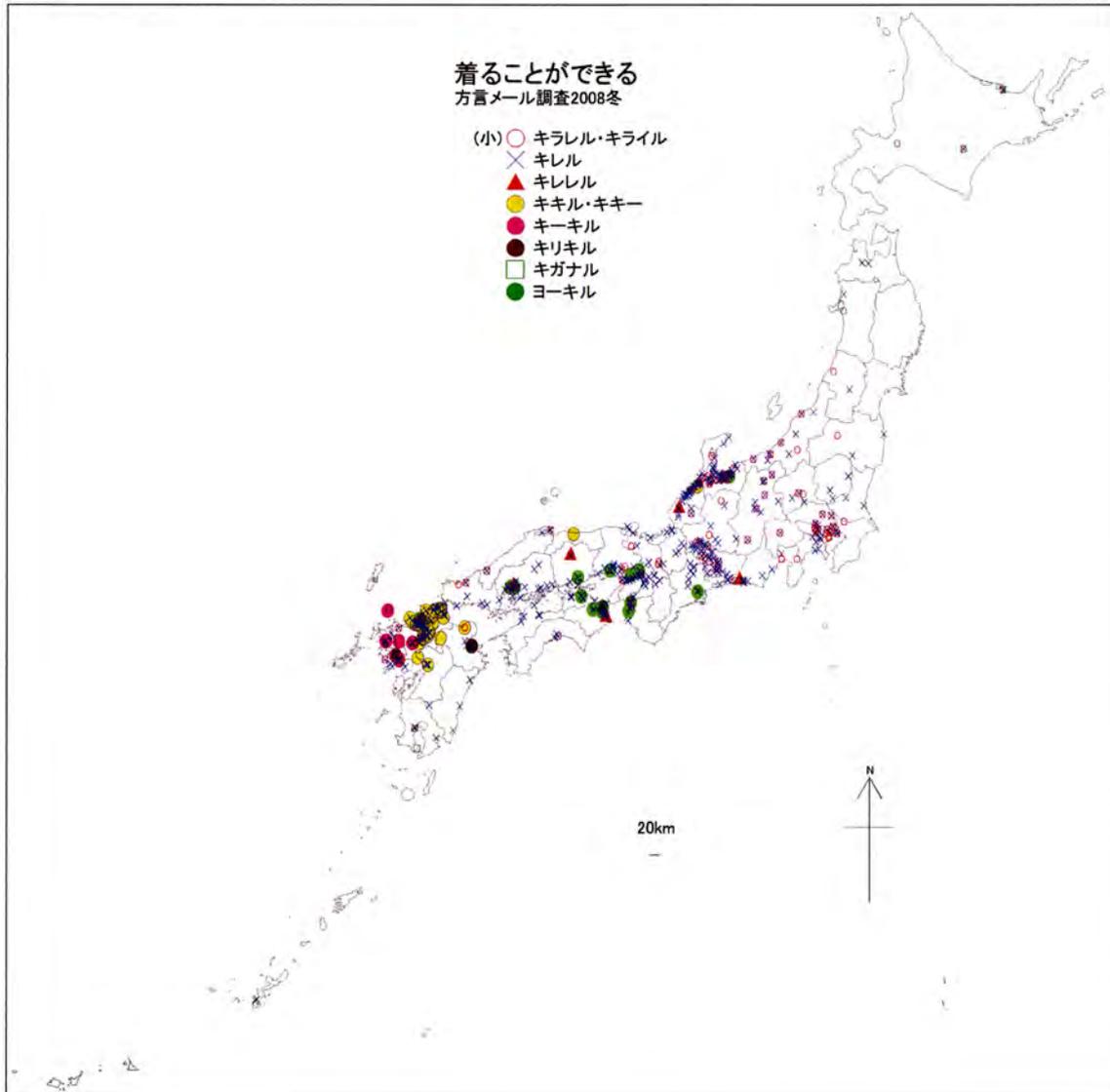
なお、φは、ヤスマナキヤ、ヤスマナのような後半部がない回答です。

(鎌水兼貴)

45. 着ることができる

「うちの孫は一人で着物を着ることができる」と言うとき、「着ることができる」のところをどのように言いますか。

a.キラレル b.キレル c.ヨーキル d.キキル e.キガナル f.キレレル g.その他



分布の解説

一段活用動詞の可能表現について、「ら抜きことば」(キラレルをキレルのように言う)「れ足すことば」(キレルをキレレルのように言う)と呼ばれる現象の分布について調べるのが狙いです。今回の調査では、「それをする能力がある」という意味での可能表現(能力可能)について質問しました。肯定、否定について、それぞれ語幹部分が1音節、2音節、3音節の動詞を調べていますので、46～50もご覧ください。

45は、1音節語幹の「着る」の可能表現について調べたものです。『方言文法全国地図』第175図では、関東ではキラレル、関東以外の東日本ではキレルが分布しており、西日本では、ヨーキルが多く、キレル、キラレルも分布しています。また、九州では、北部でキリキル、南部がキガナルが分布しています。なお、キレレルは四国や近畿の一部、東海にみられています。

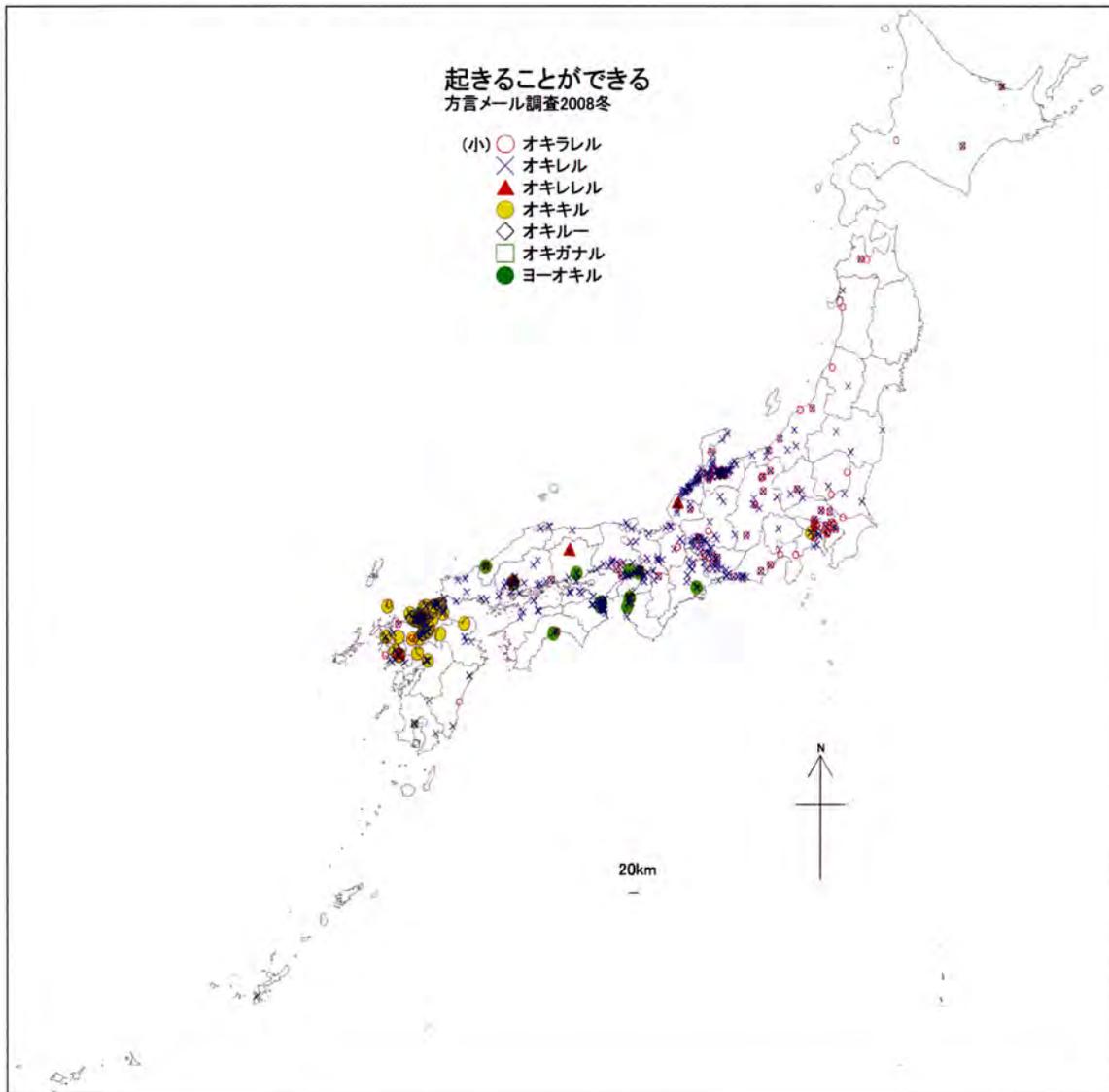
今回の調査では、全国的に「ら抜きことば」であるキレルが広がっていますが、そのほかは、東日本でキラレルが、西日本でヨーキル、九州でキーキル・キリキルがみられ、『方言文法全国地図』と似た結果になっています。ただし、ヨーキルは分布の範囲が狭くなり、キガナルも鹿児島に一地点回答があるのみになっています。また、「れ足すことば」であるキレレルは、西日本を中心に数地点分布しています。

(鎌水兼貴)

46. 起きることが出来る

「早起きなので朝5時でも起きることが出来る」と言うとき、「起きることが出来る」のところをどのように言いますか。

a.オキラレル b.オキレル c.ヨーオキル d.オキキル e.オキガナル f.オキレレル g.その他



分布の解説

一段活用動詞の可能表現について、「ら抜きことば」(オキラレルをオキレルのように言う)「れ足すことば」(オキレルをオキレレルのように言う)と呼ばれる現象の分布について調べるのが狙いです。今回の調査では、「それをする能力がある」という意味での可能表現(能力可能)について質問しました。肯定、否定について、それぞれ語幹部分が1音節、2音節、3音節の動詞を調べていますので、45, 47～50もご覧ください。

46 は、2音節語幹の「起きる」の可能表現について調べたものです。なお、動詞「着る」の可能表現ですが、『方言文法全国地図』第175図では、関東ではキラレル、関東以外の東日本ではキレルが分布しており、西日本では、ヨーキルが多く、キレル、キラレルも分布しています。また、九州では、北部でキリキル、南部がキガナルが分布しています。なお、キレレルは四国や近畿の一部、東海にみられています。

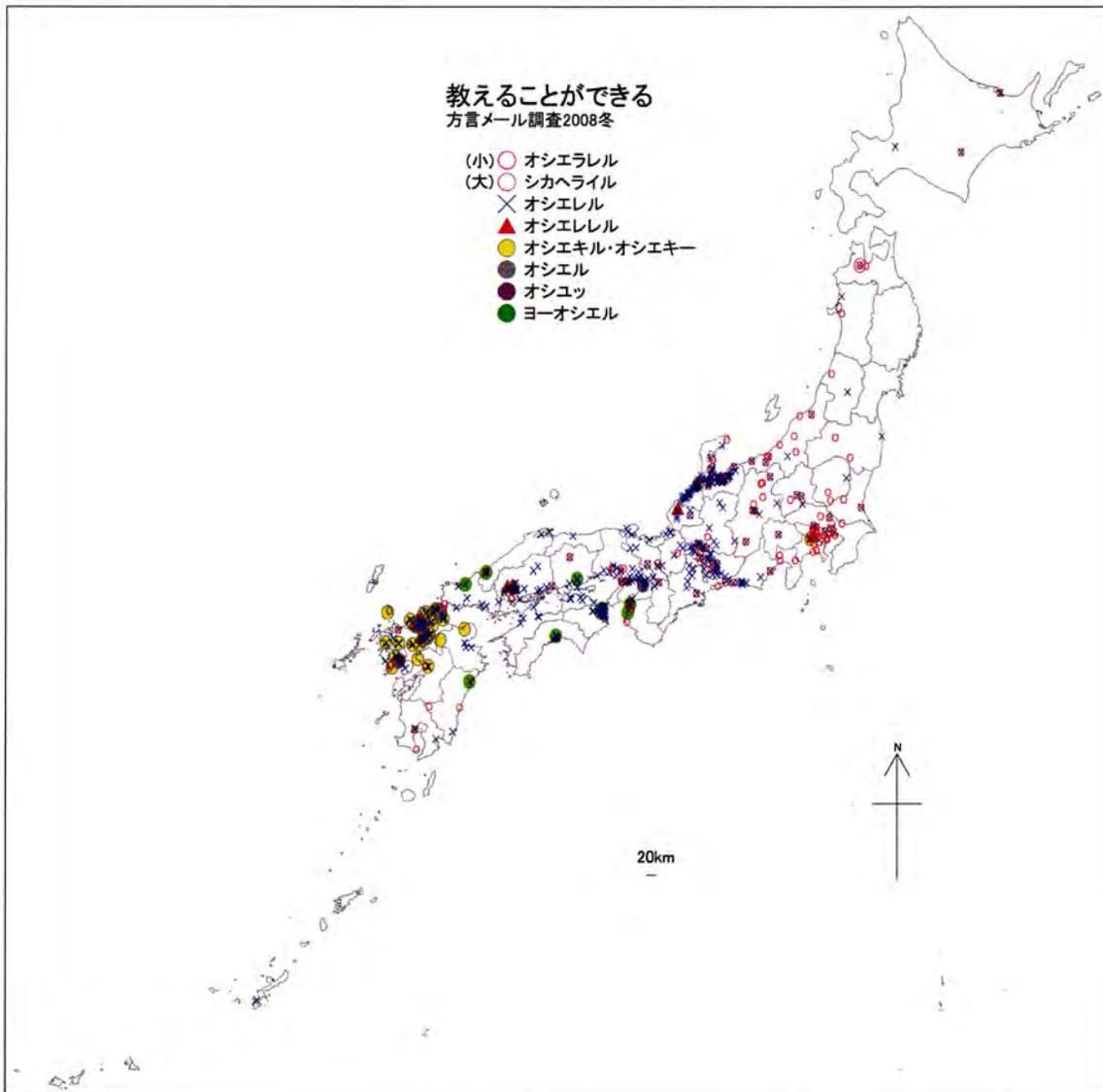
今回の調査では、「ら抜きことば」であるオキレルが広く分布していますが、東日本では、まだオキラレルも残っていることがわかります。また、九州ではオキキルが多く使用されています。オキガナルは鹿児島に一地点回答があるのみになっています。「れ足すことば」であるオキレレルは、西日本を中心に数地点分布しています。

(鏑水兼貴)

47. 教えることができる

「英語は得意なので教えることができる」と言うとき、「教えることができる」のところをどのように言いますか。

a. オシエラレル b. オシエレル c. ヨーオシエル d. オシエキル e. オシエガナル f. オシエレレル g. その他



分布の解説

一段活用動詞の可能表現について、「ら抜きことば」(オシエラレルをオシエレルのように言う)「れ足すことば」(オシエレルをオシエレレルのように言う)と呼ばれる現象の分布について調べるのが狙いです。今回の調査では、「それをやる能力がある」という意味での可能表現(能力可能)について質問しました。肯定、否定について、それぞれ語幹部分が1音節、2音節、3音節の動詞を調べていますので、45～46、48～50もご覧ください。

47 は、3音節語幹の「教える」の可能表現について調べたものです。なお、動詞「着る」の可能表現ですが、『方言文法全国地図』第175図では、関東ではキラレル、関東以外の東日本ではキレルが分布しており、西日本では、ヨーキルが多く、キレル、キラレルも分布しています。また、九州では、北部でキリキル、南部がキガナルが分布しています。

「ら抜きことば」であるオシエレルは、広く分布しているものの、東日本にはあまり浸透しておらず、オシエラレルが分布しています。

九州ではオシエキルが、西日本では「れ足すことば」であるオシエレルが分布しています。「れ足すことば」であるオシエレレルはみられませんでした。

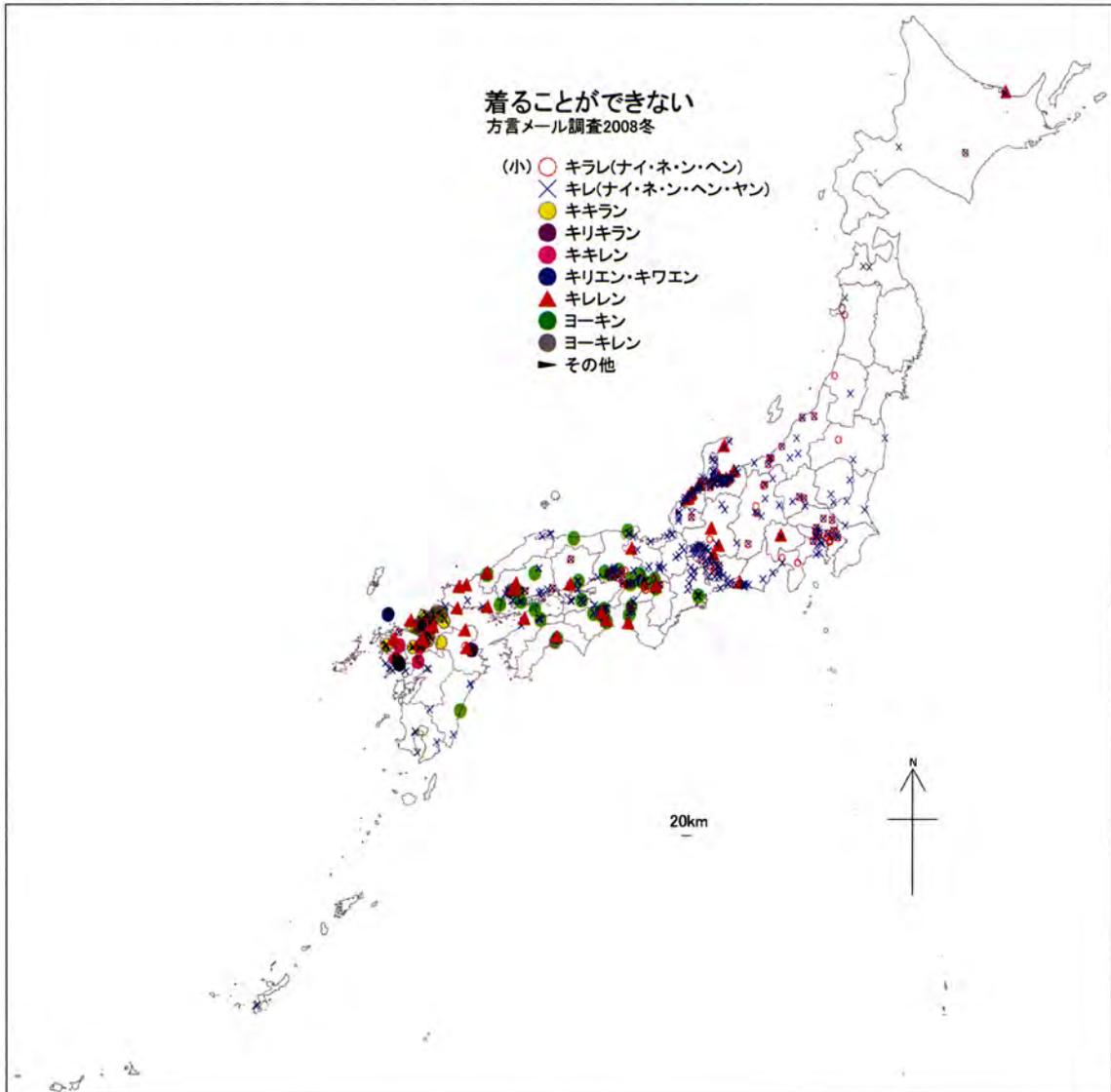
青森でみられるシカヘライルは、津軽方言での「教える」にあたるシカヘルの可能表現です。

(鐘水兼貴)

48. 着ることができない

「うちの孫はまだ一人で着物を着ることができない」と言うとき、「着ることができない」のところをどのように言いますか。

a.キラレナイ b.キレナイ c.ヨーキン d.キレレン e.その他



分布の解説

一段活用動詞の可能表現について、「ら抜きことば」(キラレナイをキレナイのように言う)「れ足すことば」(キレナイをキラレナイのように言う)と呼ばれる現象の分布について調べるのが狙いです。今回の調査では、「それをする能力がある」という意味での可能表現(能力可能)について質問しました。肯定、否定について、それぞれ語幹部分が1音節、2音節、3音節の動詞を調べていますので、45～47、49～50もご覧ください。

48 は、1音節語幹の「着る」の可能表現の否定形について調べたものです。否定表現は、東日本のナイ・ネーと、西日本のン・ヘンが対立する分布になりますが、まとめて扱います。

『方言文法全国地図』第 184 図では、関東ではキラレナイ・キランナイが、関東以外の東日本ではキレナイが分布しています。西日本では、ヨーキナイ・ヨーキンが多いですが、キレン、キラレンも分布しています。また、九州では、北部でキキラン、南部でキガナランが分布しています。

今回の調査では、全国的に「ら抜きことば」であるキレ(ナイ・ネン・ヘン)が広がっていますが、東日本でキラレナイ、西日本でヨーキン、九州でキキランも分布しています。九州では、キキランのキランの部分をも可能表現にしたキキレンが新しく発生しています。

また、西日本のヨーキンは分布範囲が縮小しているものの、広く分布しており、肯定形のヨーキル(45)よりも多く回答されています。

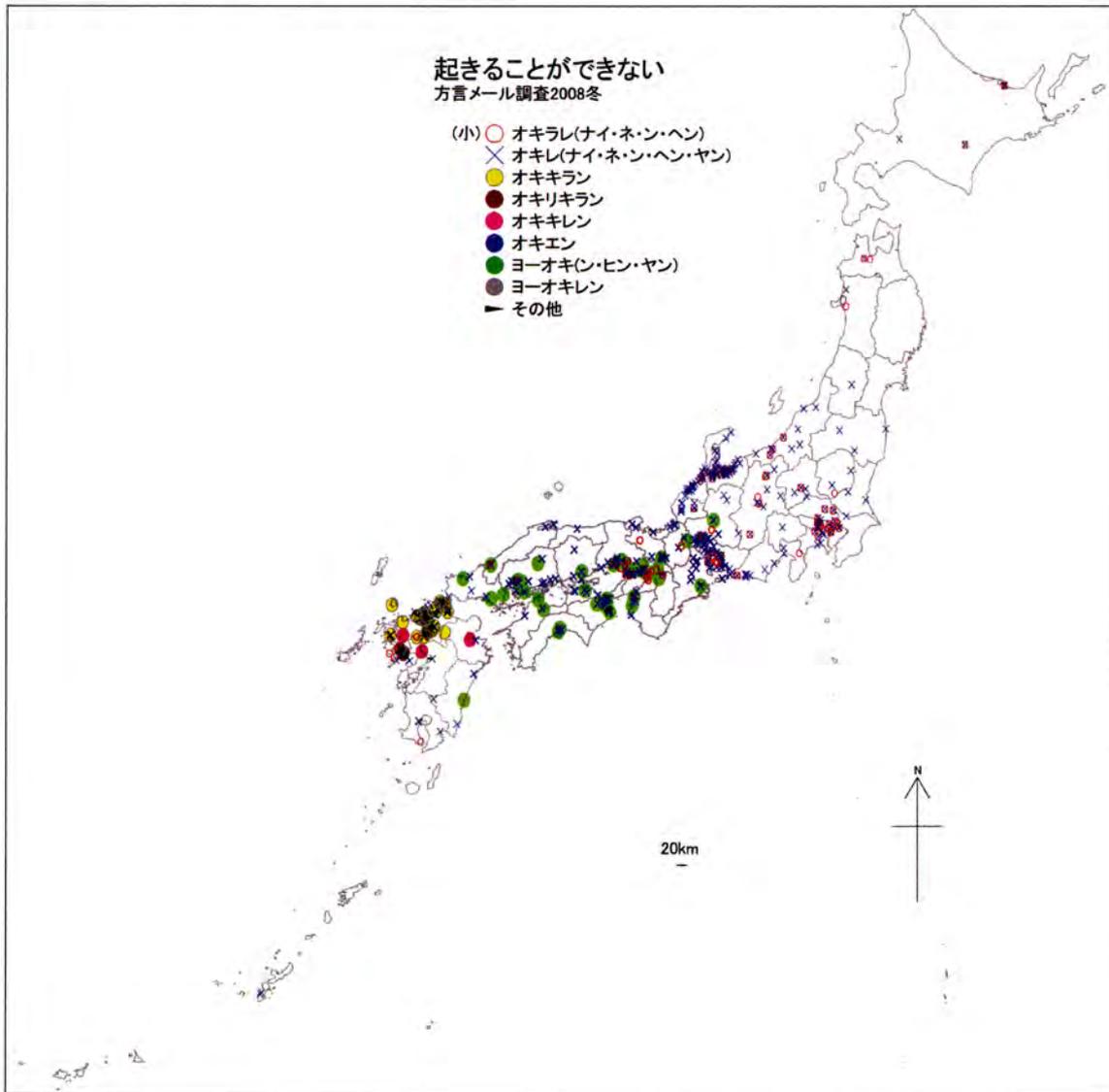
「れ足すことば」であるキレレンの回答はありませんでしたが、ヨーキンのキンの部分を可能表現にした、ヨーキレンが数地点みられます。

(鎌水兼貴)

49. 起きることができない

「早起きではないので朝5時には起きることができない」と言うとき、「起きることができない」のところをどのように言いますか。

a.オキラレナイ b.オキレナイ c.ヨーオキン d.オキレレン e.その他



分布の解説

一段活用動詞の可能表現について、「ら抜きことば」(オキラレナイをオキレナイのように言う)「れ足すことば」(オキレナイをオキレレナイのように言う)と呼ばれる現象の分布について調べるのが狙いです。今回の調査では、「それをする能力がある」という意味での可能表現(能力可能)について質問しました。肯定、否定について、それぞれ語幹部分が1音節、2音節、3音節の動詞を調べていますので、45～48、50もご覧ください。

49 は、2音節語幹の「起きる」の可能表現の否定形について調べるのが狙いです。否定表現は、東日本のナイ・ネーと、西日本のン・ヘンが対立する分布になりますが、まとめて扱います。

動詞「着る」の可能表現ですが、『方言文法全国地図』第184図では、関東ではキラレナイ・キランナイが、関東以外の東日本ではキレナイが分布しています。西日本では、ヨーキナイ・ヨーキンが多いですが、キレン、キラレンも分布しています。また、九州では、北部でキキラン、南部でキガナランが分布しています。

今回の調査では、「ら抜きことば」であるオキレ(ナイ・ネン・ヘン)が広く分布していますが、東日本でオキラレナイ、西日本でヨーオキン、九州でオキキランも分布しています。九州では、オキキランのキランの部分をも可能表現にしたオキキレンが新しく発生しています。また、西日本のヨーオキンは広く分布しており、肯定形のヨーオキル(46)より多く回答されています。

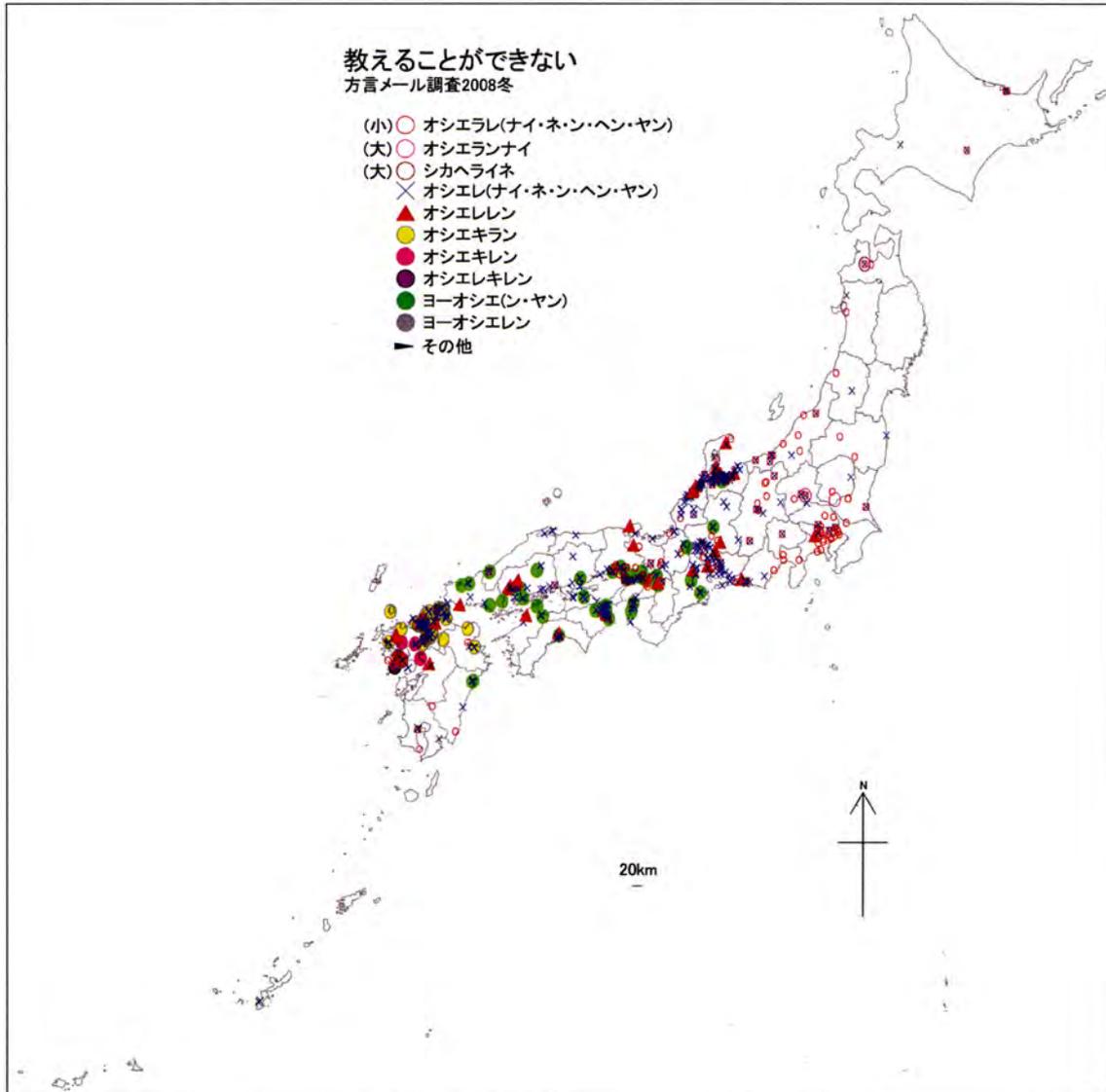
「れ足すことば」であるオキレレンの回答はありませんでしたが、ヨーオキンのオキンの部分を可能表現にした、ヨーオキレンがみられます。

(鍵水兼貴)

50. 教えることができない

「英語は不得意なので教えることができない」と言うとき、「教えることができない」のところをどのように言いますか。

a. オシエラレナイ b. オシエレナイ c. ヨーオシエン d. オシエレレン e. その他



分布の解説

一段活用動詞の可能表現について、「ら抜きことば」(オシエラレナイをオシエレナイのように言う)「れ足すことば」(オシエレナイをオシエレナイのように言う)と呼ばれる現象の分布について調べるのが狙いです。今回の調査では、「それをやる能力がある」という意味での可能表現(能力可能)について質問しました。肯定、否定について、それぞれ語幹部分が1音節、2音節、3音節の動詞を調べていますので、45～49もご覧ください。

50 は、3音節語幹の「教える」の可能表現の否定形について調べるのが狙いです。否定表現は、東日本のナイ・ネーと、西日本のン・ヘンが対立する分布になりますが、まとめて扱います。

動詞「着る」の可能表現ですが、『方言文法全国地図』第184図では、関東ではキラレナイ・キランナイが、関東以外の東日本ではキレナイが分布しています。西日本では、ヨーキナイ・ヨーキンが多いですが、キレン、キラレンも分布しています。また、九州では、北部でキキラン、南部でキガナランが分布しています。

今回の調査では、「ら抜きことば」であるオシエレ(ナイ・ネン・ヘン)は広く分布しているものの、48(着られない)のキレナイ、49(起きられない)のオキレナイと比べて、東日本への浸透はわずかで、東日本の多くの地点でオシエラレナイが分布しています。また、西日本でヨーオシエン、九州でオシエキランが分布しています。九州ではオシエキランのキランの部分をも可能表現にした、オシエキレンが新しく発生しています。また、西日本ではヨーオシエンも広く分布しており、肯定形のヨーオシエン(47)より多く回答されています。48、49とは異なり、「れ足すことば」であるオシエレレンが広範囲で回答されています。

青森でみられるシカヘライネは、津軽方言での「教える」にあたる動詞シカヘルの可能表現です。

(鍵水兼貴)

語形の統合

地図の見出しを作成するにあたって、報告された語形の統合を行なった。
以下、質問番号順に示す。

1. (書か)ない

見出し	報告回答
—ナイ・ネー	カカナイ, カカナイヨ, カカネー, カガネー, カカネエ, カカネエ, カガネエ, カカネ, カガネ
—ン	カカン
—ンネ	カカンネ
—ヘン・ヒン	カカヘン, カケヘン, カカヒン
—ヤン	カカヤン

2. 捨てる

見出し	報告回答
ステル	ステル, ステルヨ, シテル
スツル	スツル, スツイ
ブチャル・ピチャル・ベチャル	ブチャル, ピチャル, ベチャル
ウツチャル・ウチャル	ウツチャル, ウチャル
ウダル	ウダル
ナゲル	ナゲル
ホカス	ホカス
ホツカル	ホツカル
ホル	ホル, ホオル, ホオル

3. (花に水を)やる

見出し	報告回答
ヤル	ヤル, ヤイ, ヤルヨ
クレル	クレル
ケル	ケル
アゲル	アゲル

4. (人が)いる

見出し	報告回答
イル	イル, イルヨ
イテル	イテル
イタ	イタ, イダ
イッダ	イッダ
イデラ	イデラ
イハル	イハル
オル	オル, オイ

5. 舌

見出し	報告回答
シタ	シタ
ベロ	ベロ
ヘラ・ベラ	ヘラ, ベラ
シタベロ	シタベロ
シタベラ	シタベラ

6. (行か)なかった

見出し	報告回答
—ナカッタ・ネカッタ	イカナカッタ, イカナカッタヨ, イカネカッタ, イガネガッタ
—ナンダ	イカナンダ
—ンカッタ・ヘンカッタ・ヒンカッタ	イカンカッタ, イカンカッテン, イカヘンカッタ, イケヘンカッタ, イカヒン
—ンジャッタ・ンヤッタ	イカンジャッタ, イカンヤッタ
—ンダ・ヘンダ	イカンダ, イカヘンダ
—ネシタ	イガネシタ
—ネツケ	イガネツケ

7. (良い天気)だ

見出し	報告回答
ダ	ダ, ダネ, ラ
ジャ	ジャ
ヤ	ヤ, ヤナ, ヤナア, ヤネ
ドー	ドー
(良い天気)	(ゼロコピュラ)
その他	ジャン, ヤン, ネ

8. 高くなる

見出し	報告回答
タカクナル	タカクナル, タカクナルネ, タガグナル, タカクナー
タケクナル	タケクナル, タゲグナル, タツゲグナル, タツケグナル
タカナル	タカナル, タカーナル
タコナル	タコナル, タッコナル, タコーナル, タコーナイ

9. 起きろ

見出し	報告回答
オキロ	オキロ, オギロ, オキロシ, オキロヤ, オキロヨ
オキレ	オキレ, オギレ
オキリ	オキリ, オキリー, オキリーヨ
オキヨ	オキヨ, オキヨー
オキー	オキー, オキーヨ, オキーヤ
オキ	オキ, オキヤ, オキヤー, オキネ
オキテ	オキテ, オキテネ
オキナ	オキナ, オキナイ, オキナイヨ, オキナシ
その他	オキンサイ, オキンチャイ, オキラレ, オキッセ, オキンカイ, オキルダ

10. (親戚の子供にこの本を)やる

見出し	報告回答
ヤル	ヤル, ヤイ
クレル	クレル
ケル	ケル, ケール
アゲル	アゲル, アゲルンダ

11. 鳩尾

見出し語	報告回答
ミズオチ	ミズオチ
ミゾオチ	ミゾオチ
ミズウチ	ミズウチ
ミゾウチ	ミゾウチ
イ・イノヘン	イ・イノヘン
わからない	わからない

12. 踝

見出し語	報告回答
クルブシ	クルブシ
クルミ	クルミ
ウメボシ	ウメボシ
わからない	わからない

13. 心臓かゆい

見出し語	報告回答
「心臓かゆい」を使う	「心臓かゆい」を使う
「かゆい」だけで使う	「かゆい」だけで使う
使わない	使わない

14. メールを作成する

見出し語	報告回答
メールする	メールする
メールをうつ	メールをうつ
メールをおくる	メールを送る
メールをかく	メールをかく
メールをつくる	メールをつくる・メールつくる

15. いくら

見出し語	報告回答
イクラ	イクラ
ナンボ	ナンボ
ドシコ	ドシコ
その他	ドノクライスル・ナンエン・ドレグライ

16. 見ない

見出し語	報告回答
ミナイ	ミナイ
ミネー	ミネー
ミン	ミン
ミーヘン・ミーヒン	ミーヘン・ミーヒン
ミヤン	ミヤン
ミラン	ミラン
その他	その他

17. 見ろ

見出し語	報告回答
ミロ	ミロ・ミロシ
ミレ	ミレ
ミー	ミー・ミ・ミーヤ
ミヨ	ミヨ
ミリ・ミリー	ミリ・ミリー
ミラレ・ミラレマ	ミラレ・ミラレマ
ミテ	ミテ・ミテー・ミテン
ミテミー	ミテミー・ミテミ
ミナ	ミナ・ミナイ

18. 行こう

見出し語	報告回答
イコー	イコー・イゴー・イコツ・イコ・イコーヤ・イコーヨ・イコーゼ・イコヤ
イクベ	イクベ・イクベ
イグバイ	イグバイ
イコマイ	イコマイケ
イカズ・イカザー	イカズ・イカザー
その他	イカヘン・イカン・イクガー・イキ

19-1. 行かないでおこう(その1)

見出し語	報告回答
イカナイデオコー・イカントコ	イカナイデオコー・イカナイドコー・イガナイドコー・イカネードコー・イガナイドグベ・イガナイドグバイ・イカネデオカズ・イカネデオカズ・イカントコ・イカントコ・イカントコー・イカンドコー・イカントコーヤ・イカントカンケ・イカントカンケ・イカナイデオキ・イカントキ・イカナイデオキ・イカマーヤ
イカマーヤ	イカマーヤ・イカマーヤ
イカナイニシヨ	イカナイニシヨ
イカネーベ・イガネベ	イカネーベ・イガネビヤ
イクノヤメヨ	イクノヤメヨ
イカンコー	イカンコー
イカンコーオロー	イカンコーオロー
その他	イッチヨシ

25. 外出時の家族への挨拶

見出し語	報告回答
イッテキマス	イッテキマス・イッテキマース・イッテキマ
イッテマイリマス	イッテマイリマス・イッテマイリマース
イッテキヤス	イッテキヤス
イッテキ	イッテキ
イッテクル	イッテクル・イッテクルネ・イッテクルワ・チョットイッテクル・イッテクツカラ・イッテクンネー・イッテクツカンネー・イッテクルケン・イッテクツ
ジャーイッテクル	ジャーイッテクル・ジャイッテキマス
ジャ・ジャーネ	ジャ・ジャー・ジャーネ・ジャツ
バイ・バイバイ	バイ・バイバイ
言わない	言わない
その他	イッテキマンモス・デカケマス・言う(語形未回答)

26. 帰宅時の家族への挨拶

見出し語	報告回答
タダイマ	タダイマ・タダイマー・タダイマデス・タダンマ・タデーマ・タデーマー・タライマ
イッテキマシタ	イッテキマシタ・イッテキマシター
カエリマシタ	カエリマシタ
言わない	言わない
その他	タダイマンモス・タロイモ・タダー・マ・アーツカレタツカレタ・言う(語形未回答)

27. 食前の挨拶

見出し語	報告回答
イタダキマス	イタダキマス・イタダキマース
言わない	言わない
その他	イタダキ・イタダキマンモス・言う(語形未回答)

28. 食前に手をあわせるか

見出し語	報告回答
あわせる	あわせる
あわせない	あわせない

29. 食後の挨拶

見出し語	報告回答
ゴチソーサマ・ゴチソーサマデシタ	ゴチソーサマデシタ・ゴチソーサマ・ゴチソーサマデシター・ゴチソーサマデス
ゴチソーサン・ゴッソーサン・ゴツツァン	ゴチソーサンデシタ・ゴチソーサン・ゴチソサン・ゴッソーサン・ゴッソーサマ・ゴッソサン・ゴツツオーサン・ゴツツオオサン・ゴツツァンシタ
イタダキマシタ	イタダキマシタ
言わない	言わない
その他	言う(語形未回答)

30-1. 食後に手をあわせるか

見出し語	報告回答
あわせる	あわせる
あわせない	あわせない

30-2. 食前・食後に手をあわせるか

見出し語	報告回答
食前も食後もあわせる	28あわせる・30-1あわせる
食後のみあわせる	28あわせない・30-1あわせる
食前のみあわせる	28あわせる・30-1あわせない
食前も食後もあわせない	28あわせない・30-1あわせない

31. しあさって

見出し語	報告回答
シアサツテ	シアサツテ
ヤノアサツテ・ヤナアサツテ・ヤナサツテ・ヤネアサツテ	ヤノアサツテ・ヤナアサツテ・ヤナサツテ・ヤネアサツテ
ササツテ	ササツテ

32. 塩の味

見出し語	報告回答
シヨツパイ・シヨツペー	シヨツパイ・シヨツペー
シヨツパカ	シヨツパカ
シオカライ・シヨツカライ	シオカライ・シヨツカライ・シヨツカライ
カライ	カライ
カラカ	カラカ
シヨンプイ	シヨンプイ
クドイ	クドイ
その他	その他

33. 塩の味が足りない

見出し語	報告回答
アマイ	アマイ
ウスイ	ウスイ
ウスカ	ウスカ
シヨムナイ・シヨンプイ	シヨムナイ・シヨムナイ・シヨムナイ・シヨムナイ・シヨンプイ
ダスコイ	ダスコイ
ミズクサイ	ミズクサイ
シュボイ	シュボイ
アジナイ	アジナイ
その他	その他

34. 梅干しの味

見出し語	報告回答
スツパイ・スツペー	スツパイ・スツペー・スツペー
スツパカ	スツパカ
カライ	カライ
シヨツパイ	シヨツパイ
スイ・スイー	スイ・スイイ
スツカイ・スツケ	スツカイ・スツケ

35. レモンの味

見出し語	報告回答
スツパイ・スツペー	スツパイ・スツペー・スツペー
スツパカ	スツパカ
スイ・スイー	スイ・スイー・スイイ
スツカイ・スツケ	スツカイ・スツケ
シヨツパイ	シヨツパイ

36. おもしろい

見出し語	報告回答
オモシロイ・オモシレー・オモシロカ	オモシロイ・オモシロカ・オモシレー・オモシリー
オモシヤイ・オモシヨイ	オモシヨイ・オモシヤイ
オモシー・オモシシー・オモシカ	オモシー・オモシシー・オモシク・オモシカ
オモロイ・オモレー	オモロイ・オモレー
モシ・モシシー	モシ・モシシー
ウケル	ウケル
オカシー	オカシー
ヤバイ	ヤバイ
その他	その他

37. おもしろくない

見出し語	報告回答
オモシロク(ナイ・ネー・ナカ)	オモシロクナイ・オモシロクネー・オモシロクナカ
オモシロ(ナイ・ネー・ナカ)	オモシロナイ・オモシロネー・オモシローナイ・オモシローナカ
オモシ(ヤ)ナイ・オモシヨ(一)ナイ	オモシナイ・オモシヤナイ・オモシヨーナイ・オモシヨナイ
オモシク(ナイ・ネー・ナカ)	オモシークネー・オモシクナイ・オモシクナカ・オモシックナイ・オモシックナイ・モシグネ
オモロクナイ	オモロクナイ
オモロ(一)ナイ	オモロナイ・オモローナイ
オモンナイ・オモンネー	オモンナイ・オモンネー
ウケン	ウケン
ツマラナイ・クダラナイ・タノシクナイ	クダラナイ・クダラン・ツマラナイ・ツマラン・ツマンナイ・タノシクナイ
その他	その他

38. 東の方へ行け

見出し語	報告回答
ニ	ニ
へ	へ
サ	サ
サン	サン
セ	セ
ン	ン
φ	φ

39. 早く学校に行け

見出し語	報告回答
ニ	ニ
へ	へ
サ	サ
サン	サン
ン	ン
φ	φ
その他	その他

40. 犬に追いかけられた

見出し語	報告回答
ニ	ニ
カラ	カラ
カイ	カイ
サ	サ
ニカッテ	ニカッテ
ン	ン

41. 雨が降っているから

見出し語	報告回答
カラ・ガラ	カラ・ガラ・ヤカラ
カイ	カイ
キ・キー	キ・キー・キン
ケン	ケン
ケ・ケー・ツケ	ケ・ケー・ツケ
サカイ・サケ・サゲ	サカイ・サケ・サゲ
ノデ	ノデ・ンデ
ハンデ	ハンデ
モンデ	モンデ
デ	デ
シ	シ
ソイ	ソイ
ナキ	ナキ

42. 雨が降れば

見出し語	報告回答
フレバ	フレバ・フツレバ
フツタラ	フツタラ・フツツタラ・フルンヤツタラ
フルナラ	フルナラ・フルンナラ
フツナイバ	フツナイバ
フリヤー	フリヤ・フリヤー・フリヤー
フルギー	フルギー
フルジャ	フルジャ
フルト	フルト
その他	その他

43. 行ってはいけない

見出し語	報告回答
イッテワ	イッテハ・イッテワ
イッチャ	イッチャ
イッタ・イッタラ	イッタ・イッターアカン・イッタラ・イッタラアカン
イクギー・イクギン	イクギー・イクギン
イケバ・イゲバ	イケバ・イゲバ
イクト	イクト

44-1. 休まなければ(ならない)

見出し語	報告回答
ヤスマナケレバ~	ヤスマナケレバナラナイ
ヤスマナキャ~	ヤスマナキャ・ヤスマナキャイカン・ヤスマナキャイケナイ・ヤスマナキャナラナイ・ヤスマナキャナンナイ・ヤスマンキャイケン・ヤスマン
ヤスマネバ~	ヤスマネバネ・ヤスマネバマイネ・ヤスマネーナラン・ヤスマンバ・ヤスマンバイケン・ヤスマンバン
ヤスマンナ~	ヤスマンナイカン・ヤスマンナイケン・ヤスマンナダメ
ヤスマ(ン)ニャ~	ヤスマニャ・ヤスマニャーイケン・ヤスマニャアイケン・ヤスマニャイカン・ヤスマニャイケン・ヤスマンニャーイケン・ヤスマンニャイケン
ヤスマナ~	ヤスマナアカン・ヤスマナイカン・ヤスマナイケン・ヤスマナカン・ヤスマナデケン・ヤスマナナラン・ヤスマナ・ヤスマナネ・ヤスマナン・ヤスマナマイケン
ヤスマン~	ヤスマンナラン・ヤスマンナン
ヤスマナイト~	ヤスマナイトイケナイ
ヤスマント~	ヤスマントアカン・ヤスマントイカン・ヤスマントイケナイ・ヤスマントイケン・ヤスマントカン・ヤスマントダメヤ・ヤスマントナラン
ヤスマナクチャ~	ヤスマナクチャイカン・ヤスマナクチャイケナイ・ヤスマナクチャナラナ
ヤスマヤン	ヤスマヤン
ヤスムヨーダ	ヤスムヨーダ
その他	その他

44-2. (休まなければ)ならない

見出し語	報告回答
~ナラナイ	ヤスマナケレバナラナイ・ヤスマナキャナラナイ・ヤスマナキャナンナイ・ヤスマナクチャナラナイ
~ナラン	ヤスマナナラン・ヤスマンキャナラン・ヤスマネーナラン・ヤスマンナラン・ヤスマントナラン
~ナン	ヤスマンナン
~イケナイ	ヤスマナキャイケナイ・ヤスマナクチャイケナイ・ヤスマントイケナイ・ヤスマナイトイケナイ
~イケン	ヤスマンキャイケン・ヤスマンナイケン・ヤスマンバイケン・ヤスマニャーイケン・ヤスマニャアイケン・ヤスマニャイケン・ヤスマンニャーイケン・ヤスマンニャイケン・ヤスマナイケン・ヤスマナマイケン
~イカン	ヤスマナイカン・ヤスマナキャイカン・ヤスマンナイカン・ヤスマニャイカン・ヤスマントイケン・ヤスマントイカン・ヤスマナクチャイカン
~アカン・~カン	ヤスマナアカン・ヤスマントアカン・ヤスマナカン・ヤスマントカン
~デケン	ヤスマナデケン
~ネ	ヤスマナネ・ヤスマネバネ
~ン	ヤスマナン・ヤスマンバン
~ヤン	ヤスマヤン
~マイネ	ヤスマネバマイネ
~ダメ	ヤスマンナダメ・ヤスマントダメヤ
φ	ヤスマニャ・ヤスマナ・ヤスマナキャ・ヤスマンバ
ヤスムヨーダ	ヤスムヨーダ
その他	その他

45. 着ることができる

見出し語	報告回答
キラレル・キライル	キライル・キラレル
キレル	キレル・キレルデ
キキル・キキー	キキー・キキル
キリキル	キリキル
キーキル	キーキッ・キーキル
キガナル	キガナル
キレレル	キレレル
ヨーキル	ヨーキル

46. 起きることができる

見出し語	報告回答
オキラレル	オキラレル・オギライル
オキレル	オキレル・オキレルデ・オギレル
オキキル	オキキル・オキキー・オキキッ
オキルー	オキルー
オキレレル	オキレレル
オキガナル	オキガナル
ヨーオキル	ヨーオキル

47. 教えることができる

見出し語	報告回答
オシエラレル	オシエラレル・オシーライル
シカヘライル	シカヘライル
オシエキル・オシエキー	オシエキー・オシエキル
オシエレル	オシエレル・オシエレルデ・オヘレル
オシエレレル	オシエレレル
ヨーオシエル	ヨーオシエル
オシエル	オシエル
オシユツ	オシユツバイ

48. 着ることができない

見出し語	報告回答
キラレ(ナイ・ネ・ン・ヘン)	キラレナイ・キラレヘン・キランナイ・キラライネ・キラレン
キレ(ナイ・ネ・ン・ヤン・ヘン)	キレナイ・キレーヘン・キレネ・キレハラヘン・キレヘン・キレヤン・キレン・キレンデ
キリキラン	キリキラン・キッキラン
キキラン	キキラン・キーキラン
キキレン	キキレン・キーキレン
キレレン	キレレン
キリエン・キワエン	キリエン・キワエン
ヨーキン	ヨーキヤン・ヨーキン・ヨーキンデ
ヨーキレン	ヨーキレン
その他	デキン・その他

49. 起きることができない

見出し語	報告回答
オキラレ(ナイ・ネ・ン・ヘン)	オキラレナイ・オキラレヘン・オキラレン・オキラライネ・オギライネ・オキランナイ・オキランナイ
オキレ(ナイ・ネ・ン・ヘン・ヤン)	オキレン・オキレンデ・オキレーヘン・オキレナイ・オキレヘン・オキレヤン・オギレネ
オキキラン	オキキラン・オツキラン
オキキレン	オキキレン
オキリキラン	オキリキラン
ヨーオキ(ン・ヒン・ヤン)	ヨーオキヒン・ヨーオキヤン・ヨーオキン・ヨーオキンデ
ヨーオキレン	ヨーオキレン
オキエン	オキエン
その他	その他

50. 教えることができない

見出し語	報告回答
オシエラレ(ナイ・ネ・ン・ヘン・ヤン)	オシエラレナイ・オシエラレヘン・オシエラレヤン・オシエラレン・オシエライネ
シカヘライネ	シカヘライネ
オシエランナイ	オシエランナイ
オシエレ(ナイ・ネ・ン・ヘン・ヤン)	オシエレン・オシエレンデ・オシエレナイ・オシエレヘン・オシエレヤン・オヘレネ
オシエレレン	オシエレレン
オシエキラン	オシエキラン
オシエキレン	オシエキレン
ヨーオシエ(ン・ヤン)	ヨーオシエヤン・ヨーオシエン・ヨーオシエンデ
ヨーオシエレン	ヨーオシエレン
その他	オキレン

付録

説明用紙

第1回調査（1～10）	72
第2回調査（11～30）	74
第3回調査（31～50）	76

※質問番号は各調査ごとにつけられている。本報告書の地図とは以下の対応関係にある。

第1回調査 問1～10	→	1～10
第2回調査 問1～20	→	11～30
第3回調査 問1～20	→	31～50

皆さんがお使いの言葉に関する情報をお寄せ下さい

国立国語研究所・研究開発部門言語生活グループ

国立国語研究所では、日本全国の言葉(方言)を調べて、地図にしてみました。

例えば、「雨が降っているから行くのはやめろ」と言うときの「から」にあたるところの言い方を地図にすると、このプリントの裏面のような分布が見られます。

とはいえ、以前に研究所が調べてから、すでに30年以上過ぎました。その間に社会もずいぶんと変わりました。それにともない言葉も変わってきていると予想されます。

そこで、皆さんの御協力のもと、電子メールを利用した言葉に関する情報の収集を行いたいと考えています。つきましては、以下のことがらについて、皆さんからの情報をお寄せいただけますと幸いです。

下線を付けた箇所について、地元(小中学校時代もっとも長く過ごした場所)の親しい友達と話す際の言い方を教えて下さい。複数の言い方がある場合は、それらを回答いただいて結構です。

※<>の中には、参考までに語形の例を挙げました。これら以外の言い方であっても、お知らせ下さい。

※お使いになる言い方が、共通語と同じ形であっても重要な情報です。その言い方を御報告下さい。

1. 自分は手紙を 書かない <カカナイ・カカン・カカヘン>
2. ごみを 捨てる <ステル・ホカス・ナゲル・ブチャル>
3. 花に水を やる <ヤル・クレル・アゲル>
4. あそこに人が いる <イル・オル・アル>
5. 口の中の 舌 が痛い <シタ・ベロ・ヘラ>
6. 昨日は学校に 行かなかった <イカナカッタ・イカナンダ・イカンカッタ・イカザッタ>
7. 今日は良い天気 だ <ダ・ジャ・ヤ>
8. 物の値段がだんだん高くなる <タカクナル・タケクナル・タコーナル・タカナル>
9. 明日は早く 起きろ <オキロ・オキレ・オキヨ・オキー>
10. 親戚の子供にこの本を やる <ヤル・クレル・アゲル>
11. 御自身の生年(西暦：19 年)
12. 性別(男・女)
13. 御自身が5歳から15歳までの10年間でもっとも長く過ごした場所(市区町村まで)
14. 御自身が5歳から15歳までの10年間で転居した回数(転居した場所で1年以上過ごした場合を数えて下さい。また、同じ市区町村内での転居は数えなくて構いません。)
15. 現在お住まいの市区町村

- ・回答の記載方法は、裏面の「回答記載例」を参考にして下さい。
- ・語形の表記はカタカナもしくは平仮名でお願いします。
- ・御回答は、jdmt@kokken.go.jp へてにお送り下さい。
- ・見出し(サブジェクト)は「方言メール2007冬」としてお送り下さい。
- ・お礼はできませんが、お寄せいただいたデータを地図化して、ホームページに提示します。ホームページができた段階で、情報をお寄せいただいた方のメールアドレスあてにホームページのアドレスをお知らせします。その際に、調査への継続協力の御希望をうかがいます。
- ・継続の御希望を提示いただいた方には、送信いただいたアドレスあてに、2008年の夏頃、案内のメールをお送りします。
- ・お寄せいただいた情報は研究以外の目的に用いることはありません。
- ・御報告いただいた内容に関して、担当者より電子メールで問い合わせを行う場合がありますので、御了解願います。
- ・個人名やメールアドレス等の情報は、保護され、外部には一切公開いたしません。

(降っている) から

『方言文法全国地図』第1集33図より

- ┆ カラ・ガラ・カラニ・カラン
- ┆ カリ・カイ

- ▲ ケ(一)
- ▲ ケン・ケ(一)ニ
- ▲ キ(一)
- ▲ キン・キニ
- セン

- サカイ(ニ)
- サケ(一)・サゲ(一)・ハゲ(一)・サカ(ニ)

- スケ(一)・スカ・スケ(一)ニ

- ステ

- ハ(ン)デ

- デ(一)
- ノデ・ンデ
- アンテ・エンテ・エツテ・エデ・ンテ

- ┆ ンカ・ンガ

- サエ・ソエ・セニ・ソー・セ(一)・セーデ
- シ(ニ)

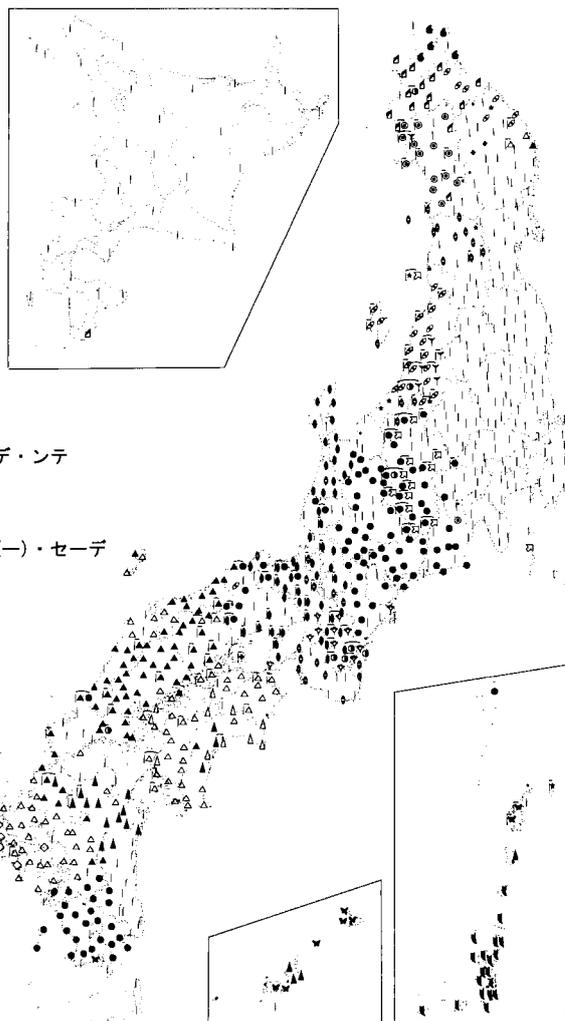
- ヨツテ(ニ)

- ニ・ネ

- ▲ (ク)トウ・ク
- ▼ バ・パ・ポ

- その他

- 無回答



「雨が降っているからいくのはやめろ」と言うときの「雨が降っているからやめろ」のところはどのように言いますか。

回答記載例

(サブジェクト・見出し・件名) 方言メール 2007 冬

- 1 カカヘン
- 2 ホカス
- 3 ヤル
- 4 オル
- 5 シタ
- 6 イカヘンカッタ, イカンカッタ
- 7 ヤ
- 8 タカナル
- 9 オキ
- 10 ヤル
- 11 1982 年
- 12 女
- 13 大阪府大阪市東成区
- 14 3 回
- 15 埼玉県秩父郡小鹿野町

皆さんがお使いの言葉に関する情報をお寄せ下さい

国立国語研究所・研究開発部門言語生活グループ

国立国語研究所では、日本全国の言葉(方言)を調べて、地図にしてみました。

例えば、「雨が降っているから行くのはやめろ」と言うときの「から」にあたるどころの言い方を地図にすると、このプリントの右の地図のような分布が見られます。

とはいえ、以前に研究所が調べてから、すでに 30 年以上過ぎました。その間に社会もずいぶんと変わりました。それにともない言葉も変わってきていると予想されます。

そこで、皆さんの御協力のもと、電子メールを利用した言葉に関する情報の収集を行いたいと考えています。つきましては、以下のことがらについて、皆さんからの情報をお寄せいただけますと幸いです。

下線を付けた箇所や、絵で示した箇所について、地元(小中学校時代もつとも長く過ごした場所)の親しい友達と話す際の言い方を教えて下さい。複数の言い方がある場合は、それらを回答いただいて結構です。

※選択肢以外の言い方は、その他でお知らせ下さい。

※お使いになる言い方が、共通語と同じ形であっても重要な情報です。その言い方を御報告下さい。

- 右の絵①の胸の骨の下の真中あたり、柔らかいこのあたりのことを何と言いますか。
a.ミズオチ b.ミズオトシ c.ミズウチ d.ミゾオチ e.その他() f.わからない
- 右の絵②の矢印のところを何と言いますか。
a.クルブシ b.クルミ c.ウメボシ d.その他() e.わからない
- 何か心にひっかかるものがあってもどかしいようなときに「心臓かゆい」という言い方をしますか。
a.「心臓かゆい」を使う b.「かゆい」だけで使う c.使わない
- 「メールを作成する」
a.メールする b.メールをうつ c.メールをかく d.その他()
- (品物の値段を尋ねるとき)「このまんじゅうはひとついくら」
a.イクラ b.ナンボ c.ドシコ d.その他()
- 「朝はテレビは見ない」
a.ミナイ b.ミネー c.ミン d.ミーヘン e.ミラン f.ミヤン g.その他()
- 「あれを見ろ」
a.ミロ b.ミヨ c.ミレ d.ミー e.その他()
- 「いっしょに行こうよ」(友達が温泉に誘ったのですが、友達が迷っているときに)
a.イコー b.イクベー c.イカズ d.イカマイ e.その他()
- 「行かないでおこうよ」(自分は行かないつもりなのに、相手も行かないように誘いかける)
a.イカナイデオコー b.イクノヤメヨー c.イカントコ d.イクマイ e.イカマイ f.その他()
- 「もうそんなところへなんて、けって行くまい」と心に決める。
a.イクマイ b.イクメー c.イカナイ d.イカン e.その他()
- 「あの人には、いっしょに 行ってもらいたい」
a.イッテモライタイ b.イッテホシイ c.その他()
- (迷惑なので、あの人には)「そんなこと、やってもらいたくない」
a.ヤッテモライタクナイ b.ヤッテホシクナイ c.ヤッテイラン d.その他()



以下の場面での言い方や行動について教えて下さい。自分では言わない場合には「言わない」と回答して下さい。

※<>の中には、参考までに例を挙げました。これら以外の言い方であっても、お知らせ下さい。

- 個人商店で買い物をしたあと、店の人に「ありがとう」等の感謝のことばを言いますか。〈アリガトー・オーキニ〉
- 朝起きたとき、家族に向かって「おはよう」等の挨拶のことばを言いますか。〈オハヨー・ゴザイマス・オハヨー〉
- 家から出かけるとき、家族に向かって「いってきます」等を言いますか。〈イッテキマス・イッテマイリマス・ジャ〉
- 外出から帰宅したときに「ただいま」等を言いますか。〈タダイマ・イッテキマシタ・イッテマイリマシタ〉
- 食事を食べ始めるときに、「いただきます」等を言いますか。〈イタダキマス〉
- そのときに、手をあわせますか。 a.あわせる b.あわせない
- 食事を食べ終わるときに、「ごちそうさま」等を言いますか。〈ゴチソーサマ・イタダキマシタ〉
- そのときに、手をあわせますか。 a.あわせる b.あわせない

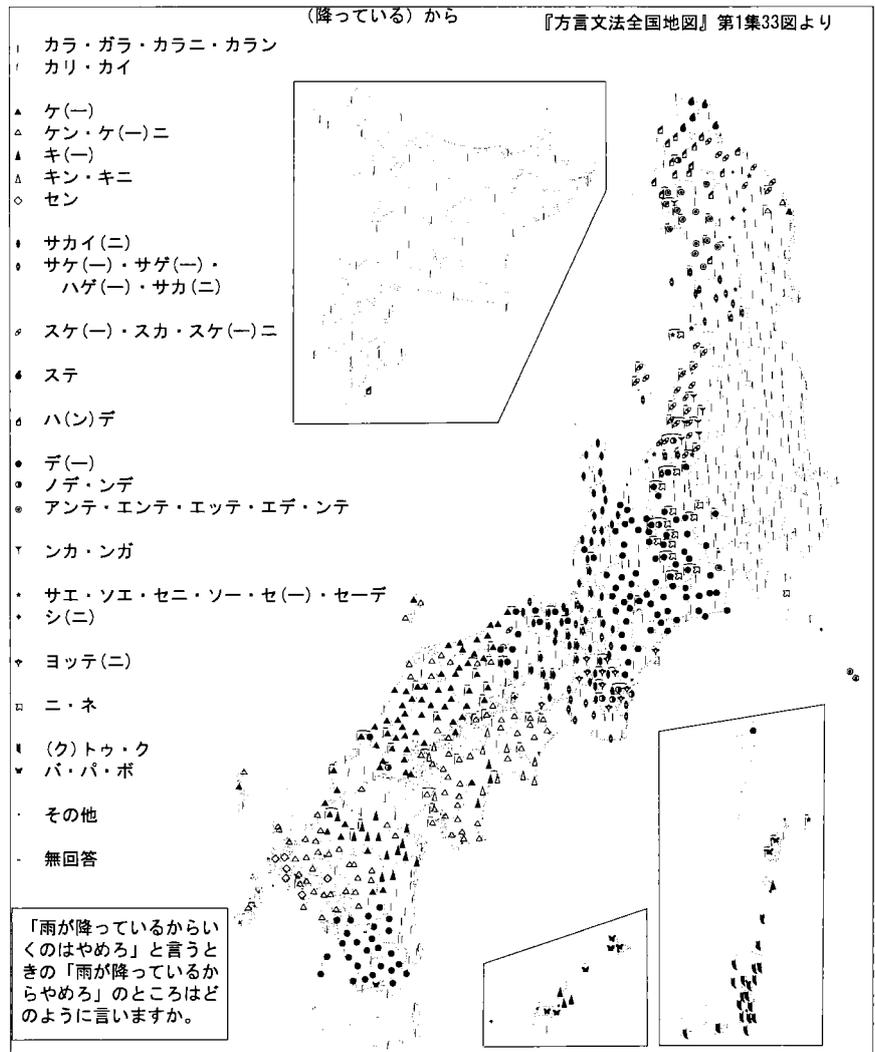
御自身のことについておうかがいします。

- 御自身の生年(西暦)
- 性別(男・女)
- 御自身が5歳から15歳までの10年間でもつとも長く過ごした市区町村(政令指定都市の場合は市内の区まで。合併前の旧市町村名でも構いません。)
- 御自身が5歳から15歳までの10年間で転居した回数(転居した場所で1年以上過ごした場合を数えて下さい。また、同じ市区町村内での転居は数えなくて構いません。)
- 現在お住まいの市区町村(政令指定都市の場合は市内の区まで。合併前の旧市町村名でも構いません。)

・回答方法は、右の「回答記載例」を参考にして下さい。語形の表記はカタカナもしくは平仮名でお願いします。

・御回答は、jdmt@kokken.go.jp へてに、見出し(サブジェクト)を「方言メール 2008 夏」としてお送り下さい。

- お礼はできませんが、お寄せいただいたデータを地図化して、ホームページに提示します。ホームページができた段階で、情報をお寄せいただいた方のメールアドレスあてにホームページのアドレスをお知らせします。その際に、調査への継続協力の御希望をうかがいます。
- 継続の御希望を提示いただいた方には、送信いただいたアドレスあてに、2008年の冬頃、案内のメールをお送りします。
- お寄せいただいた情報は研究以外の目的に用いることはありません。
- 御報告いただいた内容に関して、担当者より電子メールで問い合わせを行う場合がありますので、御了解願います。
- 個人名やメールアドレス等の情報は、保護され、外部には一切公開いたしません。



回答記載例

(サブジェクト・見出し・件名) 方言メール 2008 夏

行頭に質問番号を書き、空白をあけて、回答を書く

1 d

2 e

3 a, b ←複数回答の場合、カンマ「,」でつなぐ

4 a

5 a

6 g ミーヒン ←その他の場合には言い方を仮名で書く

7 d

8 a

9 d

10 c, e イカヘン

11 b

12 b

13 オーキニ, アリガトー

14 言わない

15 イッテキマス

16 タダイマ

17 イタダキマス

18 a

19 言わない

20 b

21 1982年 ←西暦で

22 女

23 大阪府大阪市東成区 ←政令指定都市の場合には市内の区まで

24 3回

25 埼玉県秩父郡小鹿野町

皆さんがお使いの言葉に関する情報をお寄せ下さい

国立国語研究所・研究開発部門言語生活グループ

国立国語研究所では、日本全国の言葉(方言)を調べて、地図にしてみました。

例えば、「あれを見ろ」と言うときの「見ろ」にあたるところの言い方を地図にすると、このプリントの次のページ(もしくは裏面)の地図のような分布が見られます。とはいえ、以前に研究所が調べてから、すでに30年以上過ぎました。その間に社会もずいぶんと変わりました。それにともない言葉も変わってきていると予想されます。

そこで、皆さんの御協力のもと、電子メールを利用した言葉に関する情報の収集を行いたいと考えています。つきましては、以下のことがらについて、皆さんからの情報をお寄せいただけますと幸いです。

以下の事柄や表現について、(小中学校時代もつとも長く過ごした場所)の親しい友達と話す際の言い方を教えて下さい。複数の言い方がある場合は、それらを回答いただいて結構です。

※選択肢以外の言い方は、その他でお知らせ下さい。

※お使いになる言い方が、共通語と同じ形であっても重要な情報です。その言い方を御報告下さい。

1. あさっての次の日のことは何と言いますか。
a. シアサッテ b. ヤノアサッテ c. その他()
2. 塩の味はどんなだと言いますか。
a. ショッパイ b. カライ c. シオカライ d. その他()
3. しる(つゆ)などを作ったとき塩の味が足りないのを言うのに、しる(つゆ)の味がどんなだと言いますか。
a. ウスイ b. ミズクサイ c. アマイ d. その他()
4. 梅干しの味はどんなだと言いますか。
a. スッパイ b. スッカイ c. スイ d. カライ e. その他()
5. レモンの味はどんなだと言いますか。
a. スッパイ b. スッカイ c. スイ d. カライ e. その他()
6. 笑いながら「それはおもしろいね」と言うとき、「おもしろい」の部分をどのように言いますか。
a. オモシロイ b. オモロイ c. その他()
7. 「全然おもしろくない」と言うとき、「おもしろくない」の部分をどのように言いますか。
a. オモシロクナイ b. オモロナイ c. オモンナイ d. その他()
8. 「どちらの方角に行ったら良いか」と聞かれて「東の方へ行け」と教えるとき、「へ」のところをどのように言いますか。
a. へ b. ニ c. サ d. サン e. サニヤ f. その他()
9. 「早く学校に行け」と言うとき、「に」のところをどのように言いますか。
a. へ b. ニ c. サ d. サン e. サニヤ f. その他()
10. 「犬に追いかけられた」と言うとき、「に」のところをどのように言いますか。
a. ニ b. カラ c. ニカッテ d. その他()
11. 「雨が降っているから行くのはやめろ」と言うとき、「から」のところをどのように言いますか。
a. カラ b. ケン c. キー d. サカイ e. ハデ f. デ g. その他()
12. 「あした雨が降れば船は出ないだろう」と言うとき、「降れば」のところをどのように言いますか。
a. フレバ b. フッタラ c. フルト d. フルナラ e. フルギー f. その他()
13. 「そっちへ行ってはいけな」と言うとき、「行っては」のところをどのように言いますか。
a. イッテワ b. イッチャ c. イッタラ d. イケバ e. イクト f. イクギー g. その他()
14. 「熱がかなりあるので今日の授業は休まなければならない」と言うとき、「休まなければなら」のところをどのように言いますか。
a. ヤスマナケレバナラナイ b. ヤスムヨーダ c. ヤスマナクチャナラナイ d. ヤスマナアカン e. その他()
15. 「うちの孫は一人で着物を着ることができる」と言うとき、「着ることができる」のところをどのように言いますか。
a. キラレル b. キレル c. ヨーキル d. キキル e. キガナル f. キレレル g. その他()
16. 「早起きなので朝5時でも起きることができる」と言うとき、「起きることができる」のところをどのように言いますか。
a. オキラレル b. オキレル c. ヨーオキル d. オキキル e. オキガナル f. オキレレル g. その他()
17. 「英語は得意なので教えることができる」と言うとき、「教えることができる」のところをどのように言いますか。
a. オシエラレル b. オシエレル c. ヨーオシエル d. オシエキル e. オシエガナル f. オシエレレル g. その他()
18. 「うちの孫はまだ一人で着物を着ることができない」と言うとき、「着ることができない」のところをどのように言いますか。
a. キラレナイ b. キレナイ c. ヨーキン d. キレレン e. その他()
19. 「早起きではないので朝5時には起きることができない」と言うとき、「起きることができない」のところをどのように言いますか。
a. オキラレナイ b. オキレナイ c. ヨーオキン d. オキレレン e. その他()
20. 「英語は不得意なので教えることができない」と言うとき、「教えることができない」のところをどのように言いますか。
a. オシエラレナイ b. オシエレナイ c. ヨーオシエン d. オシエレン e. その他()

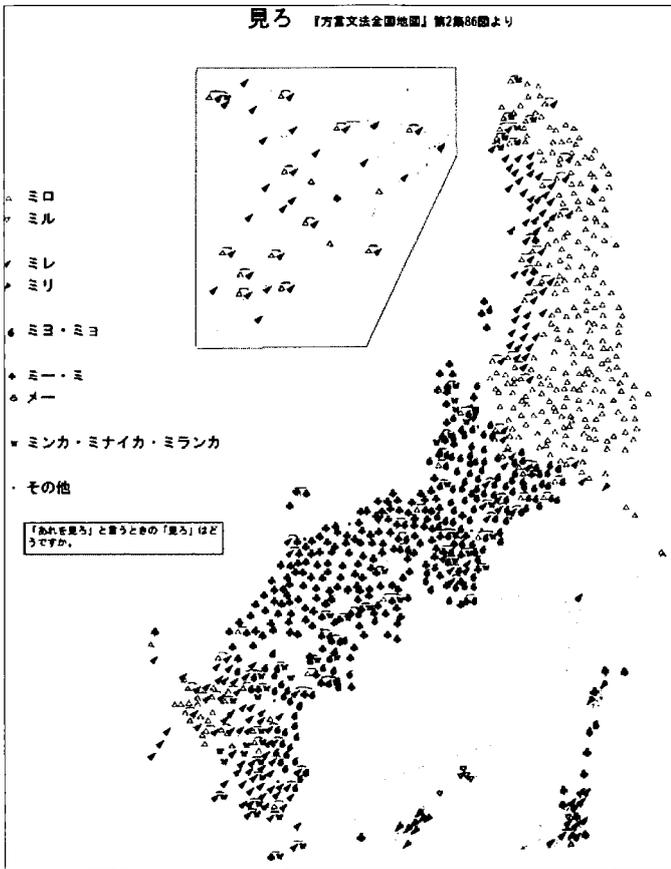
次のページ(もしくは裏面)に続きます

前のページ(もしくは表面)より続きます

御自身のことについておうかがいします。

21. 御自身の生年 (西暦)
22. 性別 (男・女)
23. 御自身が5歳から15歳までの10年間でもっとも長く過ごした市区町村
(政令指定都市の場合は市内の区まで。合併前の旧市町村名でも構いません。)
24. 御自身が5歳から15歳までの10年間で転居した回数
(転居した場所で1年以上過ごした場合を数えて下さい。また、同じ市区町村内での転居は数えなくて構いません。)
25. 現在お住まいの市区町村
(政令指定都市の場合は市内の区まで。合併前の旧市町村名でも構いません。)

- ・回答方法は、下の「回答記載例」を参考にして下さい。
- ・語形の表記はカタカナもしくは平仮名をお願いします。
- ・御回答は、jdmt@kokken.go.jp 宛に、見出し(サブジェクト)を「方言メール 2008 冬」としてお送り下さい。



(サブジェクト・見出し・件名) 方言メール 2008 冬

行頭に質問番号を書き、空白をあけて、回答を書く

- 1 a
- 2 b
- 3 a, b ←複数回答の場合、カンマ「,」でつなぐ
- 4 c
- 5 c
- 6 b
- 7 b, c
- 8 b
- 9 b
- 10 a
- 11 g ヨッテ ←その他の場合には記号に続いて
言い方を仮名で書く
- 12 c
- 13 c
- 14 d
- 15 f
- 16 f
- 17 b
- 18 d
- 19 d
- 20 b
- 21 1988年 ←西暦で
- 22 女
- 23 大阪府大阪市東成区 ←政令指定都市の場合
には市内の区まで
- 24 3回
- 25 埼玉県秩父郡小鹿野町

回答記載例

- ・お礼はできませんが、お寄せいただいたデータを地図化して、ホームページに提示します。ホームページができた段階で、情報をお寄せいただいた方のメールアドレス宛にホームページのアドレスをお知らせします。その際に、調査への継続協力の御希望をうかがいます。
- ・継続の御希望を提示いただいた方には、送信いただいたアドレス宛に、2009年の夏頃、案内のメールをお送りします。
- ・お寄せいただいた情報は研究以外の目的に用いることはありません。
- ・御報告いただいた内容に関して、担当者より電子メールで問い合わせを行う場合がありますので、御了解願います。
- ・個人名やメールアドレス等の情報は、保護され、外部には一切公開いたしません。

執筆者一覧

大西拓一郎（国立国語研究所 時空間変異研究系，教授）
鍵水兼貴（国立国語研究所 時空間変異研究系，プロジェクト特別研究員）
三井はるみ（国立国語研究所 理論・構造研究系，助教）
吉田雅子（国立国語研究所 時空間変異研究系，プロジェクト奨励研究員）

国立国語研究所共同研究報告10-02

方言の形成過程解明のための全国方言調査 方言メール調査報告書

2011年3月31日発行

著者 大西拓一郎 鍵水兼貴 三井はるみ 吉田雅子
発行 大学共同利用機関法人 人間文化研究機構
国立国語研究所
〒190-8561 東京都立川市緑町10-2
電話 042(540)4300 (代表)
<http://www.ninjal.ac.jp/>

©国立国語研究所
ISBN 978-4-906055-09-8

ISSN 2185-0127

Field Research Project to Analyze the Formation Process of Japanese Dialects
E-mail-based Survey of Dialect Distributions

Takuichiro Onishi
Kanetaka Yarimizu
Harumi Mitsui
Noriko Yoshida

March 2011